ISSN 1346-3314
2023.6 No.184

公庫レポート

◇コロナ禍からの再始動に向けた日本人・訪日外国人の沖縄旅行に関する調査

第一部 コロナ禍における日本人の沖縄旅行に関する調査（2022年版）

第二部 訪日外国人旅行者のサステナブルツーリズムへの意向と沖縄観光について

沖縄振興開発金融公庫
THE OKINAWA DEVELOPMENT FINANCE CORPORATION

コロナ禍からの再始動に向けた日本人・訪日外国人の沖縄旅行に関する調査

＜目次＞

第一部　コロナ禍における日本人の沖縄旅行に関する調査（2022 年版）
第 1 章　調査要領.....1
1.　調査の目的.....1
2.　調査概要.....1
（参考）国内宿泊観光・レクリエーション延べ旅行者数の推移.....2
（参考）沖縄県入域観光客数（国内客）の推移.....2
第 2 章　調査要旨.....3
第 3 章　沖縄旅行実施者及び国内旅行者全体の動向.....6
1.　旅行者の属性と旅行内容.....6
(1)　回答者属性.....6
(2)　居住地.....7
(3)　同行者.....9
(4)　予約時期.....10
(5)　旅行形態.....11
(6)　旅行先での交通手段.....12
(7)　宿泊数.....13
(8)　宿泊施設.....14
(9)　現地で楽しんだ活動、現地ツアー等の参加率.....15
(10)　旅行費用.....17
(11)　来訪経験.....18
(12)　他検討先.....19
2.　満足度と再来訪意向.....20
(1)　総合満足度.....20
(2)　再来訪意向.....21
3.　コロナ禍における旅行意識・行動.....22
(1)　実施した旅行へのコロナ禍の影響.....22
(2)　旅行実施にあたっての気持ち.....23
(3)　実施した旅行の感想.....24
(4)　旅行中の感染対策.....25
(5)　旅行先選択で重視した点.....26
（参考）今後も続けてほしい感染対策.....27
（参考）地域住民の観光に対する思い.....28

第４章　沖縄旅行意向者の特徴・ニーズ.....30
1.　沖縄旅行意向者の属性.....30
(1)　性別・年代.....30
(2)　居住地.....30
(3)　ライフステージ.....31
(4)　世帯収入.....31
(5)　旅行頻度.....31
2.　沖縄旅行意向者のニーズ.....32
(1)　旅行の動機.....32
(2)　今後１～２年の間に行ってみたい旅行タイプ.....33
(3)　旅行タイプ別の今後１～２年の間に行ってみたい旅行先.....34
第５章　沖縄に求められる取組・視点.....36

第二部　訪日外国人旅行者のサステナブルツーリズムへの意向と沖縄観光について

第１章　調査背景と目的.....37
第２章　調査要旨.....39
第３章　サステナブルツーリズムに関する意識・意向調査.....40
1.　サステナブルツーリズムの定義から考察する沖縄を取り巻く課題.....40
2.　日本と他国のサステナブルの意識・取組状況について（他機関調査より）.....47
3.　DBJ・JTBF 訪日外国人旅行者調査からみた沖縄訪問希望者のサステナブルな取組に対する意向.....54
4.　「サステナブルな取組」の可視化に関する事例.....63
第４章　まとめ（沖縄に求められる取組とは）.....68

第一部

第一部　コロナ禍における日本人の沖縄旅行に関する調査（2022 年版）

第 1 章　調査要領

1.　調査の目的

新型コロナウイルス感染症は、2022 年に入りデルタ株からオミクロン株 BA.1 系統に、その後 BA.2 系統、BA.5 系統へと置き換わった。オミクロン株は、潜伏期間が短くかつ感染力が高いことから、急速に感染拡大し、8 月に感染者数のピークを迎えた。9 月以降は減少傾向にあったものの、その後、第 8 波で再び感染が拡大するなど、感染の拡大・縮小を繰り返している。

沖縄への観光客数は訪日外国客がゼロの影響が大きく、コロナ禍以前の 2019 年と比べると大きく下回っている。しかしながら、2022 年 10 月 11 日から全国旅行支援が再開されたこともあり、国内客については 10～12 月は 2019 年同月を上回るまでに回復した。訪日外国客についても、10 月から入国制限が緩和されたことなどから、今後は大幅な回復が期待されよう。

当公庫では、2020 年度より公益財団法人日本交通公社（以下、「JTBF」という）が実施している「JTBF 旅行意識調査」及び「JTBF 旅行実態調査」を基に、沖縄を訪問した・又は訪問意向のある日本人旅行者の特徴やニーズに関する調査分析を行い、コロナ禍において沖縄が取り組むべき事項を提言している。今年度は、コロナ禍からの再始動に向けて、受入側の沖縄に求められる取組等について行政及び民間事業者へ情報提供を行うことを目的として実施した。

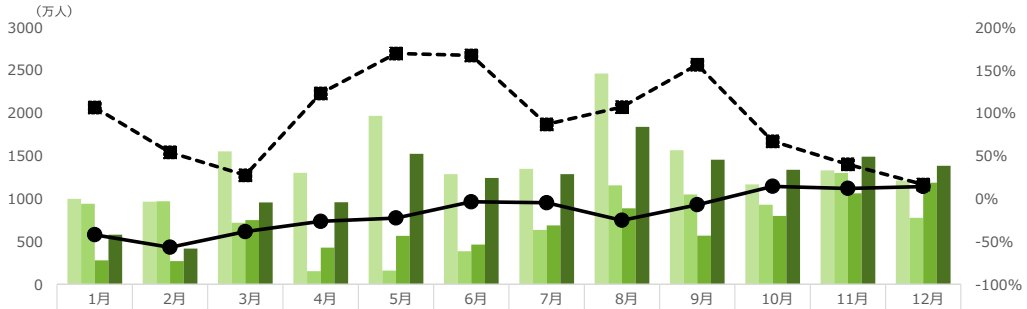
2.　調査概要

＜2022 年度調査＞

<table>
<tr><th rowspan="2">調査名</th><th colspan="2">JTBF 旅行実態調査</th><th rowspan="2">JTBF 旅行意識調査</th></tr>
<tr><th>全体調査</th><th>トリップ調査
国内宿泊観光旅行*1</th></tr>
<tr><td>調査項目</td><td colspan="2">主に、旅行の内容</td><td>主に、旅行に対する意識</td></tr>
<tr><td rowspan="2">調査対象</td><td colspan="2">全国 16～79 歳の男女
調査会社のパネルより抽出*2</td><td rowspan="2">全国 18～79 歳の男女
調査会社のパネルより抽出*3</td></tr>
<tr><td>－</td><td>期間中に観光・レクリエーション旅行を実施した人</td></tr>
<tr><td>調査方法</td><td colspan="2">ウェブ調査</td><td>郵送自記式調査</td></tr>
<tr><td>調査時期</td><td colspan="2">第 1 回：2022/4/25～5/9
第 2 回：2022/7/1～7
第 3 回：2022/10/1～6</td><td>2022/5/13～6/8</td></tr>
<tr><td>標本の大きさ（人）
／
トリップ数*4（件）</td><td>各回 20,000</td><td>第 1 回：1,000／1,448
第 2 回：1,000／1,438
第 3 回：1,000／1,471</td><td>1,413</td></tr>
</table>

*1：海外観光旅行も調査対象としているが、海外観光旅行実施票を十分に得られなかったため、今回の分析対象からは除外した。
*2：国勢調査時の人口（地域・性別・年代）に基づき、調査会社のモニターを割り当てた。
*3：国勢調査時の人口に基づき、住宅地図データベースから世帯を抽出して個人を割り当てた。
*4：トリップ数は旅行回数を指す。例えば、期間中に 1 人が 2 回旅行に行った場合は、標本の大きさは 1 人、トリップ数は 2 件となる。
※比較対象とした 2019～2021 年も、概ね同時期に同規模で調査を実施（旅行実態調査は第 4 回調査を 2023 年 1 月に実施）。

（参考）国内宿泊観光・レクリエーション延べ旅行者数の推移

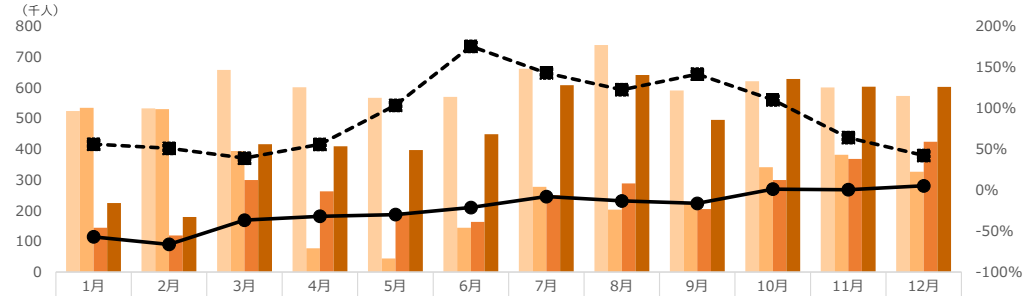


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	999	966	1,554	1,303	1,968	1,289	1,350	2,463	1,568	1,169	1,332	1,212
2020年	940	970	720	154	161	387	634	1,157	1,051	931	1,300	777
2021年	280	271	751	430	566	465	689	889	568	800	1,064	1,189
2022年	579	418	957	958	1,525	1,243	1,288	1,841	1,457	1,338	1,492	1,386
前年同月比	106.7%	54.2%	27.5%	123.1%	169.6%	167.5%	86.9%	107.1%	156.5%	67.2%	40.2%	16.6%
2019年同月比	-42.0%	-56.7%	-38.4%	-26.4%	-22.5%	-3.5%	-4.6%	-25.3%	-7.1%	14.5%	12.0%	14.3%

2019年　2020年　2021年　2022年　前年同月比　2019年同月比

出典：観光庁「旅行・観光消費動向調査（2022 年 1-9 月:確報、10-12 月:速報）」（2023 年 2 月 20 日時点）より JTBF 作成

（参考）沖縄県入域観光客数（国内客）の推移



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2019年	523.7	532.1	657.4	601.1	566.5	569.8	660.8	738.3	590.6	620.8	600.1	572.7
2020年	534.3	529.9	393.9	77.3	44.0	144.1	277.3	202.8	227.6	341.2	381.1	326.2
2021年	144.0	118.8	299.2	262.6	195.2	162.9	250.4	288.2	204.9	299.0	368.0	423.6
2022年	224.6	179.2	415.7	409.0	396.8	448.5	607.8	640.7	494.7	628.0	602.9	602.2
前年同月比	56.0%	50.8%	38.9%	55.8%	103.3%	175.3%	142.7%	122.3%	141.4%	110.0%	63.8%	42.2%
2019年同月比	-57.1%	-66.3%	-36.8%	-32.0%	-30.0%	-21.3%	-8.0%	-13.2%	-16.2%	1.2%	0.5%	5.2%

2019年　2020年　2021年　2022年　前年同月比　2019年同月比

出典：沖縄県「入域観光客数概況」（2023 年 1 月 24 日時点）より JTBF 作成

第 2 章　調査要旨

沖縄への観光客数は訪日外国客がゼロの影響が大きく、コロナ禍以前の 2019 年と比べると大きく下回っている。新型コロナウイルス感染症は、感染の拡大・縮小を繰り返しているが、2022 年 10 月11日から全国旅行支援が再開されたこともあり、国内客については 10～12 月は 2019 年同月を上回るまでに回復した。訪日外国客についても、10 月から入国制限が緩和されたことなどから、今後は大幅な回復が期待されよう。

当公庫では、昨年度に引き続き、公益財団法人日本交通公社（以下、「JTBF」という）が実施している「JTBF 旅行意識調査」及び「JTBF 旅行実態調査」を基に、沖縄を訪問した・又は訪問意向のある日本人旅行者の特徴やニーズを分析し、コロナ禍からの再始動に向けて受入側の沖縄に求められる取組等をとりまとめた。

Ⅰ．2022 年の沖縄旅行実施者及び国内旅行者全体の動向

コロナ禍前の旅行実施に戻りつつあるものの、感染対策を意識する行動は定着している。地域住民の観光客受け入れ意向は回復基調にあるが、「あまり来て欲しくない」という層も一定数みられる。

1．旅行者の属性と旅行内容、満足度

◎同行者

- コロナ禍では、特に家族連れは公共交通を回避する傾向が強かったことなどから、飛行機利用がほぼ必須となる沖縄旅行における同行者は『子供連れ家族』が減少、『ひとり』が増加していたが、自粛や接触回避のマインドが緩和してきたこともあり、『子供連れ家族』の割合はコロナ禍前の水準と同程度となった。
- 全国的には『友人や知人』は減少傾向にあるが、沖縄では、コロナ禍前及び前年同期と比べて増加した。

◎居住地

- コロナ禍の特徴である域内旅行の増加は、落ち着きつつあるものの底上げされたまま継続しており、沖縄においても県内旅行は一定程度定着した。

◎旅行形態／予約時期

- コロナ禍においては、感染状況が見通せないこと、状況に応じて柔軟に対応する必要があることなどから、旅行内容を自らアレンジしやすい『個人手配』で、『出発日に近づいてから予約』する傾向にあり、2022 年に入ってもこの傾向は続いた。

◎交通手段

- 全国ではコロナ禍前に比べて『列車（モノレール含む）』や『路線バス』が減少したが、沖縄では微増した。沖縄では観光需要の回復にレンタカーの供給が追いつかず、レンタカーが不足する状態が続いたことも影響していると考えられる。

◎現地での活動

- コロナ禍で減少が続いていた『まち歩き』、『ショッピング』、『歴史・文化的な名所の訪問』、『観

光施設・水族館等』が増加に転じた。

・ しかしながら、現地ツアー等の参加率は低い水準が続き、特に沖縄の落ち込みは大きい。

◎満足度／再来訪意向

・ 沖縄旅行における『大変満足』の割合は全国に比べて高い水準にあるものの、不満層の割合は全国を上回った。

・ また、沖縄旅行の再来訪意向も全国に比べると高い水準であるものの、前年と比べて低下しており、来訪経験別では、初来訪者の来訪意向は高まった一方で、リピーターの来訪意向が低下した。

2．コロナ禍における旅行意識・行動

◎コロナ禍による旅行への影響

・ コロナ禍による旅行への影響は徐々に弱まっており、沖縄・全国ともに『コロナに対する不安は感じなかった』『心配しても仕方ない』といった回答が多いが、『旅行して良いのか迷った』、『キャンセル料が嫌』との回答が多いのは沖縄旅行の特徴。

◎旅行実施の感想

・ 沖縄・全国ともに『混雑がなく快適』が最も多いものの、前年と比べると大幅に減少した。その一方で、『旅行が自分にとって重要なことを再確認した』が全国的に増加。特に、沖縄での増加幅が大きい。

◎旅行先選択で重視した点

・ 沖縄旅行にあたって重視した点は『あまり人が密集しないような地域であること』、『各施設の感染対策が徹底されていること』。

◎旅行中の感染対策

・ 沖縄・全国ともに『マスクの着用』は高い実施率が続いているが、多くの項目において低下した。

◎受入側に今後も続けて欲しい感染対策

・ 『手指消毒剤の設置』及び『混雑状況の見える化』を過半数が望んだ。

・ 回答傾向は年代によって異なり、20 代は『混雑状況の見える化』を望む声が最多となった一方、60～70 代は『ソーシャルディスタンスをとった座席配置』や『マスク着用の推奨』を望む声が他年代より大きい。

◎地域住民の観光に対する思い

・ 沖縄県居住者・日本全体ともに徐々に観光客の受け入れ意向が回復傾向にあり、沖縄県居住者にその傾向がより強い。一方、来て欲しくない意向のある層（「あまり来て欲しくない」＋「来て欲しくない」）も日本全体と同程度に一定の割合で存在する。また、来てほしくない意向のある層は、沖縄県居住者・日本全体ともに高年齢者に多い。

Ⅱ．2022 年の沖縄旅行意向者の特徴・ニーズ

沖縄旅行意向者の旅行動機は、“日常からの解放”が最も多く、コロナ禍でその傾向が強くなった。コロナ禍では、世帯年収の高い層の比率が高まり、希望する旅行のタイプは、“海浜リゾート”に関連するものが多く挙げられていることから、コロナ禍で海外旅行から振り替える動きがあったものと推察される。

◎属性

・ 全体に比べて『20～40 代』、『子育て世代』、『関東』の比率が高く、この傾向はコロナ禍前・前年から変わらない。世帯年収は、コロナ禍において『1,000 万円以上』の比率が高まり、その傾向が続く。コロナ禍では海外への旅行が困難な状況であったことから、高所得者層には、海外旅行から沖縄旅行に振り替える動きがあったものと考えられる。

◎旅行動機

・ 2020 年以降、『日常生活からの解放』が継続して最も多く、コロナ禍においてその傾向が強くなっている。

◎今後 1～2 年の間に行ってみたい旅行タイプ

・ トップは『海浜リゾート』、他地域と比較して沖縄に求めるものは『離島観光』や『マリンスポーツ』など海浜リゾート関連が上位となり、前年から傾向は変わらない。旅行タイプ別の行ってみたい旅行先として、コロナ禍前の 2019 年及び前年と比べて沖縄県のシェアが高まったのは、『マリンスポーツ』、『ロングステイ』、『自然観光』、『海浜リゾート』であった。この理由としては、コロナ禍において海外のシェアが縮小したことが考えられる。

Ⅲ．沖縄に求められる取組・視点

今回の調査結果を踏まえ、コロナ禍からの観光再始動に向けて受入側の沖縄には以下の取組が重要になると考えられる。

1．ポストコロナ時代の感染症対策への対応
　→新型コロナウイルスとの共存を前提とした感染対策への対応
2．地域との調和
　→地域住民に受け入れられる観光の実現
3．質の高い体験型観光の促進
　→沖縄の観光資源を守りつつ満足度の高い体験プログラムの提供

以上

第 3 章　沖縄旅行実施者及び国内旅行者全体の動向

本章では、沖縄及び国内全体のコロナ流行下における旅行動向を把握するため、コロナ禍前の 2019 年、コロナ禍の 2020 年、2021 年、2022 年（第三四半期まで）の旅行内容の比較分析、コロナ禍の旅行意識・行動に関する分析を行う。

なお、2019 年～2021 年は年間値、2022 年は 1-9 月期値であり、対象期間が異なるため、直接比較できない点に留意されたい。

1.　旅行者の属性と旅行内容

(1) 回答者属性

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=443)	2020年 (n=249)	2021年 (n=183)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
性別	男性	60.4	52.9	54.1	**55.3**	4.8	52.7	53.0	51.4	**50.4**
	女性	39.6	47.1	45.9	**44.7**	-4.8	47.3	47.0	48.6	**49.6**
年代	10代	4.7	2.3	2.8	**0.9**	-0.3	4.4	4.0	4.1	**1.2**
	20代	18.0	19.0	7.2	**22.8**	10.0	14.1	14.0	13.0	**12.8**
	30代	18.7	15.6	17.1	**21.9**	7.9	15.7	14.7	14.5	**14.0**
	40代	21.6	22.4	24.9	**12.3**	-6.5	19.4	19.2	18.6	**18.8**
	50代	15.3	17.5	20.4	**10.5**	-7.6	15.3	16.7	16.4	**18.1**
	60代	14.2	14.1	21.0	**19.3**	1.9	17.4	16.5	17.4	**17.4**
	70代	7.6	9.1	6.6	**12.3**	-5.5	13.8	14.9	16.1	**17.8**

(参考)　(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
性別	男性	62.0	51.9	55.2	**55.3**	0.0	52.7	53.5	51.6	**50.4**	-1.1
	女性	38.0	48.1	44.8	**44.7**	-0.0	47.3	46.5	48.4	**49.6**	1.1
年代	10代	4.6	1.9	3.7	**0.9**	-2.9	4.4	4.0	4.4	**1.2**	-3.2
	20代	17.7	16.8	7.5	**22.8**	15.3	14.2	14.6	12.7	**12.8**	0.1
	30代	19.7	16.3	20.1	**21.9**	1.8	15.9	14.9	14.4	**14.0**	-0.4
	40代	22.6	22.6	26.9	**12.3**	-14.6	19.4	19.4	18.4	**18.8**	0.3
	50代	14.8	17.3	21.6	**10.5**	-11.1	14.9	16.4	16.5	**18.1**	1.6
	60代	13.0	15.9	17.2	**19.3**	2.1	17.4	16.2	17.2	**17.4**	0.2
	70代	7.5	9.1	3.0	**12.3**	9.3	13.9	14.5	16.4	**17.8**	1.3

(2) 居住地

- 沖縄旅行者の居住地は、コロナ禍前も、コロナ禍においても、『関東』が最多となった。コロナ禍の特徴としては『沖縄県内』割合の増加が挙げられる。沖縄県では、4 回にわたって沖縄県民の県内旅行を割引支援する「おきなわ彩発見キャンペーン」が実施され、2022 年 1-9 月期においても沖縄県民が 2 割を占めた。
- 全国的にみると、初めての緊急事態が発出された 2020 年 4 月頃から、すべての地域において域内旅行比率が高まった。2021 年に入ると、北海道・東北や九州・沖縄では微減傾向にあるものの、比較的高い水準で推移。それに対し、関東や関西では 2020 年 5～6 月をピークに減少した。2022 年に入ると、減少傾向は続くものの、コロナ禍前に比べると、域内旅行割合は底上げされたまま継続しており、近隣旅行は一定程度定着した。

(%)

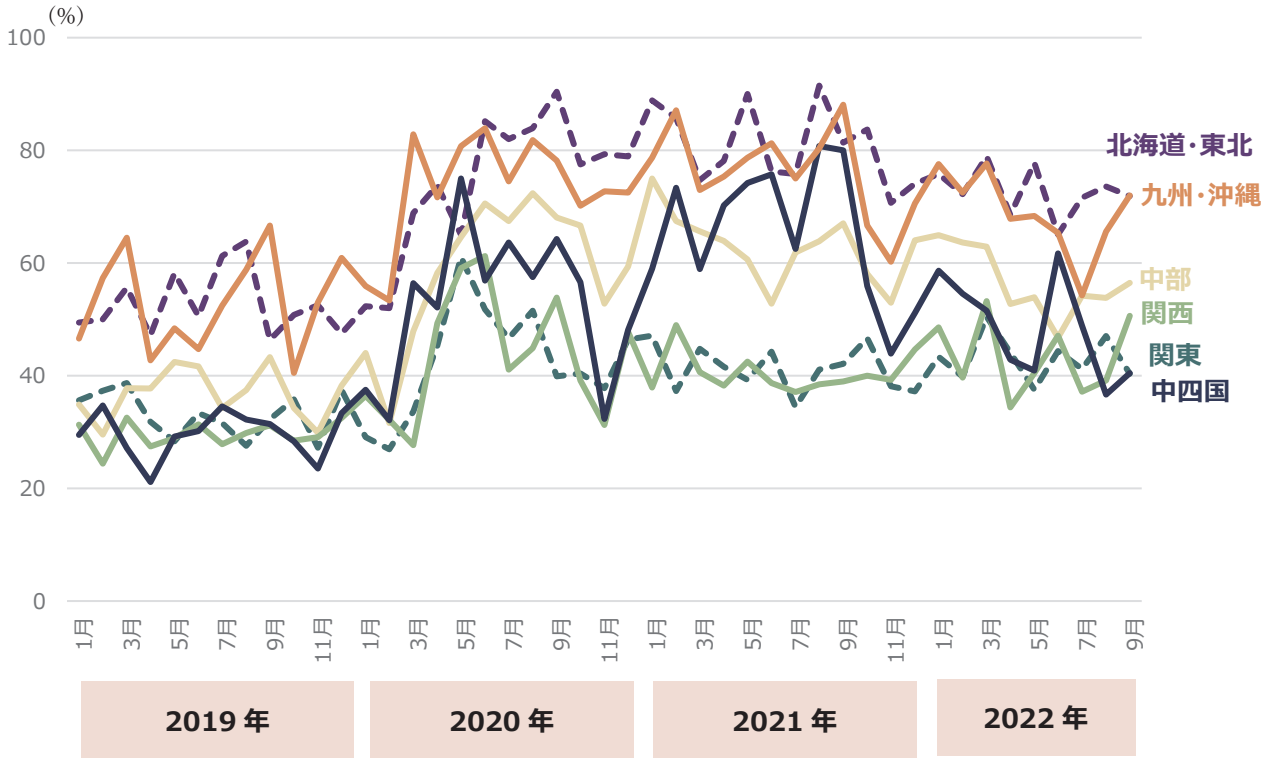
		沖縄県					全国			
		2019年 (n=443)	2020年 (n=249)	2021年 (n=183)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
居住地	北海道	4.1	2.7	4.5	**1.8**	-2.4	4.2	4.1	4.4	**4.1**
	東北	3.3	1.7	0.5	**2.6**	-4.7	7.6	6.9	7.2	**7.3**
	関東	37.2	40.5	38.0	**34.2**	-1.2	35.0	35.5	35.7	**35.4**
	中部	16.9	8.3	13.2	**14.9**	-3.3	18.1	18.0	18.1	**18.2**
	近畿	14.9	13.5	9.2	**17.5**	1.7	16.3	16.6	16.2	**15.9**
	中四国	8.4	4.7	8.3	**6.1**	-1.2	7.7	7.3	7.2	**7.3**
	九州	8.9	13.8	5.9	**4.4**	-6.1	10.1	10.5	10.2	**10.5**
	沖縄県内	6.2	14.8	20.3	**18.4**	17.2	1.0	1.0	1.2	**1.2**

(参考)

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
居住地	北海道	3.5	1.4	6.7	**1.8**	-5.0	4.3	4.2	4.4	**4.1**	-0.3
	東北	3.2	2.9	0.7	**2.6**	1.9	7.5	6.9	7.3	**7.3**	0.1
	関東	36.8	38.9	38.1	**34.2**	-3.8	34.8	35.3	36.1	**35.4**	-0.8
	中部	17.1	11.1	11.9	**14.9**	3.0	18.1	17.9	17.3	**18.2**	0.9
	近畿	15.7	14.4	14.2	**17.5**	3.4	16.7	16.5	16.4	**15.9**	-0.6
	中四国	8.7	4.8	3.7	**6.1**	2.4	7.6	7.6	7.4	**7.3**	-0.0
	九州	9.0	15.9	5.2	**4.4**	-0.8	10.0	10.7	10.0	**10.5**	0.5
	沖縄県内	6.1	10.6	19.4	**18.4**	-1.0	1.1	0.9	1.1	**1.2**	0.2

（参考）域内旅行割合の推移



(3) 同行者

- 2022 年 1-9 月の沖縄旅行の同行者は『夫婦』が最も多く、『友人や知人』、『ひとり』が続く。沖縄旅行は、全国と比べて『夫婦』の割合が低く、『友人や知人』が高いのが特徴。また、コロナ禍前に比べ、この特徴が顕著に表れた。全国的には『友人や知人』は減少傾向にあるが、沖縄では、コロナ禍前及び前年同期と比べて増加した。
- 2019 年～2021 年をみると、コロナ禍の沖縄旅行では『子供連れ家族』が減少、『ひとり』が増加した。この傾向は、全国的にはみられなかったことから、沖縄旅行の特徴と言える。この要因としては、コロナ禍では『子供連れ家族』は不特定多数との接触回避から飛行機などの公共交通を避ける傾向にあったが、『ひとり』は元々公共交通機関利用が多く、自分ひとりならさほど厭わないという思いから、家族旅行ほどには回避する方向に働かなかったものと考えられる。自粛や接触回避のマインドが緩和してきたこともあり、2022 年 1-9 月においては、『子供連れ家族』はコロナ禍前の水準と同程度となった。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=443)	2020年 (n=249)	2021年 (n=183)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
同行者	子供連れ家族（小中高生連れ）	14.7	11.6	11.8	**14.9**	2.3	11.7	11.1	12.4	**12.6**
	子供連れ家族（乳幼児連れ）	8.5	3.8	3.6	**8.8**	3.0	5.7	5.4	5.6	**5.8**
	大人のみ家族	9.4	4.4	7.1	**7.0**	-4.4	10.3	11.4	10.8	**11.4**
	夫婦	24.5	27.8	25.1	**22.8**	-6.3	26.4	29.1	27.6	**29.1**
	カップル	9.6	12.8	12.9	**7.9**	-0.3	9.3	10.0	11.1	**8.2**
	友人や知人	18.1	18.0	12.3	**18.4**	5.0	17.8	16.1	14.3	**13.4**
	自分ひとり	14.2	20.6	25.6	**17.5**	-0.4	16.9	15.4	16.6	**17.9**
	その他	0.9	1.0	1.6	**2.6**	1.0	2.0	1.4	1.6	**1.6**

（参考）

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
同行者	子供連れ家族（小中高生連れ）	13.0	11.5	10.4	**14.9**	4.5	11.5	11.2	12.4	**12.6**	0.2
	子供連れ家族（乳幼児連れ）	9.6	4.3	3.0	**8.8**	5.8	5.8	5.5	5.3	**5.8**	0.4
	大人のみ家族	10.1	5.3	11.2	**7.0**	-4.2	10.2	11.2	10.3	**11.4**	1.1
	夫婦	24.6	28.4	19.4	**22.8**	3.4	26.4	27.2	27.9	**29.1**	1.2
	カップル	9.9	11.1	14.9	**7.9**	-7.0	9.4	10.6	11.3	**8.2**	-3.1
	友人や知人	16.5	17.3	10.4	**18.4**	8.0	17.9	16.4	14.3	**13.4**	-0.9
	自分ひとり	15.9	20.7	30.6	**17.5**	-13.1	16.9	16.6	17.2	**17.9**	0.7
	その他	0.3	1.4	0.0	**2.6**	2.6	1.9	1.3	1.2	**1.6**	0.4

(4) 予約時期

- 2022 年 1-9 月の沖縄旅行の予約時期は『1 か月前まで』が 6 割強を占めており、全国と比べて予約時期が早い傾向にあった。沖縄旅行の予約時期が早いという傾向は、コロナ禍前から変わらない。
- 2019 年～2021 年をみると、コロナ禍においては感染状況が見通せないこともあり、沖縄・全国ともにコロナ禍前に比べて予約時期が遅くなり、出発日に近づいてから予約する傾向が続いた。沖縄では、2022 年 1-9 月期においても、前年同期と比べて 1 か月を切ってからの予約が増えている。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=436)	2020年 (n=259)	2021年 (n=175)	**2022年 1-9月 (n=112)**	沖縄-全国	2019年 (n=8953)	2020年 (n=6286)	2021年 (n=5595)	**2022年 1-9月 (n=4217)**
予約時期	1年以上前	1.6	2.3	1.7	**0.9**	0.4	1.4	1.0	1.0	**0.5**
	半年～1年前	14.7	15.4	9.1	**14.3**	10.4	7.6	5.9	3.8	**3.9**
	3～5か月前	32.8	24.7	20.6	**22.3**	8.3	22.1	15.2	12.6	**14.0**
	1～2か月前	32.8	32.0	38.3	**26.8**	-6.4	34.5	29.1	30.5	**33.2**
	3～4週間前	8.7	13.9	13.7	**18.8**	-0.1	15.0	17.7	18.5	**18.9**
	1～2週間前	5.5	6.9	11.4	**11.6**	-6.2	11.5	18.0	19.9	**17.8**
	6日前～出発後	3.9	4.6	5.1	**5.4**	-6.4	8.0	13.0	13.7	**11.8**
	1か月前まで	81.9	74.5	69.7	**64.3**	12.8	65.5	51.2	47.9	**51.5**
	1か月を切ってから	18.1	25.5	30.3	**35.7**	-12.8	34.5	48.8	52.1	**48.5**

(参考)

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=337)	2020年 1-9月 (n=206)	2021年 1-9月 (n=131)	**2022年 1-9月 (n=112)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6641)	2020年 1-9月 (n=4817)	2021年 1-9月 (n=4099)	**2022年 1-9月 (n=4217)**	2022-2021
予約時期	1年以上前	2.1	1.9	2.3	**0.9**	-1.4	1.4	1.0	1.0	**0.5**	-0.6
	半年～1年前	13.4	18.4	9.9	**14.3**	4.4	7.6	5.9	3.8	**3.9**	0.1
	3～5か月前	32.3	25.7	25.2	**22.3**	-2.9	22.1	15.2	12.6	**14.0**	1.4
	1～2か月前	32.3	28.6	35.9	**26.8**	-9.1	34.5	29.1	30.5	**33.2**	2.7
	3～4週間前	8.9	12.6	14.5	**18.8**	4.2	15.0	17.7	18.5	**18.9**	0.4
	1～2週間前	6.5	6.8	8.4	**11.6**	3.2	11.5	18.0	19.9	**17.8**	-2.0
	6日前～出発後	4.5	5.8	3.8	**5.4**	1.5	8.0	13.0	13.7	**11.8**	-1.9
	1か月前まで	80.1	74.8	73.3	**64.3**	-9.0	65.5	51.2	47.9	**51.5**	3.6
	1か月を切ってから	19.9	25.2	26.7	**35.7**	9.0	34.5	48.8	52.1	**48.5**	-3.6

(5) 旅行形態

- 2022 年 1-9 月の旅行形態をみると、沖縄旅行において『個人手配』は 7 割強を占めるものの、全国の 9 割に比べて低位にとどまる。沖縄の特徴は、飛行機移動がほぼ必須なため、『パッケージ旅行』や『団体型ツアー旅行』が全国に比して多いことであり、この傾向は、コロナ禍前も今も変わらない。
- 2019 年～2021 年をみると、沖縄・全国ともに『個人手配』が大幅に増加した。コロナ禍においては感染状況等に応じて柔軟に対応する必要があることから、旅行内容を自らアレンジでき、柔軟に対応しやすい形態が選好された結果と言えるであろう。2022 年 1-9 月期においても、沖縄・全国ともに、『個人手配』の割合は、前年同期と同程度であった。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=443)	2020年 (n=249)	2021年 (n=183)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
旅行形態	個人手配	52.2	62.0	73.5	**72.8**	-16.5	77.5	83.0	90.8	**89.3**
	パッケージ旅行	30.9	30.0	23.2	**19.3**	12.5	13.4	11.5	6.6	**6.8**
	団体型ツアー参加	16.9	8.0	3.3	**7.9**	4.0	9.1	5.5	2.6	**3.9**

(参考)

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
旅行形態	個人手配	52.5	62.0	74.6	**72.8**	-1.8	77.9	83.3	91.6	**89.3**	-2.3
	パッケージ旅行	30.4	30.3	23.1	**19.3**	-3.8	13.3	11.5	6.2	**6.8**	0.6
	団体型ツアー参加	17.1	7.7	2.2	**7.9**	5.7	8.8	5.2	2.2	**3.9**	1.8

(6) 旅行先での交通手段【複数回答】

- 2022年1-9月の旅行先での交通手段をみると、沖縄では『レンタカー』が過半数を占め、『飛行機』、『列車（モノレール含む）』、『自家用車』、『路線バス』、『タクシー・ハイヤー』が 1 割台で続いた。一方、全国においては『自家用車』が約半数を占め、次いで『列車』、『路線バス』であった。『レンタカー』及び『飛行機』が多いことは、コロナ禍前からの沖縄旅行の特徴である。
- コロナ禍においては不特定多数との接触が回避されたこと、都道府県や市町村がキャンペーンを行うなど近隣旅行・県内旅行が推奨されたことなどにともない、沖縄・全国ともに『自家用車』が増加した。この傾向は、特に全国で顕著であった。沖縄旅行で最も多い交通手段である『レンタカー』はコロナ禍前に比べると減少しているものの、コロナ禍においても過半数を割ることはなかった。その一方で、全国ではコロナ禍前に比べて『列車』や『路線バス』が減少したが、沖縄では微増した。沖縄では観光需要の回復にレンタカーの供給が追いつかず、レンタカーが不足する状態が続いたことも影響していると考えられる。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=443)	2020年 (n=249)	2021年 (n=183)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
旅行先での交通手段	レンタカー	60.8	51.5	58.8	**52.6**	43.4	13.6	10.9	9.7	**9.3**
	飛行機	30.5	24.1	12.2	**19.3**	17.0	8.1	4.2	2.1	**2.2**
	列車（モノレール含む）	13.7	17.7	16.7	**18.4**	-5.1	29.7	21.1	20.4	**23.5**
	自家用車	7.8	16.1	10.4	**17.5**	-30.2	37.5	46.5	49.3	**47.8**
	路線バス	9.6	16.8	12.4	**12.3**	1.9	14.1	11.1	9.4	**10.4**
	タクシー・ハイヤー	16.0	13.1	9.0	**11.4**	5.8	8.5	5.8	4.9	**5.6**
	船	7.3	7.6	6.0	**7.9**	5.5	2.9	2.3	2.0	**2.4**
	貸切・定期観光バス	7.2	5.1	4.4	**5.3**	1.8	7.3	4.4	2.4	**3.5**
	観光客向け巡回バスなど	5.1	2.4	1.0	**3.5**	1.3	3.9	2.9	1.8	**2.2**
	レンタサイクル	4.1	1.3	1.9	**0.0**	-1.1	1.4	1.1	0.8	**1.1**
	その他	0.9	2.4	1.4	**1.8**	0.9	1.1	1.3	0.9	**0.8**
	利用なし	1.4	1.9	4.1	**3.5**	-9.2	7.2	13.2	14.4	**12.7**

（参考）

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
旅行先での交通手段	レンタカー	62.3	53.8	54.5	**52.6**	-1.8	14.1	11.1	10.3	**9.3**	-1.0
	飛行機	30.7	26.9	16.4	**19.3**	2.9	8.5	5.4	2.3	**2.2**	-0.0
	列車（モノレール含む）	12.5	17.3	16.4	**18.4**	2.0	29.6	21.8	17.8	**23.5**	5.8
	自家用車	7.0	12.5	11.9	**17.5**	5.6	36.9	46.9	50.9	**47.8**	-3.1
	路線バス	9.6	16.3	15.7	**12.3**	-3.4	14.2	11.0	9.1	**10.4**	1.2
	タクシー・ハイヤー	15.4	13.0	9.7	**11.4**	1.7	8.5	6.4	4.2	**5.6**	1.4
	船	6.7	8.2	7.5	**7.9**	0.4	3.1	2.1	1.9	**2.4**	0.5
	貸切・定期観光バス	6.4	3.4	3.7	**5.3**	1.5	7.2	4.1	1.7	**3.5**	1.7
	観光客向け巡回バスなど	5.5	1.9	1.5	**3.5**	2.0	4.1	3.0	1.8	**2.2**	0.4
	レンタサイクル	4.3	1.0	3.0	**0.0**	-3.0	1.4	1.2	0.8	**1.1**	0.3
	その他	1.2	2.9	2.2	**1.8**	-0.5	1.0	1.4	0.9	**0.8**	-0.0
	利用なし	1.2	1.9	3.7	**3.5**	-0.2	7.1	12.1	15.1	**12.7**	-2.4

(7) 宿泊数

- 2022 年 1-9 月の宿泊数をみると、全国では『1 泊』が 6 割を占めるのに対し、沖縄旅行は『3 泊』が最頻値であり、沖縄旅行のほうが、平均宿泊数が 1 泊以上長い。
- 2019 年～2021 年をみると、沖縄・全国ともにコロナ禍前に比べて『1 泊』の割合が増加した。これは、県内・近隣旅行の割合が増加したことも要因のひとつと考えられる。2022 年 1-9 月においてもコロナ前に比べると高い状態は続くものの、沖縄・全国ともに、前年同期に比べて減少した。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=362)	2020年 (n=214)	2021年 (n=165)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
泊数	1泊	10.1	22.0	20.8	**16.7**	-44.6	50.7	62.0	65.8	**61.2**
	2泊	36.4	31.4	28.1	**31.6**	8.5	29.2	22.9	20.1	**23.1**
	3泊	33.3	31.2	23.5	**32.5**	23.5	12.1	8.5	7.6	**9.0**
	4泊	10.5	10.5	11.2	**11.4**	8.3	3.7	3.2	2.7	**3.1**
	5泊以上	9.6	4.8	16.5	**7.9**	4.2	4.4	3.4	3.8	**3.6**
	平均宿泊数	2.80	2.49	2.49	**2.72**	1.04	1.85	1.66	1.62	**1.68**

(参考)

(%)

		沖縄県					全国				
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
泊数	1泊	9.9	18.8	17.2	**16.7**	-0.5	50.5	61.4	66.1	**61.2**	-4.8
	2泊	34.8	37.0	25.4	**31.6**	6.2	29.3	22.4	19.8	**23.1**	3.3
	3泊	32.5	27.9	22.4	**32.5**	10.1	12.1	9.3	7.7	**9.0**	1.3
	4泊	12.2	8.7	10.4	**11.4**	1.0	3.8	3.2	2.7	**3.1**	0.4
	5泊以上	10.7	7.7	24.6	**7.9**	-16.7	4.3	3.8	3.8	**3.6**	-0.1
	平均宿泊数	2.86	2.54	3.21	**2.72**	-0.49	1.85	1.69	1.62	**1.68**	0.1

(8) 宿泊施設【複数回答】

- 2022 年 1-9 月の宿泊施設をみると、全国に比べて沖縄旅行は『ホテル』、特に『リゾートホテル』の割合が高く、半数以上を占める。
- 2019 年～2021 年をみると、コロナ禍前に比べ、沖縄旅行では『リゾートホテル』、全国的には『ビジネスホテル』、『シティホテル』の減少が大きい。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=362)	2020年 (n=214)	2021年 (n=165)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
宿泊施設タイプ	ホテル	88.3	90.8	87.7	**86.0**	26.0	62.2	56.8	55.0	**60.0**
	リゾートホテル	61.6	59.8	53.3	**56.1**	33.3	22.9	23.3	23.3	**22.9**
	ビジネスホテル	16.2	21.7	17.0	**26.3**	4.3	24.3	20.6	19.7	**22.1**
	シティホテル	20.2	14.7	23.9	**15.8**	-2.8	19.4	15.4	14.2	**18.6**
	旅館	3.1	2.5	0.6	**4.4**	-23.7	27.0	31.7	30.4	**28.1**
	比較的規模大	1.9	0.4	0.0	**3.5**	-12.0	16.9	18.3	16.7	**15.5**
	比較的規模小	1.3	2.2	0.6	**0.9**	-12.2	10.8	14.2	14.3	**13.0**
	実家・親戚・知人宅	2.4	1.9	0.3	**7.9**	1.8	7.4	5.2	6.1	**6.1**
	民宿・ﾍﾟﾝｼｮﾝ	8.0	7.1	9.2	**4.4**	1.2	4.2	4.6	3.8	**3.2**
	ゲストハウス	-	-	3.4	**2.6**	1.6	-	-	1.1	**1.0**
	公共の宿	0.2	0.4	0.0	**1.8**	-0.2	1.8	1.6	2.1	**2.0**
	ｷｬﾝﾌﾟ・ｵｰﾄｷｬﾝﾌﾟ	1.7	0.6	1.6	**0.9**	-1.4	1.7	1.9	3.1	**2.3**
	別荘・会員制宿泊施設	2.4	0.8	1.5	**0.0**	-2.5	2.5	2.8	2.5	**2.5**
	民泊	-	-	0.6	**0.0**	-0.5	-	-	0.5	**0.5**
	その他	1.1	3.3	0.3	**0.0**	-1.8	1.8	1.9	1.6	**1.8**

(参考)

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
宿泊施設タイプ	ホテル	88.7	87.0	86.6	**86.0**	-0.6	62.4	56.3	53.6	**60.0**	6.4
	リゾートホテル	60.0	52.4	47.8	**56.1**	8.4	22.9	22.2	22.2	**22.9**	0.7
	ビジネスホテル	18.0	25.0	20.1	**26.3**	6.2	24.5	21.5	19.9	**22.1**	2.1
	シティホテル	23.8	16.8	27.6	**15.8**	-11.8	19.5	15.4	13.5	**18.6**	5.1
	旅館	7.2	4.3	1.5	**4.4**	2.9	27.2	29.0	31.0	**28.1**	-2.9
	比較的規模大	5.5	1.9	0.7	**3.5**	2.8	16.7	16.1	16.2	**15.5**	-0.7
	比較的規模小	2.9	2.4	0.7	**0.9**	0.1	11.1	13.5	15.3	**13.0**	-2.3
	実家・親戚・知人宅	2.0	1.9	0.7	**7.9**	7.1	6.9	6.8	5.3	**6.1**	0.7
	民宿・ﾍﾟﾝｼｮﾝ	8.7	7.2	9.0	**4.4**	-4.6	4.3	4.9	4.2	**3.2**	-1.0
	ゲストハウス	0.0	0.0	3.0	**2.6**	-0.4	0.0	0.0	1.1	**1.0**	-0.1
	公共の宿	0.6	1.4	0.0	**1.8**	1.8	1.8	1.5	2.0	**2.0**	0.0
	ｷｬﾝﾌﾟ・ｵｰﾄｷｬﾝﾌﾟ	1.4	1.4	1.5	**0.9**	-0.6	1.7	2.3	3.5	**2.3**	-1.2
	別荘・会員制宿泊施設	2.6	1.4	2.2	**0.0**	-2.2	2.6	3.2	2.8	**2.5**	-0.3
	民泊	0.0	0.0	1.5	**0.0**	-1.5	0.0	0.0	0.5	**0.5**	0.1
	その他	1.2	2.9	0.7	**0.0**	-0.7	1.7	2.0	1.7	**1.8**	0.1

(9) 現地で楽しんだ活動【複数回答】、現地ツアー等の参加率

- 2022 年 1-9 月の沖縄旅行で楽しんだ活動は、『自然や景勝地の訪問』が最も多く、以下、『現地グルメ』、『リゾート滞在（海浜）』と続く。全国的に最も多い活動は『温泉』であり、次いで『現地グルメ』、『自然や景勝地の訪問』であった。全国に比して沖縄旅行で多い活動は、『自然や景勝地の訪問』、『リゾート滞在（海浜）』、『ドライブ』、『観光施設・動物園・水族館』、『海水浴・マリンスポーツ』であった。
- 2019 年～2021 年をみると、沖縄旅行では、コロナ禍前に比べて『現地グルメ』、『ショッピング』、『歴史・文化的な名所の訪問』、『観光施設・水族館等』、『都市観光』が大幅に減少した。全国的に減少幅が大きかった活動は、『まち歩き』、『歴史・文化的な名所の訪問』、『都市観光』であった。2022 年 1-9 月においては、沖縄・全国ともに、コロナ禍で減少が続いた『まち歩き』、『ショッピング』、『歴史・文化的な名所の訪問』、『観光施設・水族館等』が増加に転じた。しかしながら、沖縄・全国ともに、現地ツアー・体験プログラム参加率は低水準が続いた。特に、沖縄の落ち込みは大きい。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=362)	2020年 (n=214)	2021年 (n=165)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
現地で楽しんだ活動	自然や景勝地の訪問	63.9	56.8	54.0	**48.2**	13.7	39.5	39.6	35.9	**34.6**
	現地グルメ	46.8	41.8	31.4	**36.8**	1.8	35.9	34.7	34.6	**35.0**
	リゾート滞在（海浜）	35.1	34.2	35.7	**34.2**	30.3	4.7	4.1	3.7	**3.9**
	まち並み散策・まち歩き	34.5	27.4	28.3	**30.7**	4.0	32.0	25.9	23.6	**26.7**
	ショッピング・買い物	39.2	35.5	24.8	**28.1**	4.8	25.7	22.0	21.4	**23.3**
	歴史・文化的な名所の訪問	34.7	27.8	15.1	**20.2**	-3.0	29.8	24.2	21.3	**23.2**
	ドライブ	13.5	15.8	12.9	**20.2**	12.1	6.8	7.5	8.2	**8.1**
	観光施設・動物園・水族館	28.9	19.3	15.4	**19.3**	8.9	11.2	8.9	8.7	**10.4**
	海水浴・マリンスポーツ	26.6	17.5	27.0	**19.3**	17.5	2.5	1.9	2.2	**1.8**
	都市観光	27.4	18.3	11.8	**14.0**	0.9	19.5	14.6	11.8	**13.1**
	温泉	6.9	3.8	13.1	**12.3**	-30.4	37.5	44.8	46.1	**42.6**
	リゾート滞在（高原）	2.2	0.6	1.0	**5.3**	2.2	3.4	3.4	3.1	**3.1**
	家族や親戚、友人訪問	2.8	6.6	3.9	**5.3**	-1.2	7.1	6.3	6.1	**6.5**
	スポーツ観戦	0.9	2.3	0.0	**4.4**	1.6	2.9	1.4	1.7	**2.8**
	写真・写生	6.4	4.4	4.2	**4.4**	1.8	3.9	3.0	2.9	**2.6**
	季節の花見	2.4	0.2	0.3	**3.5**	-0.2	4.7	2.7	3.0	**3.7**
	アウトドア体験	8.2	6.3	7.1	**3.5**	1.3	2.3	2.0	2.3	**2.2**
	産業観光	2.4	1.1	1.4	**3.5**	2.8	1.4	0.9	0.6	**0.7**
	テーマパーク・レジャーランド	6.9	4.1	6.6	**2.6**	-5.9	10.2	7.1	6.8	**8.6**
	美術館・博物館	2.9	2.3	0.8	**2.6**	-3.2	7.0	5.5	5.3	**5.8**
	登山・トレッキング	2.0	2.6	1.4	**2.6**	0.4	2.5	3.4	3.5	**2.2**
	世界遺産訪問	7.0	7.4	4.9	**2.6**	0.5	3.0	2.9	2.4	**2.1**
	祭り・イベント	6.8	5.0	0.6	**1.8**	-2.1	7.1	2.9	2.2	**3.8**
	生活文化体験	4.7	2.2	0.0	**1.8**	1.4	1.3	0.7	0.6	**0.4**
	マラソン・ジョギング	1.1	2.0	0.0	**1.8**	1.1	0.7	0.4	0.6	**0.7**
	ゴルフ	4.2	2.5	2.1	**1.8**	0.4	2.0	2.0	1.9	**1.4**
	スパ・エステ	4.8	3.0	3.3	**1.8**	0.7	1.5	1.0	1.1	**1.1**
	芸術鑑賞	2.8	2.0	0.9	**0.9**	-3.4	4.9	2.2	2.9	**4.3**
	果物狩り・農林漁業体験	1.4	0.5	0.0	**0.9**	0.1	1.8	1.2	1.1	**0.8**
	スキー・スノーボード	0.3	0.0	0.0	**0.9**	-1.1	1.3	1.5	1.2	**1.9**
	サイクリング	4.0	3.8	1.9	**0.9**	0.1	1.2	1.2	0.9	**0.8**
	野生動物観察	4.6	1.2	1.1	**0.0**	-0.5	1.0	0.8	0.7	**0.5**
	その他	0.5	3.9	4.4	**4.4**	2.0	2.3	2.8	2.7	**2.4**
	平均活動数	4.47	3.72	3.22	**3.40**	0.6	3.20	2.76	2.69	**2.81**
現地ツアー等の参加率		37.7	21.2	18.7	**16.7**	12.3	13.1	8.0	4.5	**4.4**

（参考）

(%)

		沖縄県					全国				
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
現地で楽しんだ活動	自然や景勝地の訪問	60.0	55.3	49.3	**48.2**	-1.0	39.8	36.2	36.9	**34.6**	-2.3
	現地グルメ	43.8	42.3	39.6	**36.8**	-2.7	36.2	33.4	34.1	**35.0**	1.0
	リゾート滞在（海浜）	35.1	27.4	33.6	**34.2**	0.6	4.8	4.2	3.8	**3.9**	0.1
	まち並み散策・まち歩き	36.8	36.1	29.1	**30.7**	1.6	32.4	25.9	22.8	**26.7**	3.9
	ショッピング・買い物	38.0	35.1	23.9	**28.1**	4.2	25.6	21.3	20.1	**23.3**	3.2
	歴史・文化的な名所の訪問	36.2	27.9	15.7	**20.2**	4.5	30.1	22.4	20.7	**23.2**	2.5
	ドライブ	14.8	18.3	11.2	**20.2**	9.0	6.9	8.0	8.7	**8.1**	-0.6
	観光施設・動物園・水族館	26.4	20.7	9.7	**19.3**	9.6	11.3	8.2	7.9	**10.4**	2.5
	海水浴・ﾏﾘﾝｽﾎﾟｰﾂ	24.3	18.8	30.6	**19.3**	-11.3	2.6	2.0	2.6	**1.8**	-0.8
	都市観光	28.4	21.2	13.4	**14.0**	0.6	19.4	14.6	10.9	**13.1**	2.3
	温泉	10.7	5.3	13.4	**12.3**	-1.2	37.7	43.5	46.7	**42.6**	-4.0
	リゾート滞在（高原）	3.5	1.9	3.0	**5.3**	2.3	3.4	3.6	3.5	**3.1**	-0.4
	家族や親戚、友人訪問	2.9	5.8	3.0	**5.3**	2.3	6.9	7.2	5.4	**6.5**	1.1
	スポーツ観戦	1.7	2.4	0.7	**4.4**	3.6	2.8	1.5	1.7	**2.8**	1.1
	写真・写生	8.4	2.9	5.2	**4.4**	-0.8	4.1	2.7	2.7	**2.6**	-0.2
	季節の花見	3.8	2.4	2.2	**3.5**	1.3	5.4	3.2	4.2	**3.7**	-0.5
	アウトドア体験	8.1	4.8	9.7	**3.5**	-6.2	2.3	2.1	2.7	**2.2**	-0.5
	産業観光	2.3	1.0	0.7	**3.5**	2.8	1.2	1.0	0.4	**0.7**	0.2
	ﾃｰﾏﾊﾟｰｸ・ﾚｼﾞｬｰﾗﾝﾄﾞ	7.8	5.3	3.7	**2.6**	-1.1	10.0	6.3	5.8	**8.6**	2.8
	美術館・博物館	2.3	4.8	0.0	**2.6**	2.6	6.5	5.0	4.7	**5.8**	1.1
	登山・トレッキング	2.6	1.4	2.2	**2.6**	0.4	2.5	3.2	4.0	**2.2**	-1.8
	世界遺産訪問	7.2	6.3	6.7	**2.6**	-4.1	3.2	2.4	2.1	**2.1**	0.0
	祭り・イベント	9.3	4.3	0.7	**1.8**	1.0	7.0	3.4	1.7	**3.8**	2.2
	生活文化体験	5.5	1.4	0.0	**1.8**	1.8	1.2	0.9	0.6	**0.4**	-0.2
	マラソン・ジョギング	1.7	1.4	0.0	**1.8**	1.8	0.8	0.5	0.5	**0.7**	0.1
	ゴルフ	4.3	3.8	2.2	**1.8**	-0.5	2.0	2.1	1.9	**1.4**	-0.5
	スパ・エステ	5.2	3.8	3.0	**1.8**	-1.2	1.4	1.2	1.1	**1.1**	-0.0
	芸術鑑賞	3.5	1.9	0.7	**0.9**	0.1	4.7	2.4	2.6	**4.3**	1.7
	果物狩り・農林漁業体験	2.3	0.5	0.0	**0.9**	0.9	1.7	1.3	1.0	**0.8**	-0.2
	スキー・スノーボード	0.3	0.0	0.7	**0.9**	0.1	1.6	2.1	1.7	**1.9**	0.2
	サイクリング	4.6	2.4	3.0	**0.9**	-2.1	1.2	1.3	1.2	**0.8**	-0.4
	野生動物観察	4.9	2.9	2.2	**0.0**	-2.2	1.0	0.8	0.9	**0.5**	-0.5
	その他	0.3	1.9	3.0	**4.4**	1.4	2.3	2.7	3.3	**2.4**	-0.9
	平均活動数	4.47	3.72	3.22	**3.40**	0.2	3.20	2.76	2.69	**2.81**	0.1
現地ﾂｱｰ等の参加率		43.2	26.0	16.4	**16.7**	0.2	13.5	9.9	4.5	**4.4**	-0.1

(10) 旅行費用

- 2022 年 1-9 月の沖縄旅行の 1 人あたりの旅行費用は『10 万円以上』が最頻値であり、3 割弱を占めた。一方、全国的には『1～2 万円未満』が最頻値であり、沖縄旅行にかかる旅行費用は全国に比べて高い水準にある。
- 2019 年～2021 年をみると、沖縄・全国ともに、近隣旅行の増加や宿泊数の短縮化等の影響から、コロナ禍前に比べて費用分布が低価格帯に移動した。2022 年もその傾向が続く。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=352)	2020年 (n=206)	2021年 (n=156)	**2022年 1-9月 (n=104)**	沖縄-全国	2019年 (n=9111)	2020年 (n=6322)	2021年 (n=5620)	**2022年 1-9月 (n=4235)**
旅行費用	1万円未満	1.6	5.2	5.1	**2.9**	-5.7	3.9	8.8	10.3	**8.6**
	1～2万円未満	3.6	5.6	9.3	**11.5**	-8.7	13.6	21.5	21.1	**20.3**
	2～3万円未満	2.8	7.0	8.0	**9.6**	-9.9	18.0	20.1	20.6	**19.6**
	3～4万円未満	8.2	13.5	7.0	**8.7**	-5.3	16.2	14.5	12.9	**14.0**
	4～5万円未満	8.7	11.9	6.2	**14.4**	3.9	13.1	11.6	10.7	**10.5**
	5～7万円未満	18.0	16.7	11.1	**11.5**	1.1	13.1	9.9	10.1	**10.4**
	7～10万円未満	20.8	19.0	15.4	**13.5**	5.7	9.8	6.6	6.4	**7.8**
	10万円以上	36.2	21.0	37.9	**27.9**	19.0	12.3	7.1	7.9	**8.9**
	平均費用(概数)	96,528	72,290	89,776	**－**	－	53,444	41,133	41,580	**－**

(参考)

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=340)	2020年 1-9月 (n=202)	2021年 1-9月 (n=124)	**2022年 1-9月 (n=104)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6744)	2020年 1-9月 (n=4871)	2021年 1-9月 (n=4131)	**2022年 1-9月 (n=4235)**	2022-2021
旅行費用	1万円未満	1.5	3.0	3.2	**2.9**	-0.3	3.6	8.6	10.2	**8.6**	-1.6
	1～2万円未満	3.5	5.0	7.3	**11.5**	4.3	13.6	20.7	22.3	**20.3**	-2.0
	2～3万円未満	2.6	5.4	10.5	**9.6**	-0.9	18.3	20.3	21.6	**19.6**	-2.0
	3～4万円未満	8.2	12.4	4.8	**8.7**	3.8	16.0	14.6	13.0	**14.0**	1.0
	4～5万円未満	9.4	10.4	6.5	**14.4**	8.0	12.7	11.3	10.9	**10.5**	-0.4
	5～7万円未満	18.2	20.3	14.5	**11.5**	-3.0	13.2	10.0	9.2	**10.4**	1.3
	7～10万円未満	18.2	18.8	14.5	**13.5**	-1.1	9.8	7.0	5.9	**7.8**	1.9
	10万円以上	38.2	24.8	38.7	**27.9**	-10.8	12.8	7.4	7.1	**8.9**	1.7

(11) 来訪経験

- 2022 年 1-9 月の来訪経験は、沖縄・全国ともに『初めて』が 2 割、『5 回目以上』が 3.5 割と、同傾向にあった。
- 2019 年～2021 年をみると、コロナ禍前に比べて、沖縄・全国ともに、来訪経験『5 回目以上』の割合が増加した。域内旅行や馴染みの地域への来訪が増えている影響と考えられる。2022 年も、『5 回目以上』の割合はやや低下したものの、コロナ禍前と比較すると高い傾向が続く。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=443)	2020年 (n=249)	2021年 (n=183)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
来訪経験	全て初めて	23.6	22.4	22.1	**22.8**	0.9	21.4	22.8	22.6	**21.9**
	2回目	31.3	24.0	17.7	**27.2**	5.0	26.7	23.0	20.3	**22.2**
	3～4回目	18.4	24.0	16.6	**15.8**	-3.2	18.9	17.7	18.7	**19.0**
	5回目以上	26.7	29.7	43.6	**34.2**	-2.7	33.0	36.5	38.3	**36.9**

（参考）

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
来訪経験	全て初めて	25.8	21.6	21.6	**22.8**	1.2	21.7	22.0	22.5	**21.9**	-0.6
	2回目	31.3	23.6	14.2	**27.2**	13.0	27.1	23.2	19.4	**22.2**	2.7
	3～4回目	15.9	24.0	13.4	**15.8**	2.4	18.6	17.3	19.1	**19.0**	-0.1
	5回目以上	27.0	30.8	50.7	**34.2**	-16.5	32.6	37.5	38.9	**36.9**	-2.0

(12) 他検討先

- 今回の沖縄旅行を決める際に他に検討した旅行先があったかという設問に対して、2022 年 1-9 月は沖縄・全国ともに 9 割が「ない」と回答。ここに行きたいという明確な意思のある旅行が増えている。
- 他検討先がなかった（＝旅行先の候補は沖縄県一択）という回答は、コロナ禍前の 2019 年は 7 割強だったが、2021 年の同値は 9 割弱と大幅に増加した。特に、沖縄は、コロナ禍前は 1 割が海外も検討候補に入っていたが、海外旅行に行きにくい状況にあったこともあり、伸びが顕著であった。2022 年もその傾向が続く。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=443)	2020年 (n=249)	2021年 (n=183)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
他検討先	ある(国内)	22.9	17.1	11.6	**7.9**	-3.2	16.0	15.2	12.1	**11.1**
	ある(海外)	12.9	8.7	1.1	**5.3**	4.8	4.6	2.6	0.8	**0.5**
	ない	73.3	79.8	87.8	**90.4**	1.6	82.6	83.9	87.8	**88.7**

（参考）

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**	2022-2021
他検討先	ある(国内)	22.6	19.2	13.4	**7.9**	-5.5	16.2	15.9	12.5	**11.1**	-1.4
	ある(海外)	13.0	11.1	1.5	**5.3**	3.8	4.6	3.2	0.8	**0.5**	-0.3
	ない	73.9	76.9	85.8	**90.4**	4.5	82.4	83.2	87.3	**88.7**	1.4

2. 満足度と再来訪意向

(1) 総合満足度

- 2022 年 1-9 月の沖縄旅行の『大変満足』の割合は 4 割を占め、全国の『3 割』に比べて高い水準であった。しかしながら、沖縄旅行の『どちらでもない』～『大変不満』計は 10.5%と、全国の 5.4%を上回った。急速な観光需要の回復によって、観光産業では深刻な人手不足に陥ったことも影響していると考えられる。
- 2019 年～2021 年をみると、沖縄旅行の総合満足度の最頻値は、コロナ禍前は『大変満足』だったが、2020 年並びに 2021 年は『満足』となり、満足度がやや低下した。コロナ禍においては、沖縄・全国ともに、満足度が低下する傾向がみられた。2022 年は、沖縄・全国ともに、大変満足の割合は高まった。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=362)	2020年 (n=214)	2021年 (n=165)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
総合満足度	大変満足	46.2	40.7	36.5	**39.5**	8.3	32.8	29.1	29.0	**31.2**
	満足	37.1	41.4	47.0	**36.0**	-10.2	45.5	45.1	46.0	**46.2**
	やや満足	13.3	12.2	9.9	**14.0**	-3.2	16.1	18.6	18.5	**17.2**
	どちらでもない	2.0	3.4	3.3	**5.3**	1.3	4.3	5.2	4.7	**3.9**
	やや不満	0.2	1.1	2.8	**2.6**	1.6	0.9	1.4	1.2	**1.0**
	不満	0.2	0.4	0.0	**1.8**	1.5	0.2	0.4	0.3	**0.3**
	大変不満	0.9	0.8	0.6	**0.9**	0.6	0.3	0.2	0.4	**0.3**
	総合満足度指数	6.23	6.13	6.09	5.96	-0.05	6.04	5.93	5.95	6.01

※満足度指数：大変満足（7 点）～大変不満（1 点）の 7 段階評価の平均値。

（参考）

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
総合満足度	大変満足	49.0	38.0	36.6	**39.5**	2.9	33.4	28.0	28.7	**31.2**
	満足	34.5	42.8	46.3	**36.0**	-10.3	45.4	44.6	45.9	**46.2**
	やや満足	13.3	13.5	9.7	**14.0**	4.3	16.0	19.6	18.8	**17.2**
	どちらでもない	1.7	3.4	3.0	**5.3**	2.3	3.9	5.6	4.7	**3.9**
	やや不満	0.3	1.0	3.7	**2.6**	-1.1	0.9	1.5	1.3	**1.0**
	不満	0.3	0.5	0.0	**1.8**	1.8	0.2	0.4	0.3	**0.3**
	大変不満	0.9	1.0	0.7	**0.9**	0.1	0.3	0.2	0.4	**0.3**
	総合満足度指数	6.26	6.08	6.06	5.96	-0.10	6.05	5.90	5.93	6.01

(2) 再来訪意向

- 2022 年 1-9 月の沖縄旅行の再来訪意向は、『ぜひまた訪れたい（大変そう思う）』が 4 割を占め、全国の『2.5 割』に比べて高い水準であった。しかしながら、沖縄旅行の『どちらでもない』～『全く思わない』計は 22.8%と、全国の 20.8%を上回った。
- コロナ禍における再来訪意向は、沖縄・全国ともに低下。2022 年も同傾向が続く。
- 沖縄旅行における来訪経験別の再来訪意向をみると、2021 年に比べ、リピーターの来訪意向は若干低下した一方で、初来訪者の来訪意向は高まった。

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 (n=362)	2020年 (n=214)	2021年 (n=165)	**2022年 1-9月 (n=114)**	沖縄-全国	2019年 (n=9364)	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
再来訪意向	大変そう思う	45.8	44.5	43.6	**39.5**	12.8	29.8	27.4	28.4	**26.7**
	そう思う	30.4	26.6	29.8	**29.8**	-3.8	33.8	31.7	33.1	**33.6**
	やや思う	13.6	13.3	16.0	**7.9**	-11.0	17.8	18.7	19.1	**18.9**
	どちらでもない	7.1	8.7	7.2	**13.2**	1.2	11.3	13.2	12.3	**12.0**
	あまり思わない	2.0	4.9	1.7	**5.3**	-0.0	4.4	5.7	4.5	**5.3**
	思わない	0.7	0.4	1.7	**1.8**	-0.9	2.2	2.2	1.9	**2.6**
	全く思わない	0.4	1.5	0.0	**2.6**	1.7	0.7	1.1	0.8	**0.9**
	再来訪意向指数	6.07	5.90	6.02	5.69	0.16	5.64	5.51	5.60	5.53

※再来訪意向指数：大変そう思う（7 点）～全く思わない（1 点）の 7 段階評価の平均値。

（参考）

(%)

		沖縄県					全国			
		2019年 1-9月 (n=345)	2020年 1-9月 (n=208)	2021年 1-9月 (n=134)	**2022年 1-9月 (n=114)**	2022-2021	2019年 1-9月 (n=6939)	2020年 1-9月 (n=5007)	2021年 1-9月 (n=4263)	**2022年 1-9月 (n=4357)**
再来訪意向	大変そう思う	47.5	42.8	46.3	**39.5**	-6.8	29.9	28.0	29.0	**26.7**
	そう思う	28.4	27.9	29.1	**29.8**	0.7	33.2	31.8	33.4	**33.6**
	やや思う	14.2	14.9	14.9	**7.9**	-7.0	18.0	18.9	18.6	**18.9**
	どちらでもない	6.1	8.2	6.0	**13.2**	7.2	11.2	12.9	12.1	**12.0**
	あまり思わない	2.6	4.8	1.5	**5.3**	3.8	4.5	5.4	4.3	**5.3**
	思わない	0.6	0.0	2.2	**1.8**	-0.5	2.3	2.1	1.9	**2.6**
	全く思わない	0.6	1.4	0.0	**2.6**	2.6	0.8	0.9	0.7	**0.9**
	再来訪意向指数	6.08	5.90	6.06	5.69	-0.37	5.63	5.54	5.62	5.53

来訪経験別再来訪意向

(%)

「大変そう思う」の割合	沖縄県			全国		
	初めて (n=40/29)	2～4回目 (n=62/49)	5回目以上 (n=79/39)	初めて (n=1314/954)	2～4回目 (n=2265/1794)	5回目以上 (n=2224/1609)
2021年1-12月	20.0	40.3	58.2	18.0	21.0	42.0
2022年1-9月	38.5	32.7	48.7	17.7	19.8	39.7

※n 2021年/2022年

3. コロナ禍における旅行意識・行動

(1) 実施した旅行へのコロナ禍の影響

- 2022 年 1-9 月に実施した沖縄旅行について、コロナ禍の影響で変更が生じたか否かを尋ねたところ、9 割が『予定通り実施した』と回答、全国と同傾向にあった。
- 2020 年から 2022 年にかけての変化をみると、2020～2021 年は沖縄・全国ともに『変更して実施した』が 1.5～2 割を占めたが、2022 年 1-9 月は 1 割未満に留まった。コロナ禍による旅行への影響は徐々に弱まっている。また、この間、全国に比べて沖縄旅行のほうが感染状況に応じた変更が他地域よりも多く生じていた。

(%)

	沖縄県					全国			
	2020年 (n=263)	2021年 (n=181)	2022年 1-9月 (n=114)	沖縄-全国	2022-2021	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	2022年 1-9月 (n=4357)	2022-2021
予定通り旅行を実施	81.0	82.3	**91.2**	-1.5	8.9	82.3	85.8	**92.7**	6.8
旅行内容等を変更して実施	19.0	17.7	**8.8**	1.5	-8.9	17.7	14.2	**7.3**	-6.8

（参考）コロナ禍の影響で変更した内容【複数回答】

(%)

	沖縄県					全国			
	2020年 (n=50)	2021年 (n=32)	2022年 1-9月 (n=10)	沖縄-全国	2022-2021	2020年 (n=1153)	2021年 (n=822)	2022年 1-9月 (n=319)	2022-2021
旅行先（海外→国内）	30.0	12.5	**10.0**	3.1	-2.5	11.2	4.0	**6.9**	2.9
旅行先（国内→国内）	12.0	6.3	**0.0**	-21.3	-6.3	24.3	28.5	**21.3**	-7.2
活動内容や訪問先	46.0	46.9	**20.0**	-9.8	-26.9	38.1	38.7	**29.8**	-8.9
宿泊施設	24.0	9.4	**10.0**	-7.9	0.6	16.7	17.2	**17.9**	0.7
泊数	24.0	18.8	**70.0**	66.9	51.3	26.8	26.4	**23.8**	-2.6
交通手段	24.0	9.4	**0.0**	-10.3	-9.4	19.9	12.2	**15.0**	2.9
同行者	4.0	0.0	**10.0**	3.7	10.0	4.2	2.2	**3.1**	0.9
同行者人数	4.0	6.3	**0.0**	-10.3	-6.3	4.6	4.1	**10.3**	6.2
その他	2.0	9.4	**0.0**	-6.3	-9.4	4.0	4.9	**6.3**	1.4

(2) 旅行実施にあたっての気持ち【複数回答】

- 2022 年 1-9 月における沖縄旅行実施にあたっての気持ちは、『コロナに対する不安は感じない』、『心配しても仕方ない』が 3 割を超え、『ワクチン接種が進んでいるので問題ない』が 2 割台で続いた。全国的にも概ね同じ傾向だが、『旅行して良いのか迷った』、『キャンセル料が嫌』は沖縄の方が 5 ポイント以上高い。沖縄県では、全国的には感染が減少傾向の時期に感染拡大した時期があったこと、「沖縄県医療非常事態宣言（2022/7/21～9/29）」が発出されたこと、他地域への旅行に比べて旅行費用が高額であることなどが理由として想定される。
- 経年変化をみると、沖縄・全国ともに、2020 年から 2021 年は『いまの状況では空いている』や『自粛に疲れた/我慢ばかりしていられない』が、2021 年から 2022 年 1-9 月は『ワクチン接種が進んでいるので問題ない』が大きく増加した。その一方で、『いまの状況では空いている』や『旅行先の感染者数が少ないので安心』は大きく減少した。

(%)

	沖縄県					全国			
	2020年 (n=263)	2021年 (n=181)	2022年 1-9月 (n=114)	沖縄-全国	2022-2021	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	2022年 1-9月 (n=4357)	2022-2021
コロナに対する不安は感じない	32.3	39.8	**36.8**	3.7	-2.9	30.4	28.4	**33.2**	4.8
心配しても仕方がない	25.9	28.7	**33.3**	-4.1	4.6	26.3	27.6	**37.4**	9.8
ワクチン接種が進んでいるので問題ない	-	5.5	**21.1**	4.1	15.5	-	7.3	**16.9**	9.7
どうしても行きたい旅行	16.0	13.3	**17.5**	2.7	4.3	13.2	14.4	**14.8**	0.4
旅行して良いのか迷った	-	19.3	**15.8**	7.3	-3.5	-	16.7	**8.5**	-8.2
いまの状況では空いている	7.6	19.3	**12.3**	2.4	-7.1	7.0	16.5	**9.9**	-6.7
キャンセル料が嫌	6.5	3.9	**11.4**	8.0	7.5	4.8	4.1	**3.4**	-0.7
旅行先が感染対策しているので問題ない	-	9.9	**11.4**	-1.6	1.5	-	12.5	**13.0**	0.5
自分は感染しない／感染しても軽症で済む	8.4	5.5	**10.5**	5.2	5.0	8.7	4.5	**5.3**	0.9
旅行先の観光地を応援したい	17.5	23.2	**10.5**	-2.0	-12.7	16.4	15.3	**12.5**	-2.8
自分が対策を万全にすれば問題ない	-	18.8	**10.5**	-6.0	-8.3	-	15.3	**16.5**	1.2
自分にはあまりかかわりはない	14.8	12.7	**9.6**	-1.8	-3.1	16.1	10.8	**11.4**	0.6
周囲の人が行っているので問題ない	-	-	**9.6**	5.5	-	-	-	**4.2**	-
旅行先の感染者数が少ないので安心	16.7	16.0	**7.9**	-0.4	-8.1	18.9	18.4	**8.3**	-10.1
経済の停滞は避けるべき	9.5	11.0	**7.0**	-1.2	-4.0	10.5	10.4	**8.3**	-2.1
自粛に疲れた／我慢ばかりしていられない	2.3	13.3	**7.0**	-4.4	-6.2	3.7	11.9	**11.4**	-0.5
今しか楽しめない旅行（卒業旅行など）	4.6	6.1	**7.0**	0.3	0.9	6.1	7.0	**6.7**	-0.2
値段が通常より安い	10.3	12.7	**6.1**	-1.5	-6.6	11.3	7.8	**7.7**	-0.2
冠婚葬祭への出席を兼ねるので仕方ない	1.9	1.7	**5.3**	3.9	3.6	1.8	1.3	**1.4**	0.1
旅行先には迷惑はかからない	8.7	9.4	**4.4**	-1.5	-5.0	7.0	7.2	**5.9**	-1.3
旅行の中止や変更をするのが面倒	3.4	0.0	**4.4**	2.3	4.4	2.6	2.5	**2.1**	-0.4
同行者の考えに応じた	9.1	7.7	**3.5**	-2.6	-4.2	9.1	7.4	**6.1**	-1.3
その他	6.5	2.2	**0.9**	-0.6	-1.3	5.1	2.1	**1.5**	-0.7

(3) 実施した旅行の感想【複数回答】

- 2022 年 1-9 月に沖縄旅行した際の感想は、『混雑がなく快適』が最も多く、以下、『旅行先の感染対策が徹底されていた』、『コロナ禍のストレスが発散できた』、『旅行が自分にとって重要なことを再確認した』と続く。全国的にも概ね同じ傾向だが、『休業の施設があり残念』は沖縄の方が 10 ポイント近く高かった。また、『旅行が自分にとって重要なことを再確認した』、『自分が感染源にならないか心配だった』、『内緒で行ったため旅行後に土産話ができなかった』も、全国に比べて沖縄旅行で 5 ポイント近く高かった。
- 経年変化をみると、2020 年から 2021 年にかけては、沖縄・全国ともに『コロナ禍前と特段変わらない』が大幅に減少した。2021 年は、1 月から 9 月末までほぼ緊急事態宣言期間であり、休業や、営業時間の短縮等の対応をとった施設が多かったことが要因として挙げられる。また、『感染への不安』も減少した。2021 年から 2022 年 1-9 月は、『混雑がなく快適』や『コロナ禍前と特段変わらない』、『閑散としていて寂しく感じた』が大幅に減少した一方で、『旅行が自分にとって重要なことを再確認した』の増加幅が最も大きい。

(%)

	沖縄県					全国			
	2020年 (n=263)	2021年 (n=181)	2022年 1-9月 (n=114)	沖縄-全国	2022-2021	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	2022年 1-9月 (n=4357)	2022-2021
混雑がなく快適だった	41.1	47.0	**31.6**	-0.3	-15.4	38.7	44.7	**31.8**	-12.9
旅行先の感染対策が徹底されていた	-	23.2	**27.2**	0.4	4.0	-	31.1	**26.8**	-4.3
コロナ禍のストレスが発散できた	-	-	**25.4**	1.0	-	-	-	**24.5**	-
旅行が自分にとって重要なことを再確認した	-	18.2	**24.6**	4.7	6.3	-	16.0	**19.9**	3.9
コロナ禍前と特段変わらない	46.8	29.8	**18.4**	-5.1	-11.4	46.4	31.5	**23.5**	-8.0
旅行先で歓迎された	14.1	12.7	**16.7**	2.4	4.0	12.9	14.6	**14.3**	-0.3
休業の施設があり残念だった	11.4	26.0	**16.7**	9.8	-9.3	8.9	11.5	**6.9**	-4.6
当初の想定より混雑していた	9.1	8.8	**14.0**	-1.1	5.2	11.6	14.0	**15.2**	1.2
感染が不安だった	18.3	11.0	**11.4**	3.5	0.4	17.4	11.5	**7.9**	-3.6
自分が感染源にならないか心配だった	13.3	8.8	**11.4**	4.9	2.6	10.0	7.9	**6.5**	-1.4
内緒で行ったため旅行後に土産話ができなかった	-	9.9	**9.6**	4.4	-0.3	-	7.0	**5.2**	-1.8
感染を気にして疲れてしまった	3.0	1.7	**5.3**	2.4	3.6	6.5	4.5	**2.8**	-1.7
旅行後に周囲の人から非難された	0.8	0.0	**3.5**	2.6	3.5	0.9	0.6	**0.9**	0.3
閑散としていて寂しく感じた	14.8	17.1	**2.6**	-1.6	-14.5	12.1	11.1	**4.2**	-6.9
感染対策が徹底されておらず不安になった	-	2.2	**2.6**	1.5	0.4	-	1.2	**1.1**	-0.0
旅行先で快く思われなかったのではと不安になった	7.2	0.6	**1.8**	-0.1	1.2	3.5	2.7	**1.9**	-0.8
その他	2.7	2.2	**3.5**	2.3	1.3	1.1	1.1	**1.2**	0.1

(4) 旅行中の感染対策【複数回答】

- 2022 年 1-9 月の沖縄旅行中の感染対策実施率は、『マスクの着用』が 9 割弱であった。マスク着用以外に実施率が 5 割を超えた対策は、『手指消毒剤の励行・徹底（携行含む）』、『手洗い・うがいの励行・徹底』であった。全国的にも概ね沖縄旅行と同傾向であるが、上記の対策はいずれも全国的な実施率の方が高い傾向にあった。その一方で、『密回避』や『不特定多数が触れる箇所をなるべく触らない』といった他者を避ける意識は、沖縄旅行者の方が高い。加えて、『検温』、『旅行先のコロナ対策情報のチェック』、『"新しい旅のエチケット"の確認』、『旅行前の PCR 受検』など訪問前にできる対策についても、沖縄旅行者の方が実施率が高く、沖縄への旅行にあたっては他地域への旅行に比べて事前対策がなされる傾向にあった。
- 経年変化をみると、2020 年から 2021 年にかけては沖縄・全国ともに全ての項目において実施率は増加したが、2021 年から 2022 年 1-9 月にかけてはほとんどの項目で実施率は減少した。

(%)

	沖縄県					全国			
	2020年 (n=263)	2021年 (n=181)	2022年 1-9月 (n=114)	沖縄-全国	2022-2021	2020年 (n=6511)	2021年 (n=5803)	2022年 1-9月 (n=4357)	2022-2021
マスクの着用	74.9	88.4	**88.6**	-5.0	0.2	80.4	94.7	**93.6**	-1.1
設置されている手指消毒剤を励行・徹底	53.6	67.4	**67.5**	-5.1	0.1	61.3	76.9	**72.6**	-4.3
手洗い・うがいの励行・徹底	59.3	64.6	**62.3**	-2.7	-2.4	64.1	71.5	**65.0**	-6.5
手指消毒剤の携行	51.3	56.9	**54.4**	-2.8	-2.5	53.4	62.3	**57.2**	-5.0
多数が集まる密集空間の回避	37.3	49.2	**43.0**	5.5	-6.2	41.8	51.5	**37.5**	-14.0
換気の悪い密閉空間の回避	33.5	47.0	**36.8**	1.2	-10.1	38.5	45.1	**35.6**	-9.6
不特定多数が触れる箇所をなるべく触らない	30.0	35.9	**36.0**	6.5	0.1	35.1	39.2	**29.5**	-9.7
ソーシャルディスタンスの確保	31.2	47.0	**34.2**	-2.3	-12.8	39.5	47.7	**36.5**	-11.2
食事時の注意（黙食や個食、マスク会食等）	26.2	40.9	**29.8**	-3.4	-11.1	30.1	43.1	**33.2**	-9.9
キャッシュレス決済の利用	-	30.9	**28.1**	0.3	-2.9	-	32.4	**27.7**	-4.7
間近で会話が発生する密接空間の回避	26.6	35.4	**26.3**	1.0	-9.0	28.9	34.7	**25.3**	-9.4
他人がそばにいる場所では会話を控える	-	36.5	**21.9**	-5.7	-14.5	-	33.9	**27.6**	-6.3
体温計を持参し、毎日検温	-	9.4	**12.3**	5.3	2.9	-	8.2	**6.9**	-1.3
旅行先の地域のコロナ対策情報のチェック	-	14.4	**11.4**	5.0	-3.0	-	11.1	**6.4**	-4.7
訪問予定の施設のコロナ対策情報のチェック	-	13.8	**11.4**	2.9	-2.4	-	14.0	**8.5**	-5.5
"新しい旅のｴﾁｹｯﾄ""新しい旅のﾙｰﾙ"の確認	-	7.7	**10.5**	5.3	2.8	-	8.4	**5.2**	-3.2
PCR検査を受けてから旅行に行く	-	5.5	**10.5**	6.4	5.0	-	2.1	**4.1**	2.0
接触確認アプリの利用	-	11.6	**7.0**	-0.0	-4.6	-	10.8	**7.0**	-3.8
その他	0.8	0.0	**0.0**	-0.1	0.0	0.4	0.3	**0.1**	-0.1
特に何もしていない	13.3	5.0	**2.6**	1.2	-2.3	10.3	1.0	**1.4**	0.4

(5) 旅行先選択で重視した点【複数回答】

- 2022 年 1-9 月の沖縄旅行にあたって重視した点は『あまり人が密集しないような地域であること』が最も高く、以下、『各施設の感染対策が徹底されていること』、『宿泊先の滞在環境が充実していること』が続く。各施設や移動中の感染対策や地域医療体制、旅行者へのPCR検査推奨といった選択肢について、全国に比べてやや高い選択傾向であったことから、沖縄県内の様々な感染対策が旅行者にも評価されたと言えよう。一方、全国で最も重視した点は『公共交通機関を使わないで行けること』であった。
- 2021 年から 2022 年 1-9 月の変化をみると、『あまり人が密集しないような地域であること』や『新型コロナ感染者数が少ないこと』の重視度は、沖縄・全国ともに低下した。

(%)

	沖縄県				全国		
	2021年 (n=181)	2022年 1-9月 (n=114)	沖縄-全国	2022-2021	2021年 (n=5803)	2022年 1-9月 (n=4357)	2022-2021
あまり人が密集しないような地域であること	35.9	**33.3**	5.3	-2.6	37.8	**28.1**	-9.8
各施設の感染対策が徹底されていること	23.2	**27.2**	3.4	4.0	31.0	**23.8**	-7.2
宿泊先の滞在環境が充実していること	27.1	**23.7**	3.6	-3.4	23.5	**20.0**	-3.5
コロナに関係なく以前から行きたい旅行先であること	19.9	**21.9**	3.3	2.0	15.5	**18.6**	3.2
公共交通機関を使わないで行けること	12.7	**17.5**	-11.9	4.8	36.6	**29.4**	-7.2
移動中の感染対策が徹底されていること	14.9	**17.5**	2.7	2.6	21.6	**14.9**	-6.8
居住地域から近い地域であること	5.0	**13.2**	-2.6	8.2	19.6	**15.7**	-3.9
旅行先が歓迎の意を表していること	8.8	**11.4**	4.6	2.6	8.7	**6.8**	-1.8
地域全体で感染対策が徹底されていること(認証制度等)	9.4	**10.5**	0.2	1.1	12.2	**10.3**	-1.9
愛着のある地域であること／会いたい人がいること	8.3	**9.6**	0.9	1.4	9.2	**8.8**	-0.4
地域の医療体制が整っていること	1.1	**7.0**	4.2	5.9	3.1	**2.8**	-0.3
旅行者にPCR検査を推奨していること	3.9	**5.3**	2.4	1.4	2.1	**2.9**	0.8
新型コロナ感染者数が少ないこと	9.4	**5.3**	-2.6	-4.1	18.8	**7.8**	-11.0
分散化対策がなされていること	2.8	**3.5**	1.0	0.7	3.7	**2.5**	-1.1
旅行の割引支援・プランがあること	1.7	**3.5**	-5.5	1.9	6.3	**9.0**	2.7
その他	1.7	**0.0**	-0.7	-1.7	1.4	**0.7**	-0.6
特に重視した点はない／同行者の意向	24.9	**20.2**	-0.2	-4.7	15.0	**20.4**	5.4

（参考）今後も続けてほしい感染対策

- コロナ禍で観光施設等で変化したことで、今後も続けてほしいことを尋ねたところ、『手指消毒剤の設置』及び『混雑状況の見える化』を過半数が望んだ。回答傾向は年代によって異なり、20代は『混雑状況の見える化』を望む声が最多となった一方、60～70 代は、『ソーシャルディスタンスをとった座席配置』や『利用者に対するマスク着用の推奨』を望む声が大きい。

図　コロナ禍で観光施設や宿泊施設等で変化したことで、今後も続けてほしいこと
（全国・国内宿泊観光旅行実施者のみ、2022 年 10 月）【複数回答】

(%)

	全体	男性						女性					
		20代	30代	40代	50代	60代	70代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
手指消毒剤の設置	54.6	33.3	47.4	47.0	56.0	55.0	59.5	50.8	52.1	59.4	61.4	62.8	66.0
混雑状況の見える化	51.4	60.3	44.7	45.0	49.5	42.5	49.4	57.4	63.0	56.3	61.4	50.0	42.6
スタッフによる定期的な消毒	44.6	25.4	42.1	38.0	31.9	32.5	49.4	44.3	46.6	56.3	53.4	54.7	56.4
ｿｰｼｬﾙﾃﾞｨｽﾀﾝｽをとった座席配置	43.9	22.2	27.6	36.0	47.3	41.3	57.0	27.9	45.2	45.8	46.6	61.6	61.7
利用者に対するマスク着用の推奨	40.0	25.4	28.9	26.0	38.5	43.8	54.4	32.8	34.2	37.5	46.6	54.7	54.3
キャッシュレス決済	36.3	38.1	38.2	34.0	38.5	30.0	27.8	37.7	38.4	40.6	40.9	33.7	37.2
利用人数の制限	33.7	17.5	30.3	25.0	38.5	27.5	39.2	24.6	34.2	40.6	44.3	36.0	41.5
利用者の検温や体調チェック	29.8	17.5	21.1	26.0	30.8	35.0	44.3	18.0	20.5	20.8	38.6	31.4	47.9
非接触型のチェックイン・チェックアウト	29.7	23.8	26.3	34.0	28.6	22.5	26.6	34.4	31.5	34.4	36.4	29.1	27.7
ビュッフェでの手袋着用	29.7	12.7	26.3	20.0	26.4	21.3	32.9	18.0	24.7	34.4	48.9	43.0	40.4
入館・入店時の事前予約制	29.5	33.3	27.6	25.0	24.2	22.5	20.3	31.1	35.6	37.5	38.6	29.1	24.5
飲食店でのパーテーション	20.5	9.5	17.1	14.0	22.0	26.3	30.4	13.1	16.4	21.9	28.4	23.3	22.3
ｿｰｼｬﾙﾃﾞｨｽﾀﾝｽ確保を促す目印等	19.1	14.3	13.2	15.0	11.0	18.8	22.8	14.8	11.0	21.9	27.3	29.1	28.7
感染予防対策の紹介	10.8	12.7	6.6	7.0	6.6	8.8	11.4	4.9	9.6	12.5	17.0	11.6	19.1
連泊時の客室清掃の削減	9.5	6.3	9.2	10.0	8.8	11.3	6.3	1.6	9.6	12.5	14.8	8.1	12.8
ワーケーションプランやスペース	3.7	4.8	3.9	4.0	5.5	2.5	1.3	3.3	2.7	2.1	5.7	3.5	4.3
その他	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.2	1.1
特にない	10.0	15.9	14.5	11.0	9.9	8.8	15.2	8.2	6.8	9.4	4.5	7.0	10.6

各性・年代別　1位　2位　3位

（参考）地域住民の観光に対する思い

- 居住地域に旅行者が訪れることについてどう思うかを尋ねた結果を以下に示す。コロナ禍においては、一時は、観光客を感染の原因とみなす風潮もあったことからか、2022 年 1 月時点では、「あまり来て欲しくない」「来て欲しくない」をあわせて 4 割を超えていた。その値は徐々に減少しており、住民としての受入意向は徐々に回復傾向にある。しかしながら、「あまり来て欲しくない」「来て欲しくない」との回答は、2022 年 10 月にあっても回答者の 1 ／ 4 を占めた。
- 属性別にみると、高齢者、コロナへの不安が大きい人は、来て欲しくないという意向が高い。

図 居住地域に旅行者が訪れることに対する思い 【日本全体】

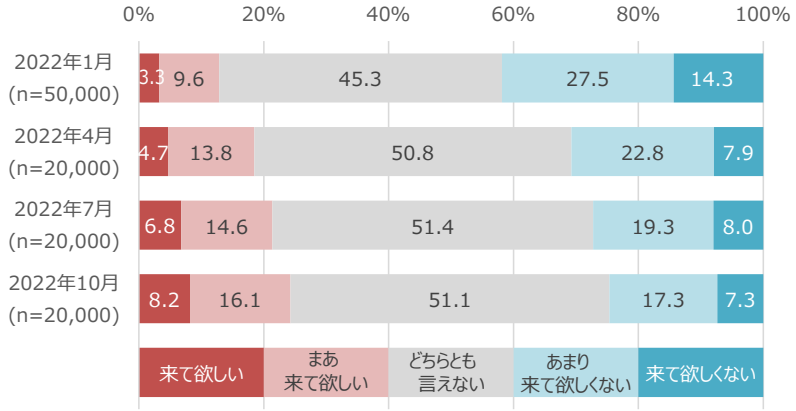


図 居住地域に旅行者が訪れることへの思い 【2022 年 10 月】（性・年代別）

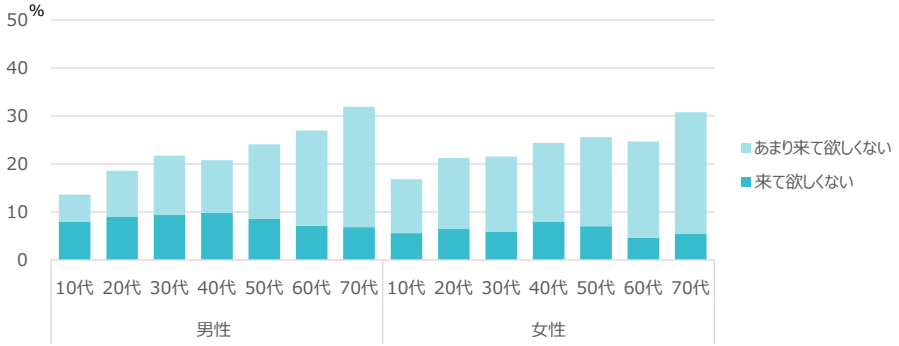
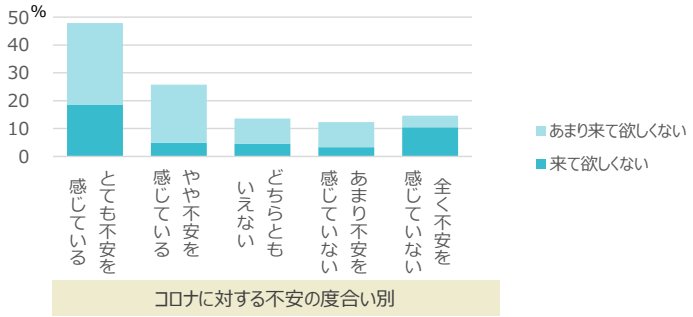


図 居住地域に旅行者が訪れることへの思い 【2022 年 10 月】（不安の度合い別）



- 沖縄県居住者をみると、日本全体同様、徐々に受け入れ意向は回復傾向にある。また、日本全体に比べて「来て欲しい＋まあ来て欲しい」が高く、観光客を歓迎する人が多い。一方、「来て欲しくない＋あまり来て欲しくない」は全体と同程度であった。
- 年代問わず、全ての年代で受け入れ意向が回復傾向にあるが、60～70 代は来て欲しくない層の減少幅が他年代に比べて小さい。直近の調査時点である 2022 年 10 月において、20～40 代の歓迎意向は 4～5 割を占める一方、60～70 代では 3 割程度にとどまり、来て欲しくないという意向のある層（「あまり来て欲しくない」＋「来て欲しくない」）が 3～4 割を占める。

図　居住地域に旅行者が訪れることに対する思い 【沖縄県居住者】

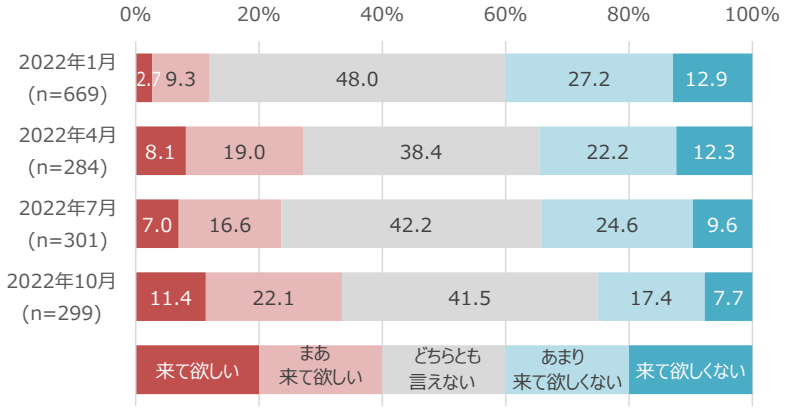
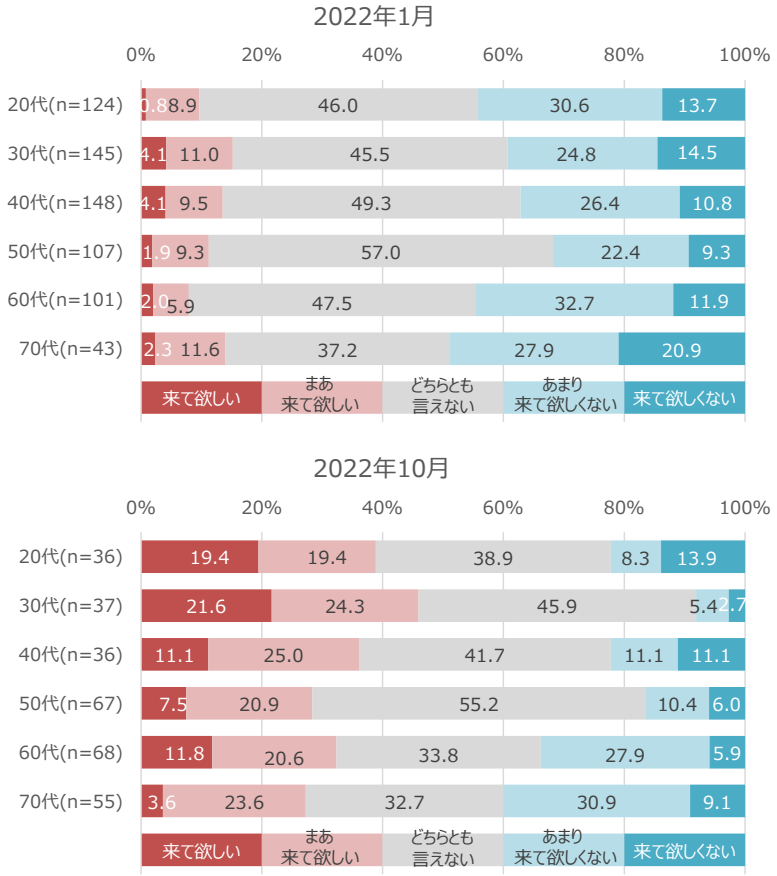


図　居住地域に旅行者が訪れることへの思い 【沖縄県居住者】（年代別）



第 4 章　沖縄旅行意向者の特徴・ニーズ

本章では、沖縄への旅行意向がある者の特徴やニーズを把握するため、コロナ禍前の 2019 年、コロナ禍の 2020 年、2021 年、2022 年の沖縄旅行意向者の属性や意識についての経年比較分析、国内旅行意向者全体との比較分析を行う。

1.　沖縄旅行意向者の属性

(1) 性別・年代

- 沖縄旅行意向者は全体に比べて『20～40 代』が多く、コロナ禍前及び前年で比較してもその傾向は変わらない。

(%)

		沖縄旅行意向者（最も行きたい国内旅行先が沖縄）						国内旅行意向者全体				
		2019年 (n=288)	2020年 (n=330)	2021年 (n=297)	2022年 (n=288)	2022-2021	沖縄-全国	2019年 (n=1,380)	2020年 (n=1,370)	2021年 (n=1,376)	2022年 (n=1,318)	2022-2021
性別	男性	52.8	48.5	54.2	54.2	0.0	4.0	49.9	50.2	50.3	50.2	-0.1
	女性	47.2	51.5	45.8	45.8	0.0	-4.0	50.1	49.8	49.7	49.8	0.1
年代	10代	2.8	3.0	1.3	1.4	0.1	-0.1	2.1	3.6	1.9	1.5	-0.4
	20代	16.3	14.5	17.8	18.1	0.3	5.7	14.1	11.7	14.5	12.4	-2.1
	30代	23.6	24.5	23.2	19.8	-3.4	5.5	16.7	15.9	16.3	14.3	-2.0
	40代	23.3	21.5	25.3	22.9	-2.4	3.2	20.1	19.1	19.6	19.7	0.1
	50代	13.5	17.0	14.5	14.9	0.4	-2.4	15.6	16.3	14.9	17.3	2.4
	60代	11.8	13.0	12.5	13.2	0.7	-4.0	17.1	19.8	18.9	17.2	-1.7
	70代	8.7	6.4	5.4	9.7	4.3	-7.9	14.3	13.7	14.0	17.6	3.6

(2) 居住地

- 沖縄旅行意向者の居住地は、コロナ禍前から全体に比べて『関東』が多く、コロナ禍においてもその傾向が続く。
- 沖縄旅行意向者、全体ともに、コロナ禍で減少していた『大都市』が増加。特に、沖縄旅行意向者で顕著であった。

(%)

		沖縄旅行意向者（最も行きたい国内旅行先が沖縄）						国内旅行意向者全体				
		2019年 (n=288)	2020年 (n=330)	2021年 (n=297)	2022年 (n=288)	2022-2021	沖縄-全国	2019年 (n=1,380)	2020年 (n=1,370)	2021年 (n=1,376)	2022年 (n=1,318)	2022-2021
居住地	北海道・東北	12.2	10.3	12.8	14.6	1.8	3.0	11.4	10.8	12.0	11.6	-0.4
	関東	46.2	42.4	45.1	44.1	-1.0	5.9	41.3	34.1	35.2	38.2	3.0
	中部・北陸	13.5	12.7	14.5	14.2	-0.3	-0.7	15.5	15.3	15.8	14.9	-0.9
	近畿	12.5	18.2	13.1	14.2	1.1	-0.1	14.5	18.2	15.2	14.3	-0.9
	中四国・九州・沖縄	15.6	16.4	14.5	12.8	-1.7	-8.3	17.3	21.6	21.8	21.1	-0.7
都市規模	大都市（政令市及び東京都区部）	37.2	33.9	33.7	38.2	4.5	3.8	36.1	33.4	33.6	34.4	0.8
	中都市（大都市除く人口15万以上の市）	33.7	28.5	30.6	26.0	-4.6	-4.0	31.7	30.3	29.1	30.0	0.9
	小都市（人口15万未満の市）	22.6	27.9	25.3	27.1	1.8	-0.9	26.0	27.2	28.7	28.0	-0.7
	町村	6.6	9.7	10.4	8.7	-1.7	1.1	6.2	9.1	8.6	7.6	-1.0

(3) ライフステージ

- 沖縄旅行意向者は、コロナ禍前から全体に比べて男女ともに『子育て世代』の比率が高く、『子育て後』の比率が低い。コロナ禍においてもその傾向は続き、特に、女性で顕著であった。

(%)

		沖縄旅行意向者（最も行きたい国内旅行先が沖縄）						国内旅行意向者全体				
		2019年 (n=288)	2020年 (n=330)	2021年 (n=297)	2022年 (n=288)	2022-2021	沖縄-全国	2019年 (n=1,380)	2020年 (n=1,370)	2021年 (n=1,376)	2022年 (n=1,318)	2022-2021
ライフステージ	男性・未婚	11.8	10.9	11.1	13.2	2.1	3.2	10.9	10.1	11.3	10.0	-1.3
	男性・既婚/子供なし	3.8	1.8	2.4	3.1	0.7	0.2	3.3	2.4	2.5	2.9	0.4
	男性・子育て中	26.4	27.6	34.0	26.4	-7.6	3.1	23.3	25.3	25.0	23.3	-1.7
	男性・子育て後	10.1	8.5	5.7	10.4	4.7	-3.0	11.6	12.4	11.4	13.4	2.0
	女性・未婚	7.6	6.1	7.7	7.3	-0.4	-0.4	8.6	7.8	8.9	7.7	-1.2
	女性・既婚/子供なし	2.1	3.3	1.3	2.1	0.8	0.1	2.4	2.0	2.0	2.0	0.0
	女性・子育て中	27.4	32.1	29.6	29.2	-0.4	6.4	24.9	23.4	22.2	22.8	0.6
	女性・子育て後	10.1	9.7	7.1	7.3	0.2	-9.1	13.6	16.3	16.5	16.4	-0.1
	無回答	0.7	0.0	1.0	1.0	0.0	-0.5	1.4	0.2	0.2	1.5	1.3

(4) 世帯収入

- 沖縄旅行意向者の世帯年収は、コロナ禍前は『1,000 万円以上』が 1 割弱だったが、コロナ禍においてはその比率が高まり、2021 年・2022 年は 1.5 割程度となった。コロナ禍では海外への旅行が困難な状況であったことから、高所得者層には、海外旅行から沖縄旅行に振り替える動きがあったものと考えられる。そのためもあってか、コロナ禍においては、沖縄旅行意向者のほうが、全体よりも世帯年収が若干高めであった。

(%)

		沖縄旅行意向者（最も行きたい国内旅行先が沖縄）						国内旅行意向者全体				
		2019年 (n=288)	2020年 (n=330)	2021年 (n=297)	2022年 (n=288)	2022-2021	沖縄-全国	2019年 (n=1,380)	2020年 (n=1,370)	2021年 (n=1,376)	2022年 (n=1,318)	2022-2021
世帯収入	400万円未満	29.9	24.2	21.5	29.2	7.7	-3.2	30.7	30.6	32.7	32.4	-0.3
	400～500万円未満	13.9	16.7	11.1	12.8	1.7	-1.1	14.6	15.3	12.9	13.9	1.0
	500～600万円未満	11.5	11.8	13.8	12.2	-1.6	0.6	9.9	12.3	11.0	11.6	0.6
	600～700万円未満	9.4	11.2	14.5	13.2	-1.3	2.7	10.4	10.9	11.0	10.5	-0.5
	700～800万円未満	11.1	8.8	9.8	7.3	-2.5	-0.2	9.9	8.8	9.1	7.5	-1.6
	800～1,000万円未満	12.2	13.9	10.4	9.0	-1.4	-0.5	10.0	10.3	10.0	9.5	-0.5
	1,000万円以上	9.4	12.4	16.8	14.2	-2.6	2.1	10.7	10.1	11.1	12.1	1.0
	収入なし	0.7	0.3	0.0	0.3	0.3	-0.3	0.4	0.7	0.4	0.6	0.2
	無回答	2.1	0.6	2.0	1.8	-0.2	-0.1	3.6	1.1	1.6	1.9	0.3

(5) 旅行頻度

- 沖縄旅行意向者、全国ともに、コロナ禍前に比べて、旅行慣れしている人（年に 1 回以上旅行に行く人）の比率が高まった。

(%)

		沖縄旅行意向者（最も行きたい国内旅行先が沖縄）						国内旅行意向者全体				
		2019年 (n=288)	2020年 (n=330)	2021年 (n=297)	2022年 (n=288)	2022-2021	沖縄-全国	2019年 (n=1,380)	2020年 (n=1,370)	2021年 (n=1,376)	2022年 (n=1,318)	2022-2021
旅行頻度	あまり行かない	28.8	19.7	23.9	26.4	2.5	2.8	30.4	24.5	25.2	23.6	-1.6
	２年に１回程度	9.4	9.1	7.1	7.6	0.5	-1.8	9.3	10.7	7.8	9.4	1.6
	年に１～２回程度	47.6	57.0	54.5	50.3	-4.2	-1.7	46.0	51.1	50.2	52.0	1.8
	年に３～５回程度	11.8	11.8	12.1	12.5	0.4	0.7	10.4	11.0	13.5	11.8	-1.7
	年に６回以上	2.4	1.8	2.0	3.1	1.1	0.4	2.6	2.3	2.9	2.7	-0.2
	無回答	0.0	0.6	0.3	0.1	-0.2	-0.4	1.3	0.4	0.4	0.5	0.1
	2年に1回以下	38.2	28.8	31.0	34.0	3.0	1.0	39.6	35.2	33.0	33.0	0.0
	年に1回以上	61.8	70.6	68.7	65.9	-2.8	-0.6	59.1	64.4	66.6	66.5	-0.1

2. 沖縄旅行意向者のニーズ

(1) 旅行の動機【複数回答】

- 沖縄旅行意向者の旅行動機は、2020 年以降、『日常生活からの解放』が継続して最も多く、コロナ禍においてその傾向が強くなっている。全国的にも、『日常生活からの解放』がトップとなり、ここ 3 年トップだった『旅先のおいしいもの』が次点となった。
- 全国と比べて、沖縄により求められているものは、『日常生活からの解放』、『思い出をつくる』、『保養、休養』、『ぜいたくしたい』であり、この傾向は前年と変わらない。

(%)

		沖縄旅行意向者（最も行きたい国内旅行先が沖縄）						国内旅行意向者全体				
		2019年 (n=288)	2020年 (n=330)	2021年 (n=297)	2022年 (n=288)	2022-2021	沖縄-全国	2019年 (n=1,380)	2020年 (n=1,370)	2021年 (n=1,376)	2022年 (n=1,318)	2022-2021
旅行の動機	日常生活から解放されるため	62.8	73.0	73.4	71.9	-1.5	3.1	62.5	64.8	65.6	68.8	3.2
	旅先のおいしいものを求めて	63.5	70.3	68.7	63.5	-5.1	-4.3	65.0	67.3	68.1	67.8	-0.3
	思い出をつくるため	61.8	64.2	65.3	59.4	-5.9	4.9	56.8	56.4	56.5	54.5	-2.0
	保養、休養のため	47.2	51.2	49.8	46.5	-3.3	1.5	44.3	44.5	47.2	45.0	-2.2
	家族の親睦のため	47.2	50.9	48.8	40.6	-8.2	-0.6	45.0	46.2	42.0	41.2	-0.8
	美しいものにふれるため	27.8	38.2	36.7	37.8	1.1	1.2	34.2	38.3	37.7	36.6	-1.1
	未知のものにふれたくて	30.2	30.0	32.3	29.9	-2.5	-0.8	32.0	30.0	31.9	30.7	-1.2
	友達とのつきあいを楽しむため	17.0	24.2	20.5	24.3	3.8	3.0	20.9	23.9	22.6	21.3	-1.3
	感動したい	26.0	26.1	29.0	24.3	-4.7	-4.5	28.7	27.8	30.7	28.8	-1.9
	ぜいたくしたい	12.2	14.2	13.1	15.6	2.5	4.1	9.5	10.9	11.4	11.5	0.1
	知識や教養を深めるため	18.1	17.6	13.8	12.5	-1.3	-5.9	20.1	19.9	19.3	18.4	-0.9
	現地の人や生活にふれたくて	14.9	11.8	14.8	11.1	-3.7	-0.7	13.6	11.2	12.6	11.8	-0.8
	思い出の場所を訪れるため	9.0	13.0	9.4	7.3	-2.1	-3.0	10.7	12.4	11.1	10.3	-0.8
	何の予定もない時間を求めて	5.6	4.5	6.4	5.2	-1.2	-1.1	5.7	4.7	5.4	6.3	0.9
	なんとなく	1.7	3.0	4.4	3.1	-1.3	-0.8	3.8	3.3	4.2	3.9	-0.3
	自分を見つめるため	2.8	2.4	2.4	3.1	0.8	0.1	3.0	3.0	2.8	3.0	0.2
	ハプニングを求めて	2.1	2.4	3.4	2.8	-0.6	0.8	1.4	1.5	1.7	2.0	0.3
	みんなが行くから	2.4	2.1	1.0	2.1	1.1	-0.7	3.5	2.4	1.4	2.8	1.4
	健康増進のため	3.8	1.8	2.0	1.4	-0.6	-1.9	4.2	2.9	3.3	3.3	0.0
	新しい友達を求めて	0.7	0.3	1.0	1.0	0.0	-0.1	1.1	0.7	1.0	1.1	0.1
	一人になりたい	0.7	1.8	2.0	0.7	-1.3	-1.2	2.0	2.1	2.8	1.9	-0.9
	旅行をしたいとは思わない	0.7	0.3	1.3	1.4	0.0	-0.0	0.8	1.0	1.5	1.4	-0.1
	上記のいずれにもあてはまらない	1.0	0.6	0.3	0.0	-0.3	-0.1	0.4	0.4	0.4	0.1	-0.3
	無回答	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	0.2	0.1

(2) 今後１～２年の間に行ってみたい旅行タイプ【複数回答】

- 沖縄旅行意向者の行ってみたい旅行タイプのトップは、2019 年以降継続して『海浜リゾート』であり、全国と比較して大幅に高い選択率となった。その他、全国と比べて特徴的な旅行タイプは、『離島観光』、『海水浴』、『リゾートホテル』、『マリンスポーツ』、『ロングステイ』など、前年同様、いわゆる海や島、リゾート関連の旅行タイプであった。
- 一方、全体における上位は『温泉旅行』、『自然観光』、『現地グルメ』、『歴史・文化観光』、『テーマパーク・レジャーランド』などであった。

(%)

		沖縄旅行意向者（最も行きたい国内旅行先が沖縄）						国内旅行意向者全体				
		2019年 (n=288)	2020年 (n=330)	2021年 (n=297)	2022年 (n=288)	2022-2021	沖縄-全国	2019年 (n=1,380)	2020年 (n=1,370)	2021年 (n=1,376)	2022年 (n=1,318)	2022-2021
行ってみたい旅行タイプ	海浜リゾート	54.9	56.1	62.0	52.8	-9.2	19.2	34.8	33.1	37.3	33.5	-3.7
	温泉旅行	49.7	45.8	59.3	51.7	-7.5	-0.7	51.2	48.3	58.4	52.4	-5.9
	自然観光	46.9	49.7	51.9	49.7	-2.2	-1.2	51.5	49.3	50.7	50.8	0.2
	現地グルメ	47.2	42.7	48.1	44.8	-3.4	1.2	44.4	42.9	45.9	43.6	-2.3
	テーマパーク・レジャーランド	31.6	38.8	49.8	37.5	-12.3	2.8	33.3	32.8	41.5	34.7	-6.8
	歴史・文化観光	38.2	32.1	35.0	34.0	-1.0	-6.9	43.6	38.6	41.6	40.9	-0.7
	都市観光	25.7	28.5	27.3	30.2	2.9	1.0	26.9	25.4	29.8	29.2	-0.6
	離島観光	-	-	32.3	27.8	-4.5	7.2	-	-	23.7	20.6	-3.1
	海水浴	24.3	23.0	25.3	24.7	-0.6	11.9	14.9	12.1	15.0	12.7	-2.2
	リゾートホテル	26.4	22.1	37.4	21.5	-15.8	4.4	18.3	16.8	24.4	17.1	-7.3
	ショッピング	20.8	25.5	29.3	20.8	-8.5	2.2	18.4	19.9	24.9	18.6	-6.3
	マリンスポーツ	25.0	23.0	24.6	20.5	-4.1	10.3	12.8	12.2	14.0	10.2	-3.8
	動物園・水族館	22.2	16.7	26.6	20.1	-6.5	1.5	18.3	16.0	23.7	18.7	-5.0
	ロングステイ	26.0	26.4	31.0	18.4	-12.6	4.1	21.2	21.1	23.7	14.3	-9.4
	おしゃべり旅行	13.2	16.4	17.2	16.7	-0.5	-1.4	12.2	13.9	17.2	18.1	0.8
	世界遺産巡り	22.2	15.2	21.9	16.7	-5.2	-4.1	21.6	17.7	23.0	20.8	-2.2
	町並み散策	20.5	17.6	18.9	16.3	-2.5	-3.4	23.6	22.5	24.3	19.7	-4.5
	和風旅館	14.9	16.1	23.2	15.6	-7.6	-3.6	17.5	17.4	23.4	19.3	-4.1
	高原リゾート	15.3	17.6	22.9	14.2	-8.7	-0.7	14.2	14.3	23.0	14.9	-8.1
	スキー・スノーボード	16.7	13.0	17.5	12.8	-4.7	3.3	9.8	8.9	13.5	9.6	-4.0
	自然現象鑑賞	10.8	9.7	11.1	12.5	1.4	1.1	12.0	11.3	14.8	11.4	-3.4
	キャンプ	-	-	-	12.2	-	2.2	-	-	-	9.9	-
	祭・イベント	8.7	10.0	13.1	11.8	-1.3	-0.6	9.6	11.0	15.0	12.4	-2.6
	グランピング	-	-	-	11.5	-	3.9	-	-	-	7.6	-
	パワースポット	14.2	10.9	18.2	10.4	-7.8	0.2	14.7	12.0	16.2	10.2	-6.0
	ホテルステイ	9.4	14.2	12.5	10.4	-2.0	1.5	9.1	10.4	11.6	9.0	-2.6
	花の名所巡り	8.7	7.6	9.1	9.4	0.3	-3.8	13.3	10.7	15.2	13.2	-2.0
	観光列車旅行	16.3	10.0	7.1	9.4	2.3	-4.7	15.8	14.7	15.3	14.1	-1.1
	秘境ツアー	9.4	8.8	12.1	8.3	-3.8	-0.1	9.7	8.8	12.1	8.4	-3.7
	スポーツ観戦	9.7	8.8	12.1	8.0	-4.1	-0.1	10.9	8.3	11.7	8.0	-3.7

※沖縄旅行意向者 2022 年の上位 30 位までを掲載　-：選択肢未設定

(注)本設問は、最も行きたい旅行先で行いたい旅行タイプではない点に注意（沖縄旅行意向者が沖縄に限らず旅行を実施するにあたって行いたい旅行タイプであり、沖縄で行いたい旅行タイプではない）。

(3) 旅行タイプ別の今後１～２年の間に行ってみたい旅行先

- 旅行タイプ別に行ってみたい旅行先を尋ねたところ、沖縄県が上位３位以内となった旅行タイプは、『自然観光』、『海浜リゾート』、『マリンスポーツ』、『離島観光』、『海水浴』、『リゾートホテル』、『動物園・水族館』、『ロングステイ』、『ホテルステイ』などであった。
- これらのなかで、コロナ禍前の 2019 年及び前年と比べて沖縄県のシェアが高まったのは、『マリンスポーツ』、『ロングステイ』、『自然観光』、『海浜リゾート』であった。この理由としては、コロナ禍において海外のシェアが縮小したことなどが考えられる。

行ってみたい旅行タイプ上位6位

温泉旅行

2019年（n=742）			2020年（n=691）			2021年（n=836）			2022年（n=716）		
1位	大分県	16.4%	1位	大分県	16.6%	1位	大分県	22.5%	1位	大分県	17.5%
2位	群馬県	12.5%	2位	群馬県	12.0%	2位	神奈川県	14.2%	2位	群馬県	16.5%
3位	静岡県	7.3%	3位	神奈川県	6.5%	3位	群馬県	8.9%	3位	神奈川県	8.4%

自然観光

2019年（n=742）			2020年（n=701）			2021年（n=725）			2022年（n=693）		
1位	北海道	22.4%	1位	北海道	19.8%	1位	北海道	27.2%	1位	北海道	27.0%
2位	沖縄県	8.0%	2位	沖縄県	8.7%	2位	沖縄県	10.1%	2位	沖縄県*	11.1%
3位	ハワイ	7.0%	3位	ハワイ	6.0%	3位	鹿児島県	4.3%	3位	ハワイ	6.1%

*石垣島：5、西表島：3、宮古島：1

現地グルメ

2019年（n=631）			2020年（n=605）			2021年（n=655）			2022年（n=593）		
1位	北海道	40.7%	1位	北海道	36.7%	1位	北海道	41.8%	1位	北海道	42.0%
2位	韓国	6.7%	2位	台湾	6.4%	2位	石川県	6.1%	2位	韓国	5.6%
3位	台湾	6.0%	3位	大阪府	4.6%	3位	韓国	3.7%	3位	福岡県	5.2%

歴史・文化観光

2019年（n=625）			2020年（n=547）			2021年（n=586）			2022年（n=549）		
1位	京都府	24.0%	1位	京都府	21.8%	1位	京都府	41.3%	1位	京都府	29.9%
2位	イタリア	9.0%	2位	イタリア	5.1%	2位	イタリア	5.3%	2位	イタリア	8.2%
3位	奈良県	5.6%	3位	広島県、フランス	2.9%	3位	石川県	3.9%	3位	奈良県	5.3%

テーマパーク・レジャーランド

2019年（n=474）			2020年（n=461）			2021年（n=585）			2022年（n=469）		
1位	大阪府	38.2%	1位	千葉県	36.9%	1位	千葉県	41.7%	1位	千葉県	41.6%
2位	千葉県	36.5%	2位	大阪府	25.8%	2位	大阪府	31.8%	2位	大阪府	36.0%
3位	東京都	8.4%	3位	東京都	8.2%	3位	東京都	5.5%	3位	東京都	6.8%

海浜リゾート

2019年（n=490）			2020年（n=466）			2021年（n=521）			2022年（n=452）		
1位	ハワイ	38.0%	1位	ハワイ	37.3%	1位	沖縄県	32.2%	1位	ハワイ	40.5%
2位	沖縄県	33.1%	2位	沖縄県	28.1%	2位	ハワイ	31.3%	2位	沖縄県*	35.2%
3位	グアム	5.1%	3位	グアム	3.2%	3位	和歌山県	5.0%	3位	グアム	4.9%

*石垣島：9、宮古島：2、西表島：1、久米島：1

※行ってみたい旅行先は、国内・ 海外問わずに自由に回答してもらい、その回答を国内は都道府県別（または地方別）、海外は国別（または島別）に整理して集計。
*沖縄県については、記述された具体的な観光地名（「沖縄県」「沖縄」といった回答は除く）を注釈に追加。数値は回答件数。

沖縄県が上位の旅行タイプ

マリンスポーツ

2019年（n=180）			2020年（n=170）			2021年（n=195）			2022年（n=135）		
1位	沖縄県	42.2%	1位	沖縄県	49.4%	1位	沖縄県	52.3%	1位	沖縄県*	61.5%
2位	ハワイ	28.3%	2位	ハワイ	20.0%	2位	ハワイ	22.6%	2位	ハワイ	17.8%
3位	グアム	7.8%	3位	グアム	6.5%	3位	グアム	6.2%	3位	グアム	8.1%

*石垣島：2、宮古島：2、西表島：1、慶良間：1

離島観光

2019年（n=-）	2020年（n=-）	2021年（n=335）			2022年（n=280）		
-	-	1位	沖縄県	48.7%	1位	沖縄県*	52.1%
		2位	鹿児島県	14.0%	2位	東京都	7.9%
		3位	東京都	10.7%	3位	鹿児島県	7.1%

*石垣島：32、宮古島：22、八重山諸島：4、西表島：3、与那国島：3、竹富島：2、小浜島：1、波照間島：1

海水浴

2019年（n=211）			2020年（n=169）			2021年（n=209）			2022年（n=170）		
1位	沖縄県	42.2%	1位	沖縄県	42.0%	1位	沖縄県	32.5%	1位	沖縄県*	40.6%
2位	ハワイ	25.1%	2位	ハワイ	27.2%	2位	ハワイ	20.1%	2位	ハワイ	20.6%
3位	グアム	6.6%	3位	静岡県	5.9%	3位	和歌山県、静岡県	9.6%	3位	静岡県	5.9%

*宮古島：3、石垣島：2、波照間島：1

リゾートホテル

2019年（n=258）			2020年（n=235）			2021年（n=342）			2022年（n=235）		
1位	沖縄県	26.0%	1位	沖縄県	20.9%	1位	沖縄県	30.1%	1位	沖縄県*	28.5%
2位	ハワイ	20.9%	2位	ハワイ	19.1%	2位	ハワイ	15.2%	2位	ハワイ	14.5%
3位	北海道	6.6%	3位	北海道	6.0%	3位	長野県	5.6%	3位	長野県	6.8%

*宮古島：3、恩納村：2、八重山諸島：1、恩納村：2、万座ビーチ：1、ザ・ブセナテラス：1

動物園・水族館

2019年（n=262）			2020年（n=226）			2021年（n=336）			2022年（n=265）		
1位	沖縄県	27.9%	1位	沖縄県	22.6%	1位	沖縄県	26.2%	1位	北海道	21.9%
2位	北海道	25.6%	2位	北海道	16.8%	2位	北海道	15.2%	2位	沖縄県*	21.5%
3位	和歌山県	8.0%	3位	和歌山県	9.3%	3位	和歌山県	9.8%	3位	和歌山県	13.2%

*美ら海水族館：13

ロングステイ

2019年（n=300）			2020年（n=301）			2021年（n=334）			2022年（n=193）		
1位	ハワイ	27.3%	1位	ハワイ	20.3%	1位	ハワイ	21.3%	1位	ハワイ	17.6%
2位	沖縄県	8.0%	2位	沖縄県	10.3%	2位	沖縄県	13.5%	2位	沖縄県*	15.5%
3位	アメリカ合衆国本土	7.0%	3位	アメリカ合衆国本土	6.3%	3位	アメリカ合衆国本土	4.5%	3位	オーストラリア・アメリカ本土	5.2%

*石垣島：1、宮古島：1

ホテルステイ

2019年（n=131）			2020年（n=144）			2021年（n=161）			2022年（n=121）		
1位	ハワイ	14.5%	1位	ハワイ	9.0%	1位	ハワイ	13.0%	1位	東京都	14.0%
2位	北海道、東京都	6.9%	2位	沖縄県	8.3%	2位	沖縄県	11.2%	2位	ハワイ	12.4%
			3位	東京都	5.6%	3位	東京都	8.7%	3位	沖縄県*	10.7%

*石垣島：2、宮古島：2、西表島：1、慶良間：1

おしゃべり旅行

2019年（n=180）			2020年（n=198）			2021年（n=249）			2022年（n=250）		
1位	北海道	6.7%	1位	静岡県	7.1%	1位	東京都、神奈川県	6.0%	1位	沖縄県	7.6%
2位	神奈川県	6.1%	2位	沖縄県	6.6%	2位	静岡県	5.6%	2位	北海道	6.4%
3位	東京都	5.0%	3位	北海道	5.6%	3位	沖縄県	4.8%	3位	静岡県	5.6%

ワーケーション

2022年（n=14）		
1位	沖縄県	28.6%
2位	神奈川県	14.3%
3位	和歌山県ほか	7.1%

エコツアー

2022年（n=47）		
1位	北海道	14.9%
2位	沖縄県	10.6%
3位	鹿児島県	8.5%

フォトスポット巡り

2022年（n=52）		
1位	沖縄県、アメリカ本土、韓国	9.6%

環境に優しい旅行

2022年（n=17）		
1位	北海道、沖縄県、ハワイほか	5.9%

第 5 章　沖縄に求められる取組・視点

今回の調査結果を踏まえ、コロナ禍からの観光再始動に向けて受入側の沖縄には以下の取組が重要になると考えられる。

	調査結果	求められる取組の視点
1	・コロナ禍による旅行への影響は徐々に弱まっており（p22【実施した旅行へのコロナ禍の影響】）、感染対策の実施率も徐々に低下（p25【旅行中の感染対策】）。 ・しかしながら、旅行者が継続を望む感染対策もあり、その対策は年代によって異なる（p27【今後も続けて欲しい感染対策】）。	**ポストコロナ時代の感染症対策への対応** 新型コロナウイルス感染症の警戒レベルは下がる傾向にあるが、感染症そのものが消えたわけではない。コロナ禍で定着した感染対策は、そのすべてを継続させる必要はないが、コロナウイルスとの共存を前提とし、今後も一定程度、基本的な対策として実施していくことが求められる。 ✓ 安心・安全の実現に向けては、スタッフによる定期的な消毒など、清潔な空間の提供は必須。さらに、感染対策をしたい人ができるような環境の提供も必要（例：手指消毒剤の設置の継続）。 ✓ 快適の実現に向けては、感染対策の一環で促進された、混雑状況の見える化、事前予約制、キャッシュレス決済、ゆとりのある座席配置などの継続・導入促進が期待される。
2	・沖縄県居住者は観光客の歓迎意向が高い一方で、来て欲しくないと思っている層も全国平均と同程度存在する（p28-29【地域住民の観光に対する思い】）。	**地域との調和** コロナ禍は、地域住民の観光に対する意識にも変化を与えたことは想像に難くない。コロナ禍からの再始動にあたっては、地域住民の観光に対する思いも大切にし、地域社会と観光を調和していくことがより一層求められる。現状、来て欲しくない層が一定数存在することから、インバウンドの受入再拡大においては予めオーバーツーリズム対策を意識するなど、地域住民の不安や不満に留意することが必要である。 （事例）宮古島では市民・観光客・事業者のアクションを具体的に記した「宮古島サスティナブルツーリズムガイドライン」を策定。西表島では環境省から「西表島エコツーリズム推進全体構想」の認定を受け、一部の観光資源に立入制限を設定している。
3	・初来訪者の来訪意向は高まった一方、リピーターの来訪意向が低下（p21【再来訪意向】）。 ・コロナ禍で落ち込んだ現地ツアー等の参加率は低水準が続き、特に沖縄の落ち込みが大きい（p15-16【現地ツアー等の参加率】）。	**質の高い体験型観光の促進** 観光客に「もう一度来たい」と思ってもらうためには、滞在中にいかに満足してもらうかが重要である。そのためには、沖縄ならではの観光資源を守りつつ、質の高い体験型観光の促進も欠かせない。 （事例）やんばるでは、環境に配慮した EV バスに乗車し、やんばるを知る地元ガイドが案内するネイチャーガイドツアーや、畑地の自然観察をしながら野菜の収穫体験ができる農家×ネイチャーガイドのコラボツアーなど、沖縄リピーターであっても楽しめるツアーを展開している。

第二部

第二部　訪日外国人旅行者のサステナブルツーリズムへの意向と沖縄観光について

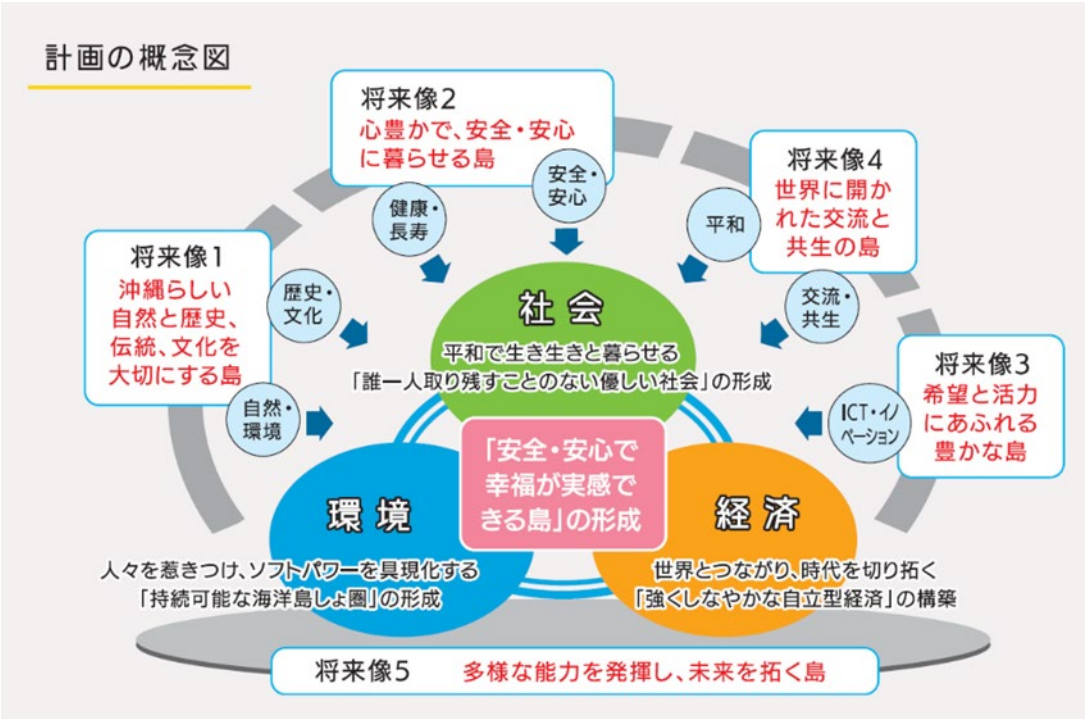
第1章　調査背景と目的

沖縄県は 2022 年 5 月 15 日に復帰 50 周年を迎え、同日付で、新・21 世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）が策定された。同基本計画の施策展開にあたっては、SDGs を取り入れ、社会・経済・環境の 3 つの側面が調和した「持続可能な沖縄の発展」と「誰一人取り残さない社会」を目指している。

当計画では、2030 年の将来像として「沖縄らしい自然と歴史、伝統、文化を大切にする島」、「心豊かで、安全・安心に暮らせる島」「希望と活力にあふれる豊かな島」「世界に開かれた交流と共生の島」「多様な能力を発揮し、未来を拓く島」を掲げているが、これはまさに「サステナブル＝持続可能な社会の実現」に向けた目標である。

また、観光分野に関する計画として「第 6 次沖縄県観光振興基本計画」が策定されており、当計画の目指す将来像は、「世界から選ばれる持続可能な観光地」－世界とつながり、時代を切り開く「美ら島　沖縄」－で、将来像のミッションとして、「県民、観光客、観光業従事者が、自然、歴史、文化を尊重しそれぞれの満足度を高めるとともに、環境容量の範囲において観光産業の成長と維持を目指すことで沖縄経済を最適に活性化させる」としている。

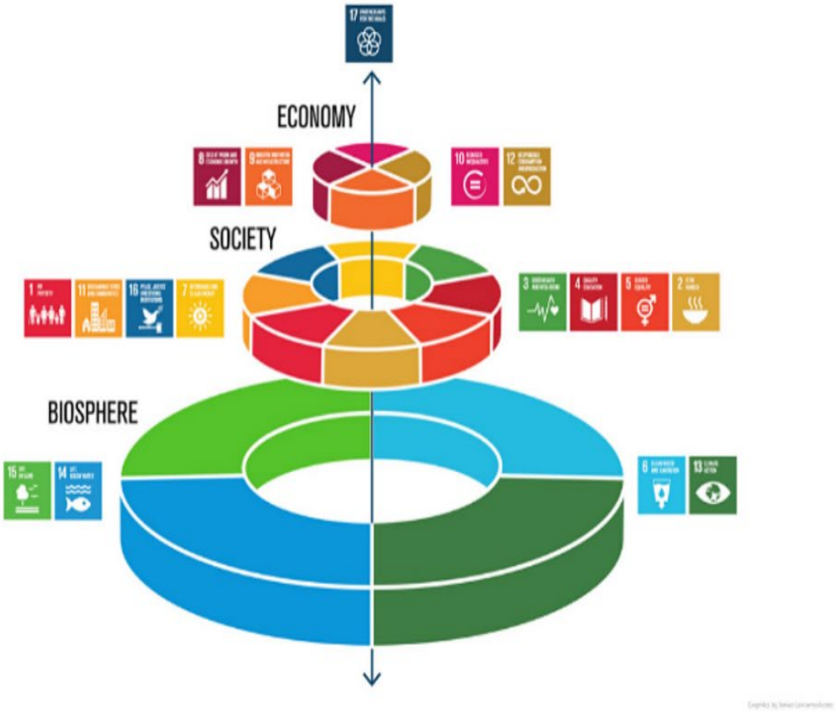
新・21 世紀ビジョン基本計画の概念図



出典：沖縄県「新・21 世紀ビジョン基本計画」パンフレット

新・21 世紀ビジョン基本計画の概念図は、SDGs（持続可能な開発目標）が目指す、「経済」「社会」「環境」の 3 つのバランスの取れた社会を示しているが、これら 3 つの関係性をわかりやすく示した図として、スウェーデンにあるレジリエンス研究所の所長が考案した、SDGs の概念を表す構造モデル「SDGs ウェディングケーキモデル」がある。

SDGsウェディングケーキ



出典：「The SDGs wedding cake」（Stockholm Resilience Center）

このモデルでは、17 の目標を 3 つの階層に分類しており、下から「Biosphere（生物圏）」「Society（社会圏）」「Economy(経済圏)」の順で積み重なり、頂点には目標 17「パートナーシップで目標を達成しよう」がある。

「生物圏」にある SDGs の目標には、環境問題や気候変動に関する目標が含まれており、「自然環境」なくして、社会を形成し経済活動をすることができない、いわば土台の課題ということを示している。「海洋島しょ圏・沖縄」に当てはめてみると、沖縄の海洋資源、すなわち生物圏の上に歴史・文化・社会が成り立っており、これらを観光資源として経済を発展させるのであれば、「生物圏」はもちろん、「社会圏」の持続可能性も念頭に置かなければならない、ということである。

2023 年は、本格的なインバウンド再開の年になると見込まれるが、沖縄が「世界から選ばれる持続可能な観光地」を目指すにあたっては、改めて持続可能な観光、すなわちサステナブルツーリズムを考える必要があろう。2023 年 3 月末現在の沖縄は、日本人観光客が順調に回復しているが、インバウンドの再開を前に、改めて足元を確認する機会として、「サステナブル」や「サステナブルツーリズム」について、各種調査から取りまとめ、沖縄に求められる取組について考察する。

第 2 章　調査要旨

・「サステナブルツーリズム」は、国連世界観光機関(UNWTO)にて、「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義されており、日本では「持続可能な観光」と訳されている。
・今次調査データの提供を受けた「DBJ・JTBF アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査」（以下、「本調査」という）では、「サステナブルな取組」を『地域の「自然や生物多様性の保全等」、「伝統・文化の保存・継承」、「地域経済の活性化や地域づくり」の保護と貢献への取組』と定義している。

〇インバウンドの本格的な再開にあたり、アジアからの訪日旅行希望者にもサステナブルへの意識が高い層がいることや、サステナブルな取組に関心の高い沖縄訪問希望者がいる、ということを認識する必要がある。
〇「サステナブルな取組」を行う目的は、「沖縄の地域資源（自然環境、伝統・文化等）を次の世代に残しつつ、観光で地域を豊かにすること」。事業者だけではなく、県民も含め地域全体で「自分ごと」として考え、各々ができることに取り組むことが、国や沖縄県が目指す「持続可能な観光地域づくり」に繋がるものと考えられる。

・「サステナブル」「サステナブルツーリズム」に関する意識調査は、世界中で様々な機関が実施しているが、概ね欧州諸国が上位を占め、日本をはじめアジア諸国の順位は低い傾向がある。しかし本調査では、アジア居住者のサステナブルへの意識が高い傾向がみられた。本調査がインターネット調査であることや、調査対象者が海外旅行経験者であることから、各国の中では比較的年収や学歴が高く、サステナブルへの知識が高い層が多いと推測しうるが、訪日旅行ができるのは相応の所得層と考えれば、受入側としては、欧米豪はもちろん、アジアからの訪日旅行者にもサステナブルへの意識が高い層がいることを認識しておく必要があろう。
・さらに本調査では、沖縄訪問希望者には、「サステナブルな取組を重視する者」よりもさらにサステナブルな取組への関心が高い傾向がみられた。沖縄訪問希望者は「沖縄＝ビーチリゾート（自然環境が観光資源）」というイメージを持つ人も多いと推測されることから、サステナブルな取組への期待も高いと考えられる。
・沖縄県内には、サステナブルな国際認証基準を取得する等、高いレベルのサステナブルな取組を行っている自治体や事業者がいるが、取組を実践している方々に共通するのは、「地域資源を次の世代に残すことを意識しながら、観光で地域を豊かにすること」を目標・目的としている点である。
・観光庁が公表した「観光立国推進基本計画」改定案(対象年度 2023 年～25 年度)では、「持続可能な観光地域づくり」が柱の 1 つである。観光は、コロナ禍を経た現在そして将来に渡り、日本の成長戦略の柱、地域活性化の切り札と位置付けられており、観光立県・沖縄も同様である。「サステナブルツーリズム」は、冒頭の定義のとおり、自然環境はもちろんのこと、地域社会や経済活動への影響も配慮した幅広い概念であり、地域全体に関わるものである。事業者や自治体、そして県民が「サステナブルな取組」を自分ごととして捉え、各々できることを考え実践していくことが大切であり、このような取組が地域全体で行われることが、「サステナブルな社会」や「質の高い観光地」の形成に繋がるものと考える。

[担当：伊東]

第 3 章　サステナブルツーリズムに関する意識・意向調査

1. サステナブルツーリズムの定義から考察する沖縄を取り巻く課題

(1) サステナブルツーリズムの定義と観光立国の理念

「サステナブルツーリズム」は、国連世界観光機関（UNWTO）にて、「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義されており、日本では「持続可能な観光」と訳されている。

この定義は、観光庁立ち上げ時の観光立国の基本理念、「住んでよし、訪れてよしの国づくり」に通じるものと考えられる。観光立国懇談会報告書(2003 年 4 月)では、「住んでよし、訪れてよし」について、「日本に住む全ての人々が、自らの地域社会や都市を愛し、誇りをもち、楽しく幸せに暮らしているならば、おのずと誰しもがその地を訪れたくなるものである」と説明している。すなわち本来、観光は“目的”ではなく、地域住民の暮らしを向上させる“手段”であり、ひいては観光によって地域が持続可能な状態になることが目標である。では、観光庁発足以降の 20 年で、地域住民の暮らしを向上させる持続可能な観光は実現されただろうか。

観光庁の発足前、沖縄をはじめ国内各地では「マスツーリズム＊」向けの観光地づくりが行われてきたが、観光庁発足以降も、誘客・プロモーション事業や訪問客向けのインフラ整備が主体となる観光振興（「訪れてよし」）が主体だったのではないだろうか。観光客に関する数値目標や顧客満足度調査などは行われてきたが、生態系の保全や地域住民の生活環境といった、「地域の持続可能性」という視点からの観光戦略や政策は弱かったように見受けられる。

＊mass＝大衆。マスツーリズムは、「観光の大衆化」、もしくは「大衆向けの観光」ともいう。

(2) 沖縄の自然環境を取り巻く課題

第１章で、生物圏の上に社会・経済が成り立っているSDG s ウェディングケーキモデルを例示したが、SDG s の「目標 14：海の豊かさを守ろう」は土台となる生物圏に位置付けられている。

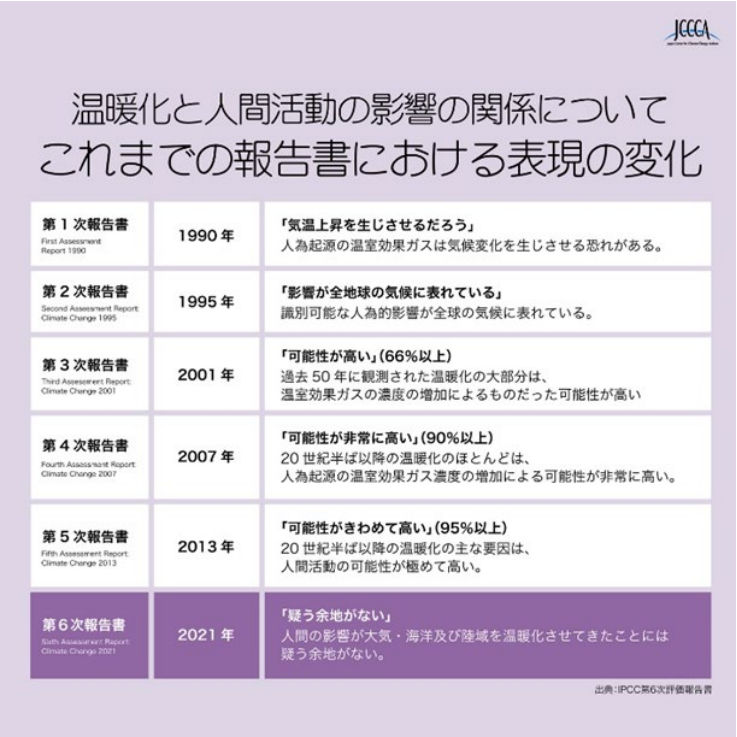
沖縄は、サンゴが沖縄の地盤や地形、水源、海の生物の多様性等を支えており、サンゴによって沖縄の生活や産業の基盤が形成されたとも言えよう。観光客を魅了する沖縄のエメラルドグリーンの海や白い砂浜も、サンゴ礁が作り上げたものである。このことからも、将来に渡ってサンゴの住みやすい環境との共存を目指さなければならない。

しかし現実には、海水温の上昇や土地開発に伴う赤土流出等の影響を受け、サンゴが白化・死滅し、海の栄養源であるサンゴ礁の消失によって海藻が減り、魚が姿を消す、といった状況も生じている。

出典:写真 AC(写真フリー素材サイト)
https://www.photo-ac.com/

出典: 沖縄ダイビングライセンス・ワールドダイビング
https://www.owd.jp/

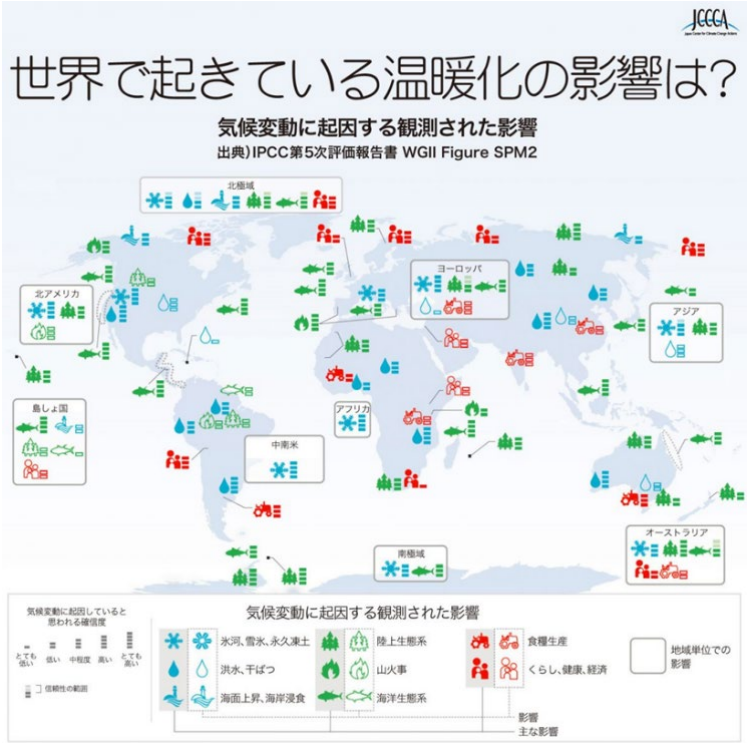
気候変動とその対策に関する科学的な知見を提供している世界的な組織、「IPCC（気候変動に関する政府間パネル: Intergovernmental Panel on Climate Change）」は、1990 年以降 6 回にわたって「評価報告書」を発表しているが、最新の第 6 次報告書(2021 年)では、地球温暖化と人間活動の影響について、「人為的な影響を"疑う余地がない"」としており、気温上昇を抑えることが世界全体に求められている。現に世界中で、猛暑や豪雨、干ばつ、森林火災、生態系への影響等は様々起きている。



温暖化と人間活動の影響の関係について
これまでの報告書における表現の変化

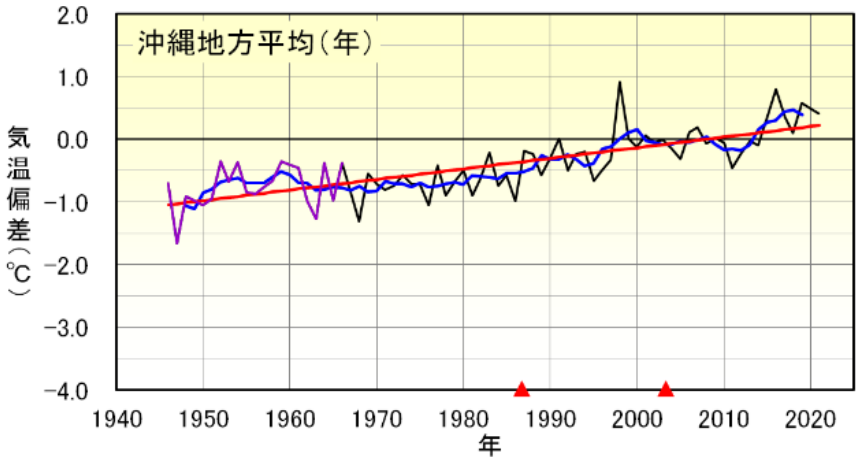
第 1 次報告書 First Assessment Report 1990	1990 年	「気温上昇を生じさせるだろう」 人為起源の温室効果ガスは気候変化を生じさせる恐れがある。
第 2 次報告書 Second Assessment Report: Climate Change 1995	1995 年	「影響が全地球の気候に表れている」 識別可能な人為的影響が全球の気候に表れている。
第 3 次報告書 Third Assessment Report: Climate Change 2001	2001 年	「可能性が高い」(66%以上) 過去 50 年に観測された温暖化の大部分は、 温室効果ガスの濃度の増加によるものだった可能性が高い
第 4 次報告書 Fourth Assessment Report: Climate Change 2007	2007 年	「可能性が非常に高い」(90%以上) 20 世紀半ば以降の温暖化のほとんどは、 人為起源の温室効果ガス濃度の増加による可能性が非常に高い。
第 5 次報告書 Fifth Assessment Report: Climate Change 2013	2013 年	「可能性がきわめて高い」(95%以上) 20 世紀半ば以降の温暖化の主な要因は、 人間活動の可能性が極めて高い。
第 6 次報告書 Sixth Assessment Report: Climate Change 2021	2021 年	「疑う余地がない」 人間の影響が大気・海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。

出典:IPCC第6次評価報告書



出典:全国地球温暖化防止活動推進センターウェブサイト（http://www.jccca.org/）

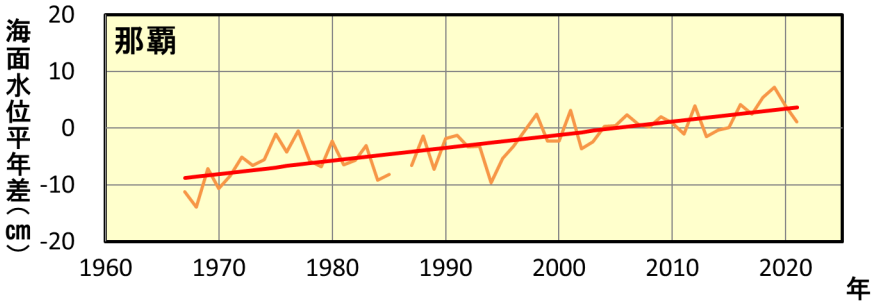
沖縄に関しては、沖縄気象台の「沖縄の気候変動監視レポート 2022」によると、沖縄地方の年平均気温は、100 年あたり 1.69℃の割合で上昇しており、沖縄の真夏日、熱帯夜の年間日数も増加している。



出典:沖縄気象台「沖縄の気候変動監視レポート 2022」

また、海面水位（那覇）は、1967 年の統計開始以降、1 年あたり 2.3mm の割合で上昇しており、温暖化は進行している。なお、先述の IPCC の第 6 次評価報告書において、海面水位上昇の要因は、海水温の上昇に伴う海水の熱膨張と、氷床(＊)および氷河の減少が主要な原因としている。

(＊)広い土地を覆う厚い氷で、グリーンランドと南極大陸にある。

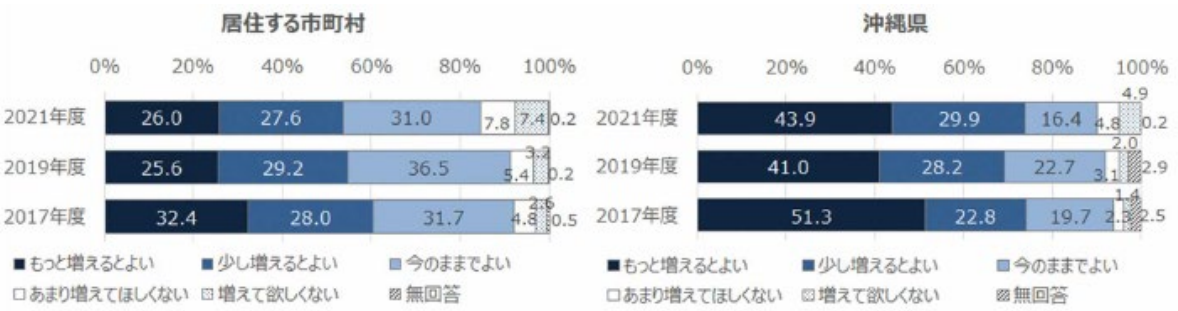


出典:沖縄気象台「沖縄の気候変動監視レポート 2022」

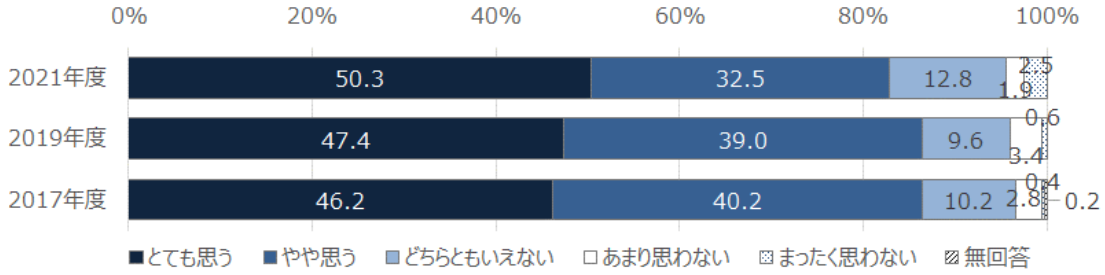
(3) 沖縄県民の観光や生活に対する意向

沖縄県は「沖縄観光に関する県民意識調査」を実施しているが、2021 年度までの結果をみると、日本人観光客の来訪について、「沖縄県」には来てほしい意向が高い一方で、「居住する市町村」に来てほしい意向は低い。また「沖縄の発展における観光の重要性の評価」は高いものの、「観光産業への就業意向」や「自分の子供を観光産業に就業させたい意向」は低い。沖縄県民には「観光客の増加が沖縄の発展に貢献している」という意識はあるが、住民の立場としては、観光客がもっと増えることをあまり望まず、観光産業に従事したいという意向には結びついていない。観光客の増加が「住んでよし、訪れてよしの地域づくり」に繋がっていたのか、今一度考える必要があろう。

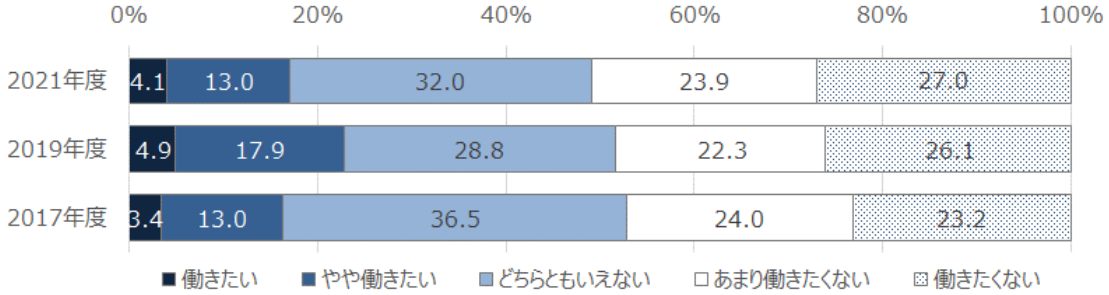
日本人観光客の来訪に対する考え



沖縄の発展に観光が重要な役割を果たしていると思うか

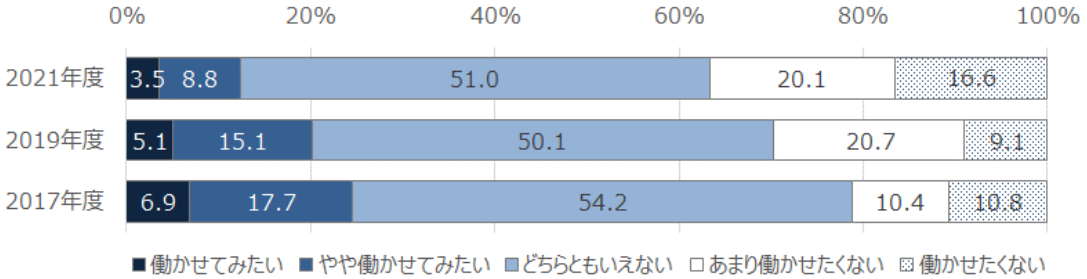


観光産業への就業意向（未就業者のみ）



出典：沖縄県文化観光スポーツ部「沖縄観光に関する県民意識の調査及び分析委託業務報告書」

観光産業に対する就業推奨意向（子どもが未就業者のみ）

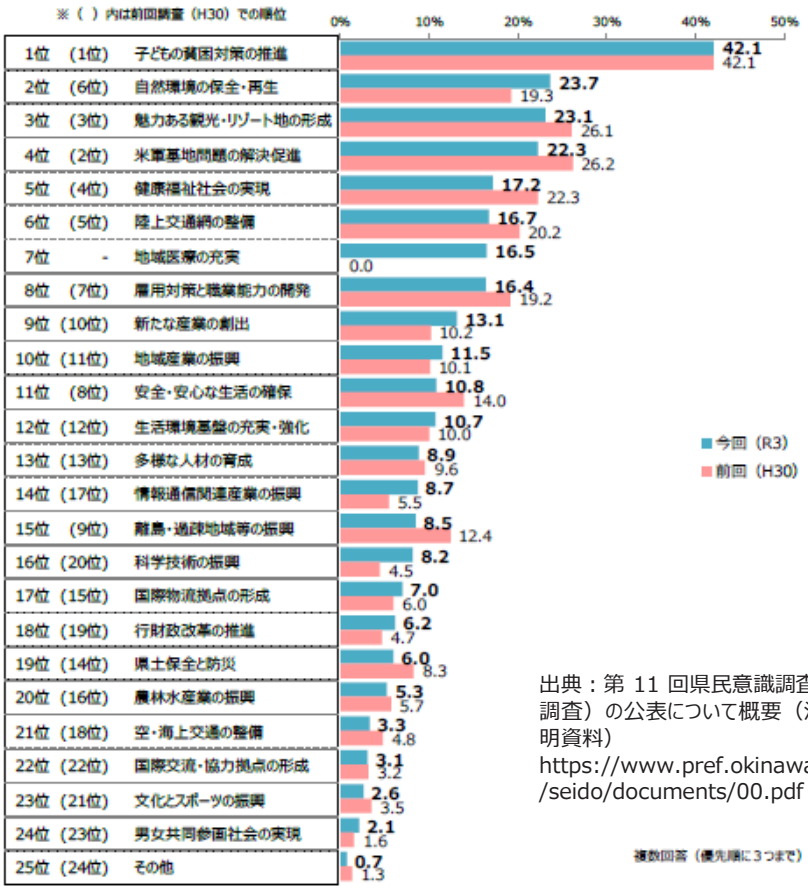


出典：沖縄県文化観光スポーツ部「沖縄観光に関する県民意識の調査及び分析委託業務報告書」

次に、沖縄県が実施した第 11 回県民意識調査(令和 3 年 8 月実施)では、「沖縄県の施策として特に重点を置いて取り組むべきこと」を尋ねているが、1 位は、前回同様「子供の貧困対策の推進」で、他の項目を大きく引き離している。SDGs の目標で 1 番目に挙げられているのが「貧困をなくそう」であり、沖縄県の新・21 世紀ビジョンでも、将来像 2「心豊かで、安全・安心に暮らせる島」の基本施策として 1 番目に子供の貧困の解消に向けた総合的な支援の推進」を挙げているが、県民も最重要課題と捉えている。

2 位は「自然環境の保全・再生」で、前回調査の 6 位から 2 位へと大きく順位を上げている。県民が自らの住む島の環境問題について意識が向上しているものと考えられる。3 位は、「魅力ある観光・リゾート地の形成」となっており、県民が県へ期待する重点施策は、1 位が社会問題（生活圏）、2 位が環境問題（生物圏）、3 位が経済（経済圏）となっている。

今後、沖縄県の施策として、特に重点を置いて取り組むべき施策



（注）「地域医療の充実」は今回調査からの新規項目

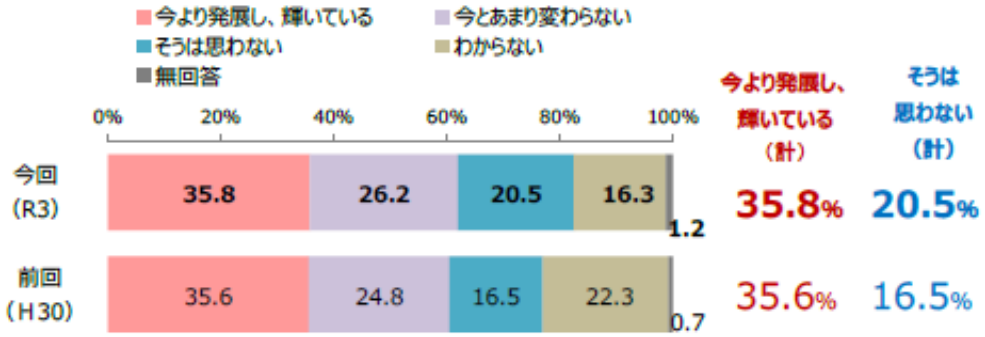
出典：第 11 回県民意識調査（くらしについてのアンケート調査）の公表について概要（沖縄県振興推進委員会説明資料）
https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/seido/documents/00.pdf

また、県民意識調査では「20 年後の沖縄は今より発展して輝いていると思うか」を尋ねているが、回答結果を本調査（県民全体）と離島調査(＊)で比較すると、本調査では「今より発展し輝いている」が最も多く35.8%であるのに対し、離島調査では 20.9%と、約 15%ポイントの差がある。一方、「そうは思わない」が、本調査の 20.5%に対し、離島調査では 34.2%となっており、本調査を大きく上回っている。

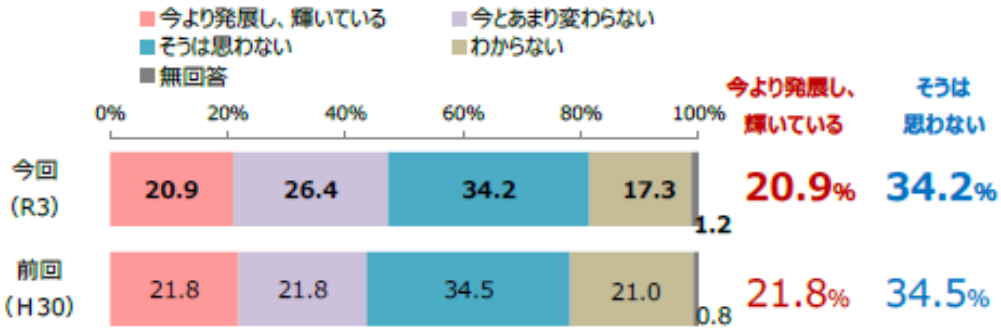
県内の小規模離島は、美しい自然景観や個性豊かな文化等の資源を有し、地域外の県民や観光客にとって魅力的な地域と捉えられるが、一方で住民にとっては、進学や就職による若者の転出、高齢化の進展、医療の課題、割高な移動コストや輸送コストが住民生活や産業振興への制約になる等、足元で様々な課題を抱えていることから、島の持続可能性について住民が不安を感じていると考えられる。

(＊)沖縄本島、宮古島、石垣島を除く有人離島居住者が対象

20 年先の沖縄は現在よりも発展し、輝いていると思いますか？（本調査）



20 年先のこの島は現在よりも発展し、輝いていると思いますか？（離島調査）



出典：第 11 回県民意識調査（くらしについてのアンケート調査）の公表について
概要（沖縄県振興推進委員会説明資料）
https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/seido/documents/00.pdf

旅行需要が消失したコロナ禍を経て、国内客が回復し、さらにインバウンドも徐々に増えてきている状況下で、「コロナ前の需要を取り戻したい」と考えている事業者は多いだろう。しかし、これからの観光とは、目先の「稼ぐこと」「儲かること」だけ考えればいいのではなく、「100 年先の世代にも沖縄の豊かな自然環境を残す観光」であり、「人々の生活が豊かになる観光」であり、さらには「沖縄の人々が働く場として魅力ある観光」であることが重要であろう。

「県民が豊かになる観光」に関しては、観光客が沖縄を訪問し消費・購入しても、観光収入の多くが地域外へ漏出しているという課題がある。例を挙げると、観光客が沖縄旅行のために利用する旅行会社や航空会社の大半は県外・海外資本企業であり、宿泊施設も外資や県外資本企業が多く進出している。また、コロナ禍前のアジアからのクルーズ客の多くは、量販店やドラックストア、免税店に足を運び、沖縄で製造していない「医薬品」「化粧品」「家電」が飛ぶように売れていたが、この消費行動では、沖縄の事業者が得られる利益はごくわずかである。

また、「沖縄土産」としてスーパーや土産物店等に並んでいる商品も、実際には県外で製造されているものが多く、土産菓子の約 7 割が県外製造と言われている*。

*沖縄タイムス 2018 年 5 月 2 日　経済面「県産素材どう生かす　沖縄土産菓子事情　7 割県外で製造」

今後、「持続可能な沖縄の発展」を目指すためには、上述の経済循環を変えていくことが必要であり、そのためにも「サステナブルツーリズム」を今まで以上に意識する必要がある。例えばショッピングでは、「地域産のものを、適正価格で購入してもらう(安売りしない)」、「環境に配慮したものを購入してもらう」、さらには「生産者を直接訪問し、対話や体験を通じて、価値を理解した人に購入してもらう」。食事では、「地域の人が経営するローカル店」で「地域で採れた旬の食材を、適正価格で食べてもらう」といった行動が、地域内にお金が留まる仕組みである。

また移動手段については、公共交通機関の利用や電気自動車（レンタカー）の使用、あるいはシェアサイクルや電動キックボードを利用する等、「沖縄の環境に負荷をかけないサステナブルツーリズム」の実現に向けた取組が求められよう。

なお、上記の消費行動や移動手段は、観光客だけに求める内容ではない。県民一人ひとりが、利便性や効率性を優先させるだけではなく、沖縄の将来を考え、地域資源を守るためにできることや地域にお金を循環させることを意識して行動していかなければならない。

2.　日本と他国のサステナブルの意識・取組状況について（他機関調査より）

SDGs　や脱炭素、サステナブル、サステナブルツーリズム等の意識や取組に関する調査は、世界で様々な機関が実施しているが、その調査結果では、日本を含むアジアの国々よりも欧州の国々の意識が高く、実践していることも多いという結果がみられる。

国際的な研究組織「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク」（SDSN）は、毎年世界各国のSDGs の達成度合いを評価した「Sustainable Development Report」（持続可能な開発報告書）を発表しているが、2022 年版のランキングは、1 位フィンランド、2 位デンマーク、3 位スウェーデン、4 位ノルウェーと北欧勢が上位を独占し、5 位以降も欧州各国が続き、日本はアジアではトップの19 位で（前年は 18 位）、韓国が 27 位、中国が 56 位となっている。

2022 年 SDGs 達成度ランキング

Rank	Country	Score
1	Finland	86.5
2	Denmark	85.6
3	Sweden	85.2
4	Norway	82.3
5	Austria	82.3
6	Germany	82.2
7	France	81.2
8	Switzerland	80.8
9	Ireland	80.7
10	Estonia	80.6
11	United Kingdom	80.6
12	Poland	80.5
13	Czech Republic	80.5
14	Latvia	80.3
15	Slovenia	80.0
16	Spain	79.9
17	Netherlands	79.9
18	Belgium	79.7
19	Japan	79.6
20	Portugal	79.2
21	Hungary	79.0
22	Iceland	78.9
23	Croatia	78.8
24	Slovak Republic	78.7
25	Italy	78.3
26	New Zealand	78.3
27	Korea, Rep.	77.9
28	Chile	77.8
29	Canada	77.7
30	Romania	77.7
31	Uruguay	77.0
32	Greece	76.8
33	Malta	76.8
34	Belarus	76.0
35	Serbia	75.9
36	Luxembourg	75.7
37	Ukraine	75.7
38	Australia	75.6
39	Lithuania	75.4
40	Cuba	74.7
41	United States	74.6
42	Bulgaria	74.3
43	Cyprus	74.2
44	Thailand	74.1
45	Russian Federation	74.1
46	Moldova	73.9
47	Costa Rica	73.8
48	Kyrgyz Republic	73.7
49	Israel	73.5
50	Azerbaijan	73.5
51	Georgia	73.4
52	Fiji	72.9
53	Brazil	72.8
54	Argentina	72.8
55	Vietnam	72.8
56	China	72.4
57	North Macedonia	72.3
58	Peru	71.9
59	Bosnia and Herzegovina	71.7
60	Singapore	71.7
61	Albania	71.6
62	Suriname	71.6
63	Ecuador	71.5
64	Algeria	71.5
65	Kazakhstan	71.1
66	Armenia	71.1
67	Maldives	71.0
68	Dominican Republic	70.8
69	Tunisia	70.7
70	Bhutan	70.5
71	Turkey	70.4
72	Malaysia	70.4
73	Barbados	70.3
74	Mexico	70.2
75	Colombia	70.1
76	Sri Lanka	70.0
77	Uzbekistan	69.9
78	Tajikistan	69.7
79	El Salvador	69.6
80	Jordan	69.4
81	Oman	69.2
82	Indonesia	69.2

出典：Sustainable Development Solutions Network（SDSN）
「Sustainable Development Report 2022」　https://www.sdgindex.org/

一方、SDG s やサステナブルに関する消費者や旅行者の意識調査では、日本人よりもアジアの他の国の意識が高いという結果も出ていることから、以下にいくつか紹介する。

(1) ㈱JTB総合研究所　「SDGs に対する生活者の意識と旅行についての調査（2022 年 12 月）～ドイツ、オーストラリア、タイと日本の比較～」

㈱JTB 総合研究所(以下、「JTB 総研」)は、日常生活および旅行時における SDGs に対する意識や行動について 2021 年から調査を行っており、2022 年は、日本人の生活者全体と旅行者についての調査を行うとともに、ドイツ、オーストラリア、タイの旅行者と日本の旅行者を比較してとりまとめている。なお同調査は、過去 3 年間（2019 年 10 月～2022 年 9 月）に観光や帰省などの目的で１泊以上の旅行（海外旅行も含む）をした対象国の居住者に対して、インターネットアンケートにより実施している。

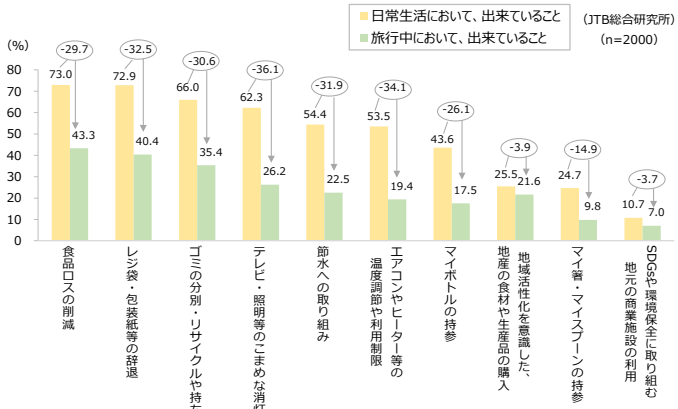
同調査では、SDGs のゴールにつながる具体的な行動について、日常生活および旅行中に対する実践状況を自己評価してもらっているが、日本は、日常生活での行動が他の 3 カ国と比べて低く、旅行中になるとさらに低くなっており、「持続可能な社会」に配慮した行動が、個人にあまり浸透していないことがうかがえる。また、他の 3 か国のうち、タイは、日常生活での実践率が全体的に高いものの、旅行中の実践率との差がドイツ、オーストラリアより大きいため、日本を除く 3 カ国の旅行中の実践率はほぼ同じ程度となっている。

なお本調査で、タイの回答者の選択率が高いことについて、JTB 総研では「インターネット調査対象者に、比較的高学歴かつ経営者や自営業者の割合が高く、旅行経験も豊富なことから、知識や情報感度が他の国の平均より高かったこと」を理由として挙げている。

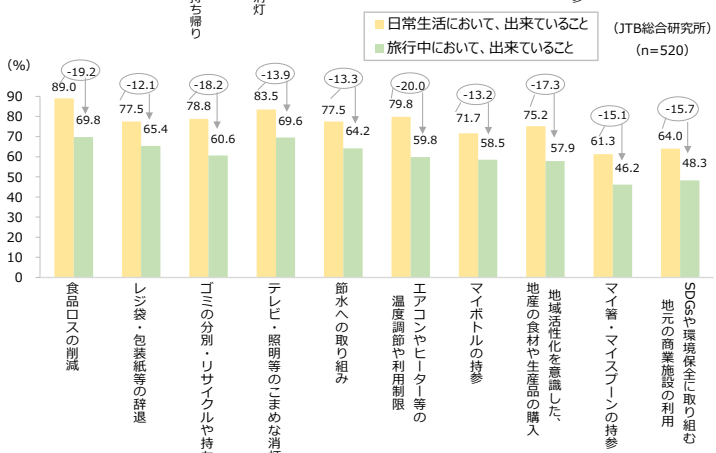
日本人の旅行中の行動については、本レポート第一部の「コロナ禍における日本人の沖縄旅行に関する調査」にて、旅行意向者の旅行の動機として、「日常生活から解放されるため」が、国内旅行者全体でも沖縄旅行意向者でもトップとなっていた。日本人は「旅行先では、日常で行っていることは行いたくない」、「旅の恥は掻き捨て」といった傾向が高いと思われるものの、訪日外国人旅行者の行動や意識が日本人と異なることを理解するとともに、日本人自身も意識を変える時期に来ていると考える必要があろう。

日常生活と旅行中における、SDGs や環境保全に対する実践内容

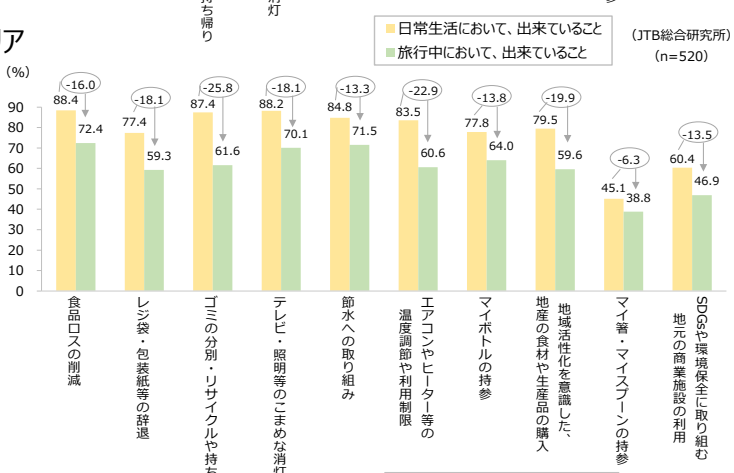
日本



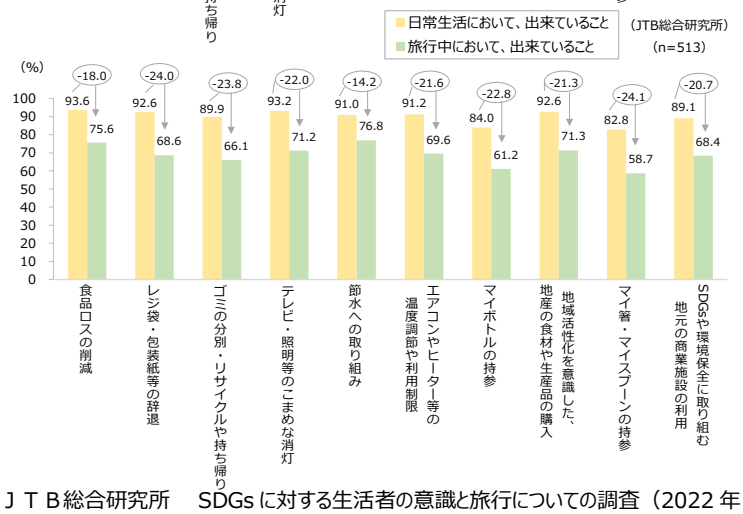
ドイツ



オーストラリア



タイ

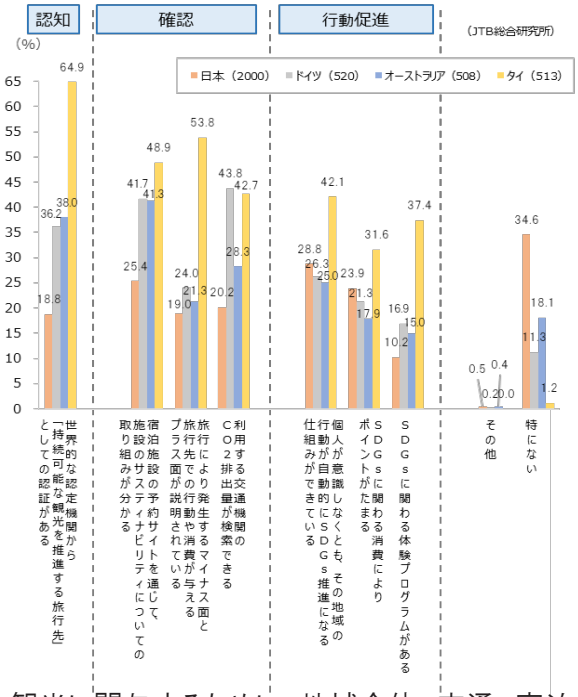


出典：㈱ＪＴＢ総合研究所　SDGs に対する生活者の意識と旅行についての調査（2022 年 12 月）
https://www.tourism.jp/wp/wp-content/uploads/2022/12/sdgs-tourism-report-202212.pdf

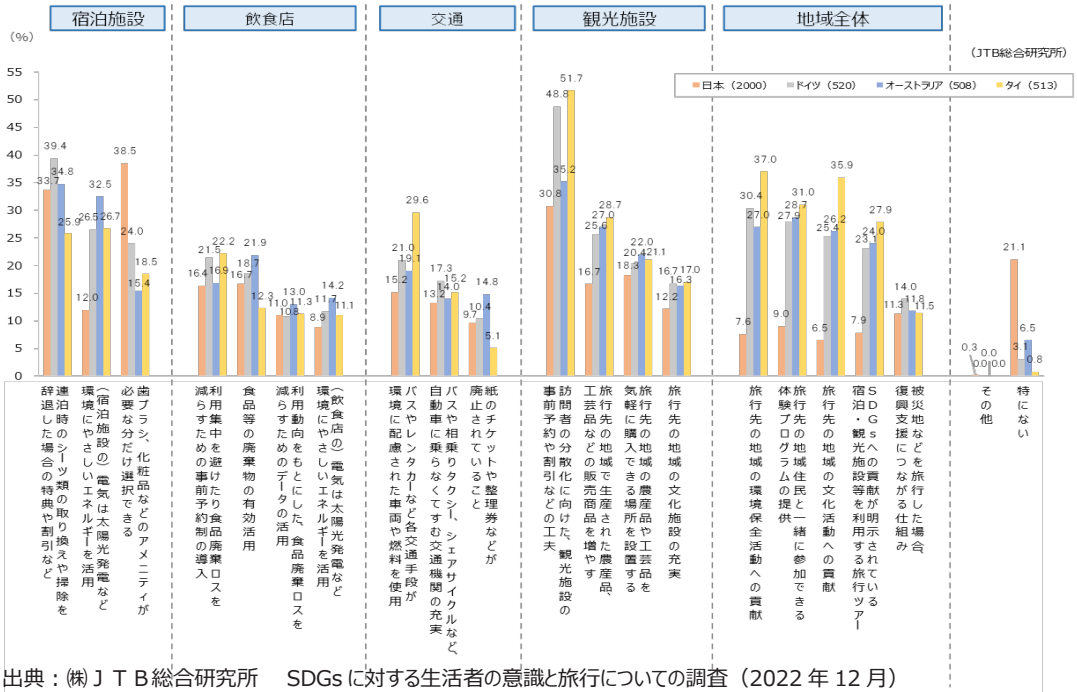
また、旅行者が SDGs を意識するために、地域や商品・サービスの提供側に希望する取組は、ドイツ、オーストラリア、タイは、地域や事業者の取組の開示や、認証機関による評価、CO2 排出量の検索など、取組状況を自分で簡単に確認できる項目が高いのに対し、日本は、個人が意識しなくても自動的に推進できている仕組みや、SDGs 消費にポイントが付くことへの意向が高い。

旅行先で持続可能な観光に関与するために、地域全体、交通、宿泊施設などに希望する取組としては、ドイツ、オーストラリア、タイは、「地域全体」での環境保全活動への貢献、地域住民と一緒に参加できる体験プログラム、あるいは旅行先での地域の文化活動への貢献を希望する割合が高く、日本は、「宿泊施設」に関する項目で選択率が高い。

旅行中に SDGs を意識するために、地域や商品サービスの提供側に希望すること



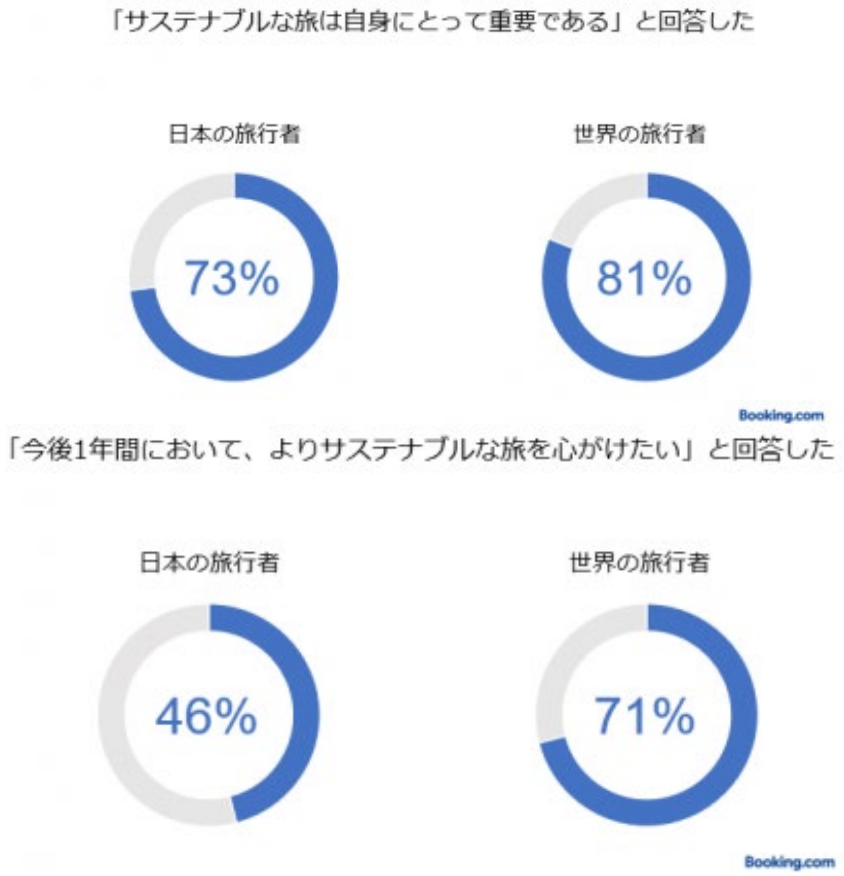
旅行先で持続可能な観光に関与するために、地域全体、交通、宿泊施設などに希望する取組



出典：㈱ＪＴＢ総合研究所　SDGs に対する生活者の意識と旅行についての調査（2022 年 12 月）
https://www.tourism.jp/wp/wp-content/uploads/2022/12/sdgs-tourism-report-202212.pdf

(2) ブッキング・ドットコム・ジャパン㈱　Booking.com　「Sustainable Travel Report 2022」

ブッキング・ドットコムの調査では、世界の旅行者の 8 割、日本の旅行者（回答者は 1,003 名）の 7 割が「サステナブルな旅は自分にとって重要」と回答した。「今後 1 年間において、よりサステナブルな旅を心がけたい」と回答したのは、世界の旅行者で7 割、日本の旅行者では約半数であり、JTB 総研の調査と同様、意識の違いがみられた。このほか同調査では移動に関する意識調査も行っているが、世界の旅行者の約 4分の 1（23%）は「二酸化炭素の排出量を削減するためにより近場の旅先に出かけることを選ぶ」と回答しているなか、同様の回答をしている日本の旅行者は 9%で、世界と比べると日本の旅行者は旅での移動に関する配慮への意識が低い。また、「旅先での公共交通機関やレンタサイクルの選択肢を調べた」と回答した世界の旅行者は 22%であるのに対し、同様の回答をした日本の旅行者は 12%となり、さらには、「環境への影響により、飛行機で移動することについて恥ずかしく感じる」と回答した世界の旅行者は 30%に対し、日本で同様の回答をした旅行者は 20%となっている。



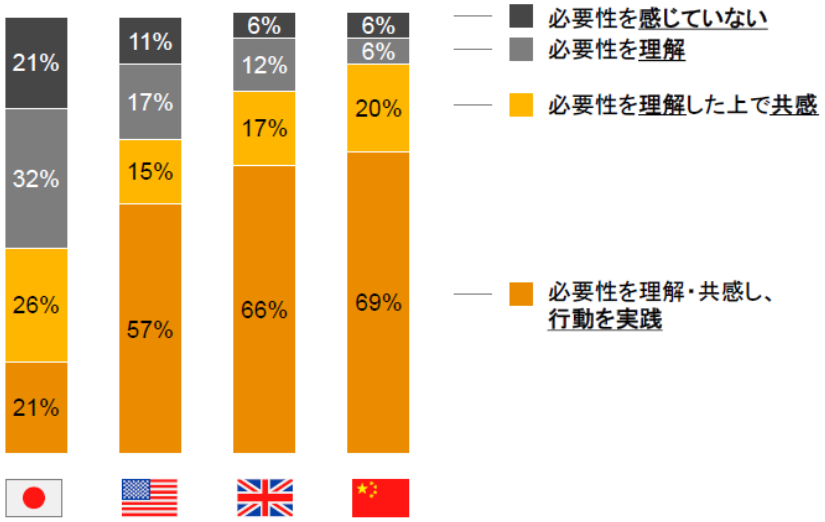
出典：ブッキング・ドットコム　報道資料
https://news.booking.com/ja/sustainable-travel-report-2022/

調査はブッキング・ドットコムによって、32 の国・地域の計 3 万 314 名の回答者を対象に独自に行われた。
アンケート回答者は、18 歳以上で、過去 12 ヶ月間に 1 回以上旅行をしていること、および 2022 年に旅行する予定があり、旅行に関する決定を行う主要な人物またはその決定に関与する人物であることが条件。
本アンケートは、2022 年 2 月にオンラインで実施された。

(3) PwC Japan グループ 「サステナビリティに関する消費者調査 2022」

PwC Japan グループが、日本、中国（主な回答者は都市部居住者）、米国、英国の居住者に対し実施したサステナビリティに関する調査では、中国の回答者のサステナブルに対する意識や行動が旺盛との結果が出ている。この結果について当グループでは、「本調査における中国の回答者が都市部に集中しており、国全体の実態よりも高水準となっていると推察される」としており、この調査においても、日本人の環境・社会課題に対する問題意識や行動が調査対象の 3 カ国と比べてかなり低いことが明らかとなっている。

環境・社会課題に対する問題意識と行動実践



注）小数点以下四捨五入のため、合計は必ずしも 100%とならない。
出典：PwC Japan グループ 「サステナビリティに関する消費者調査 2022」
https://www.pwc.com/jp/ja/knowledge/thoughtleadership/2022/assets/pdf/consumer-survey-on-sustainability2022.pdf

(4) ニッセイ基礎研究所 「サステナビリティに関する意識と消費行動」

最後に、ニッセイ基礎研究所が実施した日本人に関する「第 8 回新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」によると、「サステナビリティに関する意識や行動」について、年代別では、意識面で「そう思う」の回答は、高年齢層の方が高い傾向があるが、「サステナビリティについて家族や友人と話すことがある」は、50 代を底に 20 代やシニアで高い傾向があり、ボランティア活動や情報発信では、20 代の高さが目立つ。同調査では、「Ｚ世代はサステナブルな意識が高い」と言われるが、世代全体というよりも、Ｚ世代の一部に存在する積極層の行動によるものとみられる、と分析している。

また、世帯年収別にみると、世帯年収が高いとサステナビリティへの意識が高く、行動にも相対的に積極的な傾向がある。

性年代別に見たサステナビリティについての意識や行動（単一回答）

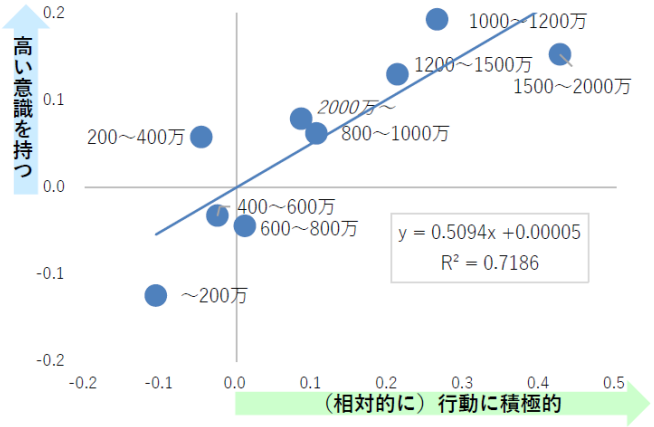
	全体	男性	女性	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70～74歳
度数	2584	1286	1298	309	414	548	515	657	141
地球環境や社会問題は他人事ではない	60.8	49.8	71.7	44.3	45.9	57.7	61.0	75.5	83.7
サステナビリティについてすぐに取り組まないと手遅れになる	46.4	39.5	53.2	39.8	36.5	39.6	45.4	58.8	62.4
社会の一員として、何か社会のために役立ちたい	46.0	40.5	51.5	39.2	34.3	44.7	43.9	55.4	64.5
地球環境や社会問題に積極的に取り組む人は意識が高いと思う	42.3	34.0	50.6	42.7	33.8	37.8	37.3	51.4	60.3
サステナビリティを話題にする人は意識が高いと思う	34.0	28.1	39.9	34.3	30.2	28.8	30.5	39.4	52.5
時間や経済的な余裕があれば、サステナビリティを意識したい	33.1	30.6	35.6	35.6	31.2	29.7	30.9	35.6	42.6
サステナビリティを意識して生活をしている	27.7	24.0	31.4	28.2	20.5	24.1	26.4	33.2	40.4
コロナ禍の制約がなければ、サステナビリティを意識したい	26.5	22.5	30.4	25.6	25.1	24.3	24.9	29.1	34.8
地球環境や社会問題に積極的に取り組む企業や組織で働きたい	22.4	20.7	24.1	27.8	24.4	22.6	21.6	19.9	18.4
サステナビリティについて家族や友人と話すことがある	16.3	14.5	18.1	21.4	15.9	14.6	13.2	17.0	21.3
サステナビリティを意識してボランティア活動をしている	13.0	14.4	11.7	22.7	13.8	12.6	10.5	10.2	14.2
サステナビリティに関する情報を収集している	12.7	13.1	12.3	17.2	13.5	11.7	8.7	12.9	18.4
サステナビリティに関する情報を発信している	8.4	10.0	6.9	18.1	12.6	7.1	4.9	5.6	6.4

注：上から全体で「そう思う」＋「ややそう思う」の選択割合の高い順。全体と差のあるものに網掛け。

出典：ニッセイ基礎研究所 「サステナビリティに関する意識と消費行動」
https://www.nli-research.co.jp/files/topics/71964_ext_18_0.pdf?site=nli

世帯年収別に見たサステナビリティに関する意識や行動の傾向

（a）因子得点を用いた図



出典：ニッセイ基礎研究所 「サステナビリティに関する意識と消費行動」
https://www.nli-research.co.jp/files/topics/71357_ext_18_0.pdf?site=nli

以上、他機関の調査を整理すると、各国のサステナブルな消費や旅行に関する意識については、日本人よりも諸外国の方が高く、特に日本人は旅行においてサステナブルな行動や意識が低下する傾向がみられる。また、日本人の調査ではあるが、若い世代にはボランティアや情報発信への積極層もいるが、比較的高年齢層の意識が高いこと、世帯年収が高い方がサステナビリティへの意識が高く行動も積極的という傾向がみられる。

3.　DBJ ・JTBF 訪日外国人旅行者調査からみた沖縄訪問希望者のサステナブルな取組に対する意向

本節では、「ＤＢＪ・ＪＴＢＦアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査（第３回新型コロナ影響度調査）」より、「サステナブルな取組」に関する意向をとりまとめた。なお、データの分析については当公庫が単独で実施している。

データ提供を受けた調査の概要

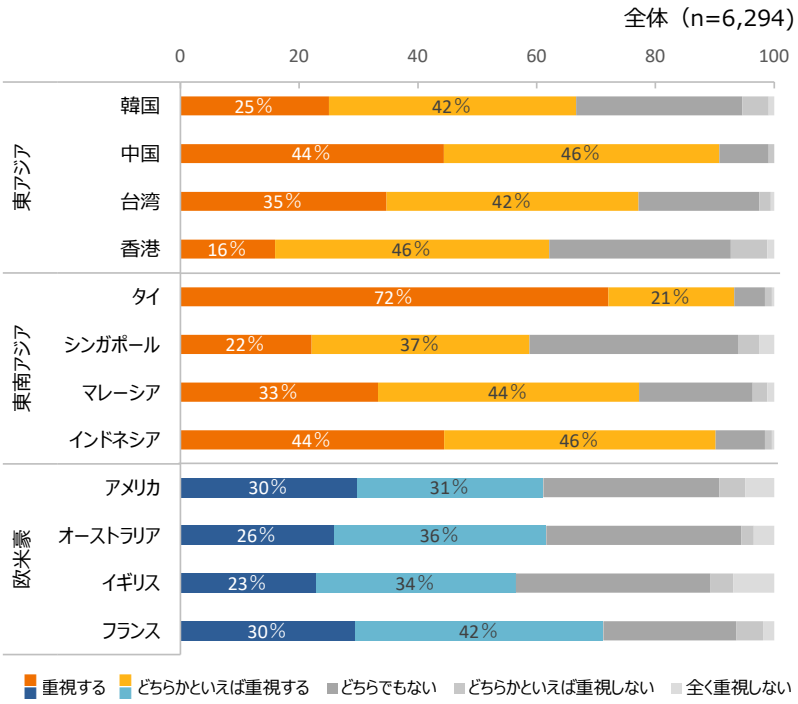
調査名：ＤＢＪ・ＪＴＢＦアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査
（第３回新型コロナ影響度特別調査）　＜2022 年２月公表＞」（以下、「本調査」）
調査実施者：株式会社日本政策投資銀行（ＤＢＪ）・公益財団法人日本交通公社（ＪＴＢＦ）
調査方法：インターネット調査
実施時期：2021 年 10 月５日～2021 年 10 月 19 日
調査地域：韓国、中国（上海・北京のみ）、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランスの 12 地域
調査対象者：20 歳～59 歳の男女、かつ、海外旅行経験者
有効回答者数：上記各地域に居住する住民計 6,294 人

なお本調査では、「サステナブルな取組」を『地域の「自然や生物多様性の保全等」、「伝統・文化の保存・継承」、「地域経済の活性化や地域づくり」の保護と貢献への取組』と定義している。

(1) 旅行先での「サステナブルな取組」に対する考え方（国別、年齢・収入層別）

海外旅行の訪問先や宿泊施設を検討する際の「サステナブルな取組」に対する意向を国別にみると、本調査ではアジアの国々で「重視する」の選択率が高い。「重視する」の選択率がもっとも高いのはタイの72%で、「どちらかといえば重視する」と合わせると９割超となった。このほか中国、インドネシアの選択率が高い。

海外旅行の訪問先や宿泊施設を検討する際にサステナブルな取組を行っていることへの意向（重視するか）



前項については、調査対象者が「海外旅行経験者」であることで、特にアジア各国において、収入が比較的高く、サステナブルへの知識や意識の高い回答者が多いことも推察される。

地域・年代・収入者層(※)別にみると、東アジア・東南アジア居住者が欧米豪居住者より全体的に重視する割合が高く、特に東南アジア居住者の 20,30 代では、収入層にかかわらず重視する割合が高い。欧米豪では、若年層で収入が高い層ほど、重視する割合が高い。

(※)本調査における「収入者層」の区分は、国・地域の回答者数を、世帯年収順に三分の一ずつ分けたものである。

サステナブルな取組を「重視する」、「どちらかといえば重視する」の地域別・年代別・収入者層別構成

～69.9　70.0～74.9　75.0～79.9　80.0～

全体

(%)

	低収入者層	中収入者層	高収入者層
20代	76.1	77.9	79.4
30代	74.8	74.5	76.8
40代	66.4	73.2	74.5
50代	57.6	66.2	67.9

東アジア居住者

(%)

	低収入者層	中収入者層	高収入者層
20代	71.1	75.4	73.9
30代	77.5	76.7	76.1
40代	76.8	81.6	74.1
50代	62.0	70.1	75.8

東南アジア居住者

(%)

	低収入者層	中収入者層	高収入者層
20代	87.4	82.5	86.6
30代	83.3	84.6	81.8
40代	79.5	76.0	82.1
50代	61.4	73.9	76.0

欧米豪居住者

(%)

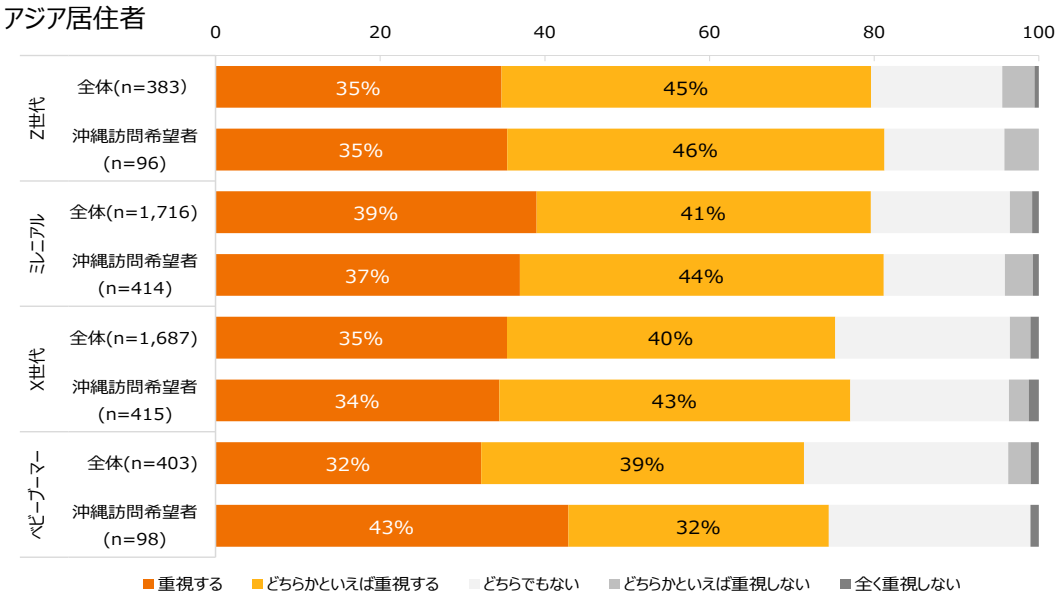
	低収入者層	中収入者層	高収入者層
20代	69.4	75.7	79.8
30代	62.7	63.5	72.8
40代	46.2	60.4	66.4
50代	50.3	54.3	50.3

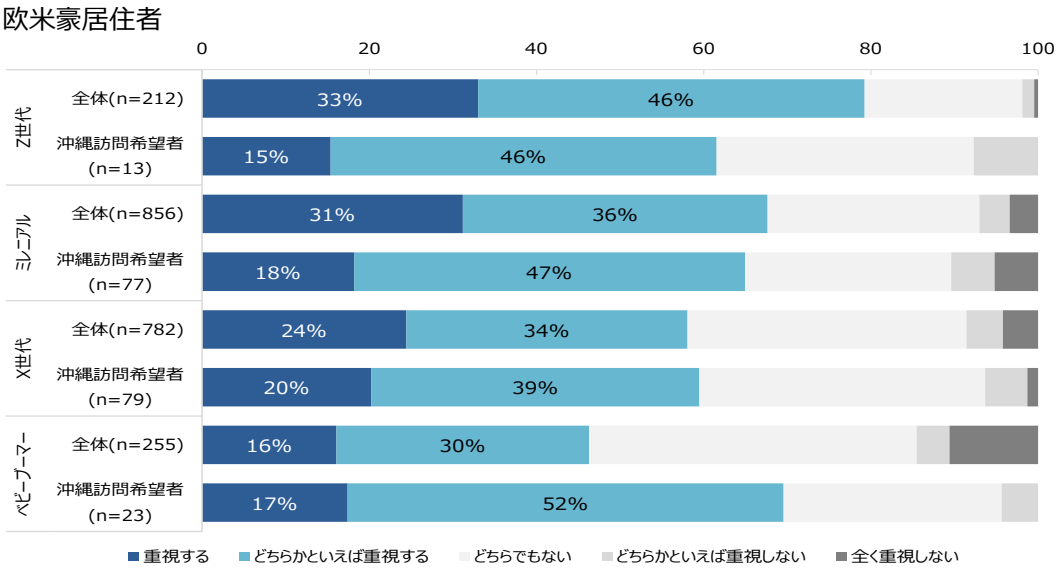
(2) 沖縄訪問希望者の「サステナブルな取組」に対する世代別意向

沖縄訪問希望者のサステナブルな取組に対する意向を、回答者全体と比較して世代別（※）にみると、アジア居住者では、「重視する」「どちらかといえば重視する」の合計は、どの世代も沖縄訪問希望者の選択率がやや高く、特にベビーブーマーの「重視する」が高い。欧米豪居住者は、X 世代・ベビーブーマーでは沖縄訪問意向者が上回っている。中でも、ベビーブーマーの「どちらかといえば重視する」の選択率が高い。

（※）本調査における世代区分： Z 世代（20～24 歳）、ミレニアル（25～39 歳）、
X 世代（40～54 歳）、ベビーブーマー（55～59 歳）

沖縄訪問希望者の「サステナブルな取組」に対する世代別意向
（全体との比較）





(3) 旅行先で「サステナブルな取組」を重視する理由

サステナブルな取組を重視する理由は、サステナブル重視者（※)では「環境資源の保全等に配慮したいから」が、アジア、欧米豪居住者ともに高年齢層ほど選択率が高い。また、「伝統文化等の保護継承への貢献」「地域の魅力や地元の人との交流」「訪問地域の経済活性化への貢献」は、欧米豪で高年齢層ほど選択率が高い。一方で、「補助割引制度が受けられるから」は、アジア、欧米豪居住者ともに若年層の選択率が高く、自己の利益につながることが取組重視の理由となっている。

沖縄訪問希望者では、「環境資源の保全等に配慮したいから」の選択率がどの地域・世代ともに全体に比べて10%ポイント以上高く、取組を重視する傾向がみられる。若年層では補助割引制度の選択率が高いほか、アジア居住者では「地域の魅力や地元の人との交流」「訪問地域の経済活性化」も選択率が高い。

(※)海外旅行の訪問先や宿泊施設を検討する際、サステナブルな取組を「重視する」または「どちらかといえば重視する」と回答した人。なお、欧米豪居住者の沖縄訪問希望者は、回答者数が少ないため読み取りに注意を要する。以下の図表も同じ。

旅行先でサステナブルな取組を重視する理由

アジア居住者

サステナブルな取組重視者

	Z世代 (n=305)	ミレニアル (n=1366)	X世代 (n=1270)	ベビーブーマー (n=288)
環境資源の保全等に配慮したいから	50%	49%	56%	64%
訪問地域の伝統文化資産等の保護継承に貢献したいから	49%	52%	50%	57%
地域の魅力や地元の人との交流を味わいたいから	42%	40%	40%	41%
訪問地域の経済活性化に貢献したいから	35%	33%	30%	31%
補助割引制度が受けられるから	23%	23%	17%	15%
サステナブルツーリズムがトレンドだから	22%	27%	25%	28%
自国や自治体がサステナブルな取組を推奨しているから	23%	29%	26%	23%
旅行先がサステナブルな取組を推奨しているから	26%	30%	26%	24%

沖縄訪問希望者

	Z世代 (n=78)	ミレニアル (n=336)	X世代 (n=320)	ベビーブーマー (n=73)
環境資源の保全等に配慮したいから	65%	61%	69%	73%
訪問地域の伝統文化資産等の保護継承に貢献したいから	56%	65%	61%	63%
地域の魅力や地元の人との交流を味わいたいから	50%	48%	45%	45%
訪問地域の経済活性化に貢献したいから	37%	37%	31%	36%
補助割引制度が受けられるから	28%	21%	17%	21%
サステナブルツーリズムがトレンドだから	24%	30%	33%	27%
自国や自治体がサステナブルな取組を推奨しているから	22%	27%	28%	32%
旅行先がサステナブルな取組を推奨しているから	31%	28%	28%	33%

欧米豪居住者

サステナブルな取組重視者	Z世代 (n=168)	ミレニアル (n=579)	X世代 (n=454)	ベビーブーマー (n=118)
環境資源の保全等に配慮したいから	36%	40%	46%	58%
訪問地域の伝統文化資産等の保護継承に貢献したいから	33%	37%	47%	48%
地域の魅力や地元の人との交流を味わいたいから	25%	32%	40%	43%
訪問地域の経済活性化に貢献したいから	29%	29%	34%	38%
補助割引制度が受けられるから	15%	16%	13%	8%
サステナブルツーリズムがトレンドだから	16%	21%	21%	17%
自国や自治体がサステナブルな取組を推奨しているから	21%	21%	19%	20%
旅行先がサステナブルな取組を推奨しているから	15%	22%	22%	15%

沖縄訪問希望者	Z世代 (n=8)	ミレニアル (n=50)	X世代 (n=47)	ベビーブーマー (n=16)
環境資源の保全等に配慮したいから	50%	50%	57%	88%
訪問地域の伝統文化資産等の保護継承に貢献したいから	50%	48%	45%	56%
地域の魅力や地元の人との交流を味わいたいから	25%	48%	45%	56%
訪問地域の経済活性化に貢献したいから	50%	40%	45%	38%
補助割引制度が受けられるから	25%	16%	11%	6%
サステナブルツーリズムがトレンドだから	38%	20%	17%	19%
自国や自治体がサステナブルな取組を推奨しているから	13%	12%	19%	25%
旅行先がサステナブルな取組を推奨しているから	50%	26%	21%	13%

注）欧米豪居住者の沖縄訪問希望者は回答者数が少ないため読み取りに注意、以下の図表も同じ。

(4) 旅行先で実施したい「サステナブルな取組」

サステナブル重視者は、多くの項目で高年齢層の選択率が高い一方、「地域エコポイント等の取得・利用」については、若年層の方が高く、前項と同様に自己の利益と結びついている傾向がある。

沖縄訪問希望者は、アジア・欧米豪居住者ともにサステナブル重視者と比べて全般的に選択率が高い。アジア居住者の Z 世代及びミレニアルでは「ゴミ分別・削減」は 6 割を超え、Z 世代で「エコラベルがついている商品の購入」、ミレニアルで「自然や資源を損なわないアクティビティ」「現地産やオーガニック食材を使った商品の利用・購入」も 5 割以上と高い。

旅行先で実施したいサステナブルな取組

アジア居住者

サステナブルな取組重視者	Z世代 (n=305)	ミレニアル (n=1366)	X世代 (n=1270)	ベビーブーマー (n=288)
ゴミ分別・削減	44%	45%	46%	48%
徒歩・自転車の利用	35%	35%	39%	38%
公共交通機関・レンタカーの利用	37%	36%	37%	42%
自然や資源を損なわないアクティビティ	36%	43%	46%	46%
工芸品などの伝統文化資産等の体験	41%	40%	38%	33%
地域ならではの精神性の体験	31%	31%	30%	31%
地元の人との対話・交流	28%	28%	28%	29%
現地産やオーガニック食材を使った商品の利用・購入	32%	43%	48%	54%
地域ならではの素材を使った商品の利用・購入	30%	37%	36%	41%
エコラベルがついている商品の購入	38%	37%	38%	39%
地域エコポイント等の取得・利用	25%	24%	24%	19%

沖縄訪問希望者	Z世代 (n=78)	ミレニアル (n=336)	X世代 (n=320)	ベビーブーマー (n=73)
ゴミ分別・削減	62%	61%	56%	59%
徒歩・自転車の利用	42%	46%	47%	51%
公共交通機関・レンタカーの利用	46%	46%	49%	53%
自然や資源を損なわないアクティビティ	46%	52%	57%	58%
工芸品などの伝統文化資産等の体験	39%	44%	42%	40%
地域ならではの精神性の体験	41%	38%	34%	36%
地元の人との対話・交流	31%	34%	28%	33%
現地産やオーガニック食材を使った商品の利用・購入	40%	57%	57%	59%
地域ならではの素材を使った商品の利用・購入	41%	45%	47%	49%
エコラベルがついている商品の購入	50%	44%	43%	59%
地域エコポイント等の取得・利用	28%	30%	24%	29%

欧米豪居住者

サステナブルな取組重視者	Z世代 (n=168)	ミレニアル (n=579)	X世代 (n=454)	ベビーブーマー (n=118)
ゴミ分別・削減	26%	32%	47%	62%
徒歩・自転車の利用	29%	31%	44%	61%
公共交通機関・レンタカーの利用	22%	29%	31%	47%
自然や資源を損なわないアクティビティ	21%	31%	41%	54%
工芸品などの伝統文化資産等の体験	29%	33%	39%	44%
地域ならではの精神性の体験	21%	28%	29%	29%
地元の人との対話・交流	22%	21%	37%	48%
現地産やオーガニック食材を使った商品の利用・購入	20%	29%	45%	56%
地域ならではの素材を使った商品の利用・購入	24%	31%	37%	45%
エコラベルがついている商品の購入	23%	29%	30%	39%
地域エコポイント等の取得・利用	21%	23%	15%	17%

沖縄訪問希望者	Z世代 (n=8)	ミレニアル (n=50)	X世代 (n=47)	ベビーブーマー (n=16)
ゴミ分別・削減	50%	50%	49%	81%
徒歩・自転車の利用	38%	46%	60%	56%
公共交通機関・レンタカーの利用	25%	32%	32%	69%
自然や資源を損なわないアクティビティ	25%	52%	53%	56%
工芸品などの伝統文化資産等の体験	38%	46%	38%	56%
地域ならではの精神性の体験	38%	42%	40%	25%
地元の人との対話・交流	63%	38%	40%	56%
現地産やオーガニック食材を使った商品の利用・購入	38%	48%	47%	81%
地域ならではの素材を使った商品の利用・購入	38%	48%	43%	50%
エコラベルがついている商品の購入	38%	32%	34%	38%
地域エコポイント等の取得・利用	38%	22%	19%	25%

(5) 宿泊施設に求める「サステナブルな取組」

サステナブル重視者は、多くの項目で高年齢層になるほど選択率が高く、欧米豪でその傾向が顕著にみられる。なお、アジア居住者では「空き家や古民家の活用・リノベーション」の選択率が若年層ほど高い。

沖縄訪問希望者は、多くの設問でサステナブル重視者より選択率が高く、特に「食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル」については、アジア居住者では全世代、欧米豪居住者でもミレニアル、X世代、ベビーブーマーで 5 割を超えている。

宿泊施設に求めるサステナブルな取組

アジア居住者

サステナブルな取組重視者	Z世代 (n=305)	ミレニアル (n=1366)	X世代 (n=1270)	ベビーブーマー (n=288)
再生エネルギーの利用	40%	39%	46%	52%
省エネ・節電の取り組み	44%	45%	51%	54%
リサイクルボックスの設置	37%	34%	36%	40%
部屋のクリーニングの廃止	12%	14%	12%	13%
アメニティの廃止	22%	20%	21%	21%
リサイクルできる備品・アメニティの導入	35%	38%	38%	41%
食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル	42%	45%	49%	46%
自然等に配慮されているアクティビティ体験の提供	36%	41%	42%	39%
工芸品などの伝統文化資産等の体験の提供	33%	33%	30%	28%
地域ならではの素材の活用や商品の提供	30%	33%	35%	33%
現地産やオーガニック食材を使った食事の提供	36%	39%	43%	49%
空き家や古民家の活用・リノベーション	33%	30%	22%	20%

沖縄訪問希望者	Z世代 (n=78)	ミレニアル (n=336)	X世代 (n=320)	ベビーブーマー (n=73)
再生エネルギーの利用	58%	52%	58%	63%
省エネ・節電の取り組み	58%	55%	63%	60%
リサイクルボックスの設置	49%	43%	47%	55%
部屋のクリーニングの廃止	10%	16%	14%	15%
アメニティの廃止	30%	27%	25%	29%
リサイクルできる備品・アメニティの導入	41%	50%	48%	47%
食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル	54%	54%	61%	55%
自然等に配慮されているアクティビティ体験の提供	42%	49%	48%	55%
工芸品などの伝統文化資産等の体験の提供	36%	37%	29%	34%
地域ならではの素材の活用や商品の提供	40%	42%	42%	41%
現地産やオーガニック食材を使った食事の提供	41%	51%	52%	53%
空き家や古民家の活用・リノベーション	41%	36%	28%	23%

欧米豪居住者

サステナブルな取組重視者

	Z世代 (n=168)	ミレニアル (n=579)	X世代 (n=454)	ベビーブーマー (n=118)
再生エネルギーの利用	25%	27%	45%	62%
省エネ・節電の取り組み	21%	29%	46%	62%
リサイクルボックスの設置	22%	28%	40%	51%
部屋のクリーニングの廃止	12%	16%	17%	19%
アメニティの廃止	9%	15%	11%	11%
リサイクルできる備品・アメニティの導入	27%	26%	31%	32%
食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル	3%	33%	45%	56%
自然等に配慮されているアクティビティ体験の提供	17%	28%	36%	43%
工芸品などの伝統文化資産等の体験の提供	23%	29%	31%	25%
地域ならではの素材の活用や商品の提供	34%	34%	30%	45%
現地産やオーガニック食材を使った食事の提供	24%	32%	42%	52%
空き家や古民家の活用・リノベーション	19%	22%	20%	25%

沖縄訪問希望者

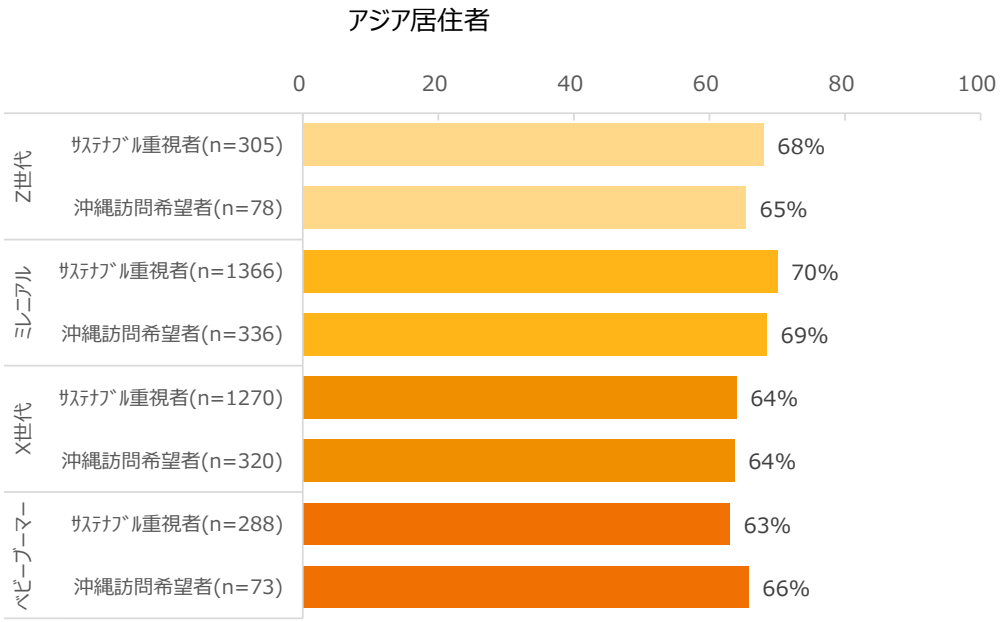
	Z世代 (n=8)	ミレニアル (n=50)	X世代 (n=47)	ベビーブーマー (n=16)
再生エネルギーの利用	25%	48%	53%	88%
省エネ・節電の取り組み	38%	44%	55%	88%
リサイクルボックスの設置	50%	50%	55%	81%
部屋のクリーニングの廃止	13%	18%	32%	31%
アメニティの廃止	13%	26%	9%	6%
リサイクルできる備品・アメニティの導入	75%	42%	40%	44%
食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル	13%	52%	51%	56%
自然等に配慮されているアクティビティ体験の提供	25%	42%	45%	56%
工芸品などの伝統文化資産等の体験の提供	50%	48%	26%	19%
地域ならではの素材の活用や商品の提供	25%	50%	38%	38%
現地産やオーガニック食材を使った食事の提供	25%	38%	62%	56%
空き家や古民家の活用・リノベーション	50%	34%	21%	25%

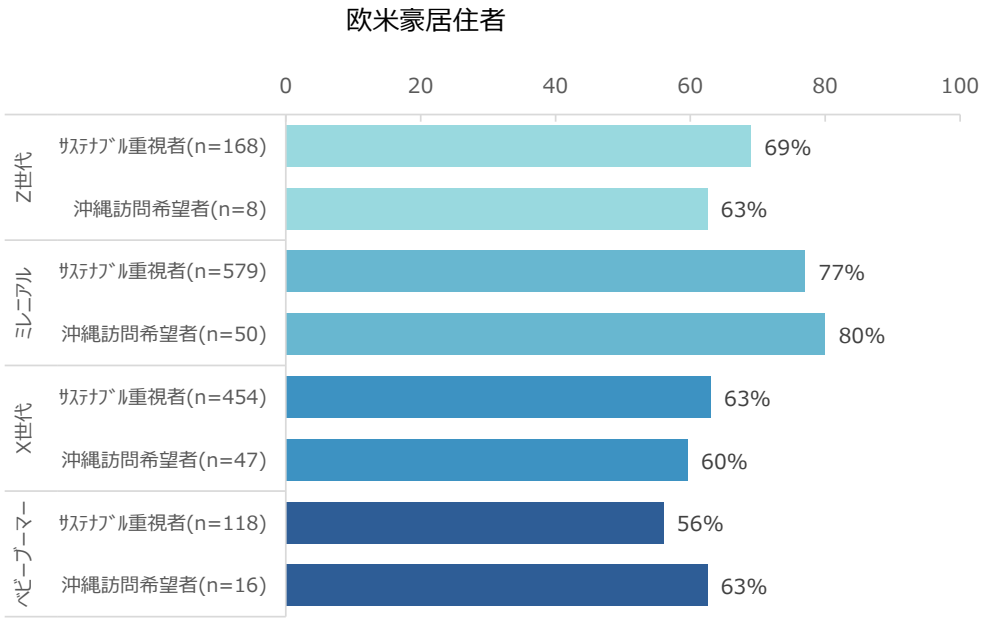
(6) 「サステナブルな取組」による宿泊単価の値上げへの許容度

サステナブル重視者は、アジア居住者では全世代で 6 割超が「よいと思う」と回答、欧米豪居住者もベビーブーマー以外の世代で 6 割以上が「よいと思う」と回答している。また世代別では、アジア・欧米豪居住者ともに若年層の方が高く、特にミレニアル世代が高い。

沖縄訪問希望者とサステナブル重視者で宿泊単価の値上げの許容度の差はほとんどないが、全ての世代で 6 割以上が「よいと思う」と回答している。

サステナブルな取組による宿泊単価の値上げへの許容
（「よいと思う」と回答した割合）





4.「サステナブルな取組」の可視化に関する事例

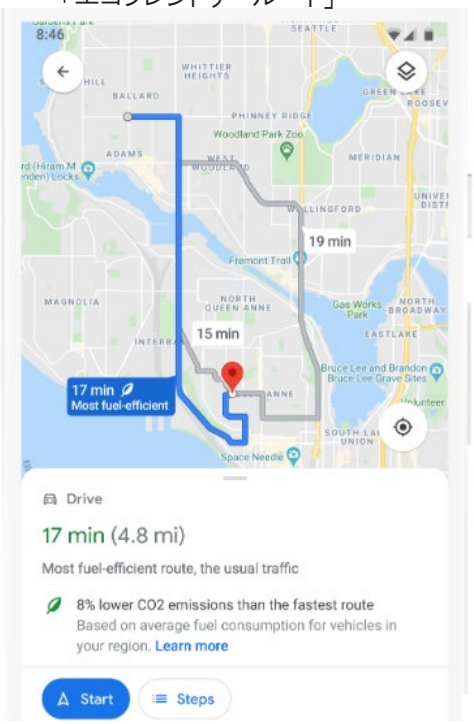
(1) 移動手段検索に関する見える化（Google フライト、Google マップ）

Google では、Google フライト、Google マップなどでサステナビリティへの取組を支援する機能を付与している。Google フライトでは、検索結果で料金や飛行時間と並行して、二酸化炭素の排出量を表示している。また、アメリカ、カナダ、欧州各国の Google マップでは、環境に優しいルートを表示するエコフレンドリーを導入している。

Google フライトでの検索結果（那覇→ 羽田）

https://www.google.com/travel/flights/

「エコフレンドリールート」



https://www.blog.google/products/maps/redefining-what-map-can-be-new-information-and-ai/

(2) 宿泊施設検索に関する見える化（Booking.com、楽天トラベル）

世界最大級の宿泊予約サイト Booking.com の日本法人、ブッキング・ドットコム・ジャパンでは、2021 年初めから、サステナブルな取組を行う施設について、活動内容を表示できる仕組みを展開していたが、同年 11 月からは、取組を行う宿泊施設が可視化される「サステナブル・トラベル」バッジを導入した。

さらに 2022 年 11 月からは、新たな仕組みとして、サステナブルな事業運営の実現に向け、制度取得の取組過程にある宿泊施設を可視化するため、「サステナブル・トラベル」プログラムを 3 段階のレベルに分けて、評価できるようにした。レベル 1 は、同プログラムのエントリーレベルで、プログラムに着手し、葉っぱ 1 枚のマークで表示、レベル 2 は、宿泊施設が影響力のあるサステナビリティへの取組を実践するために比較的大きな投資と努力をしていることを示すもので、葉っぱ 2 枚のマークで表示される。レベル 3 は、多大な投資と努力を行っているものの、まだ正式な第三者機関による認証を取得していない宿泊施設を示すものであり、最終的に「サステナブル・トラベル」プログラムに認証されると、右のバッジが付与される。

出典：ブッキング・ドットコム
https://partner.booking.com/sites/default/files/2021-1/Travel Sustainable Programme - Case Studies.pdf

また、楽天トラベルでは、自社で行った、旅行・観光におけるサステナビリティへの意識調査で、「7 割を超える旅行者が旅先でサステナビリティにおける課題を感じている一方で、半数以上が宿泊施設や観光地でのサステナビリティの取組について十分な情報を得られていない」という結果が出たこと等を踏まえ、宿泊施設のサステナビリティへの取組を旅行者に伝える仕組み作りを推進するため、国際非営利団体「グローバル・サステナブル・ツーリズム協会（ＧＳＴＣ）」に加盟、当協会が策定・管理する GSTC-I（観光産業向け基準）に照らした基準により、宿泊施設の活動をアイコンやバッジで掲載する取組をスタートさせている。

https://travel.rakuten.co.jp/mytrip/news/2022-12-15

なお、沖縄県内のホテルも「サステナブルトラベル宿」で絞り込み検索をすると、基準を満たすホテルが表示され、当該ホテルが各々どのような取組を行っているかも見える化されている。

例：
ホテルパームロイヤル NAHA 国際通り
のサステナブルな取組の表示

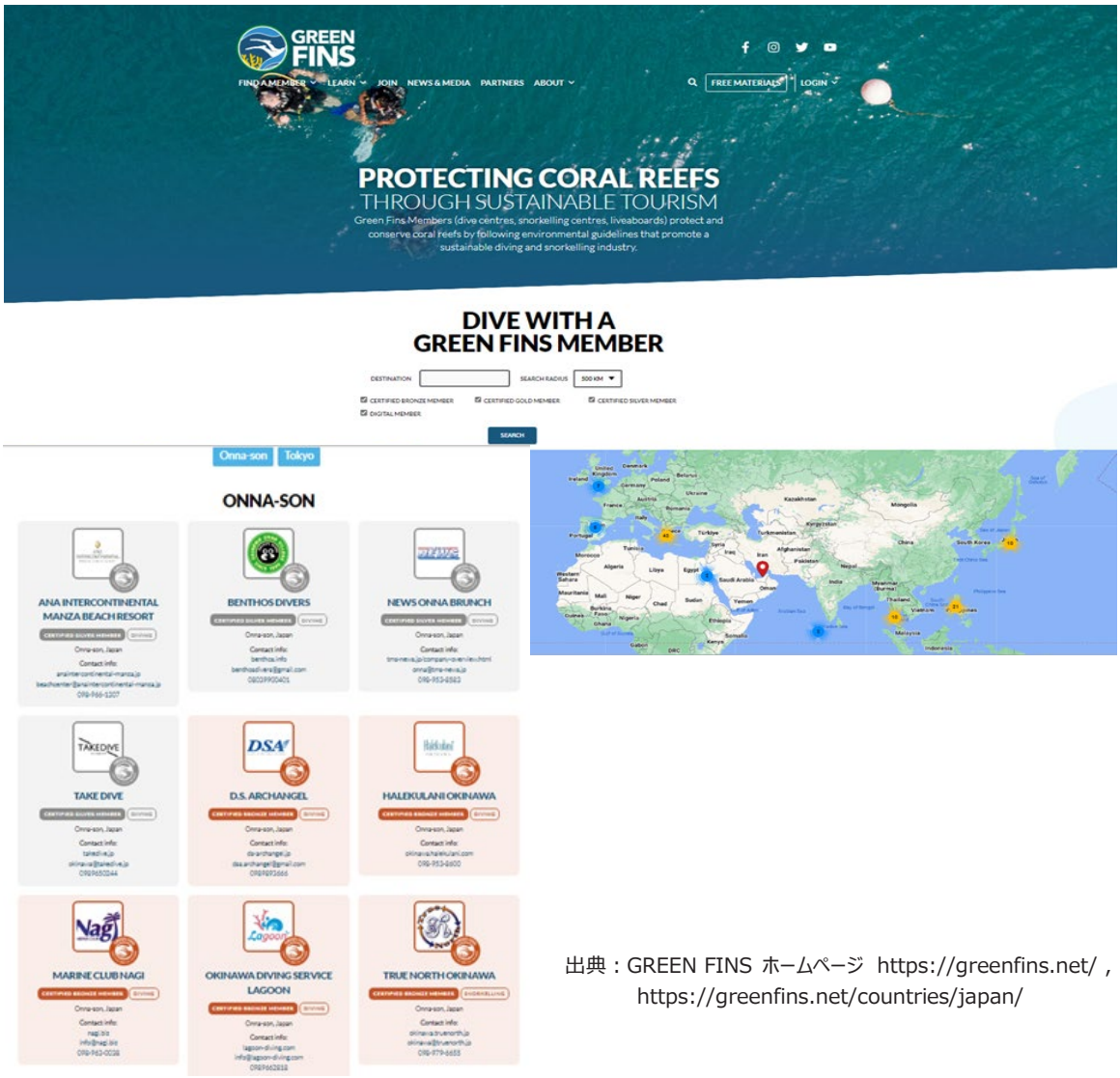
出典：楽天トラベル HP
ホテルパームロイヤル NAHA 国際通り
のサステナブルな取り組み
https://travel.rakuten.co.jp/HOTEL/38282/38282_std.html#sustainableSection

(3)沖縄県内の「サステナブルな取組」事例

沖縄県内でも、既にサステナブルな国際認証基準を取得したり、高いレベルのサステナブルな取組を行っている自治体や事業者もいることから、認証機関のサイトや宿泊予約サイトへの掲載により「可視化」されている事業者等について紹介する。

① 恩納村 ダイビングショップの国際認証基準の取得

・恩納村は、2020 年 4 月に環境に優しく持続可能なダイビング・シュノーケリングの国際的なガイドライン「Green Fins（グリーン フィンズ）」を、世界で初めて自治体として導入することを発表した。Green Fins は、国連環境計画（UNEP）とイギリスの Reef World 財団によるサンゴ礁保全の取組で、環境に配慮したダイビングやシュノーケリングのガイドラインの作成と、それを遵守しているダイビングショップの評価・認定を行っている。恩納村では、2022 年に Green Fins 認定人（アセサー）と認定店の誕生に向けたトレーニングを日本で初めて実施し、日本人アセサーと認定店が誕生した。
・Green Fins 公式サイトでは、世界中の認定店の検索ができ、2023 年 2 月末時点で恩納村には 9 つの認定店があり、うち 4 施設がシルバーランク、5 施設がブロンズランクである(ゴールド、シルバー、ブロンズの 3 ランク)。



出典：GREEN FINS ホームページ https://greenfins.net/ , https://greenfins.net/countries/japan/

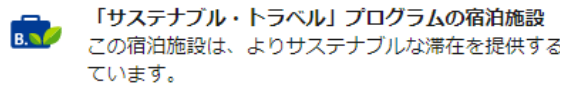
② Booking.com の「サステナブル・トラベル」プログラム認証

・Booking.com のサイトから沖縄県内の「サステナブル・トラベル」プログラム登録施設を検索すると、約400 施設の登録が確認できるが、このうち最近登録されたヴィラタイプの宿泊施設の取組を紹介する。
・2022 年に宮古島市に開業した一棟貸の宿泊施設「ヴィラアパラギ宮古島」は、「サステナブル・トラベル」プログラム制度取得の取組過程では最高レベルに当たる「レベル 3 」を取得していたが、このほど同プログラム制度の認証を取得した。
・当施設は「宮古島の綺麗な海」という観光資源を基に集客しているため、旅行者によってその観光資源に悪影響を与えることは極力避けなければいけないとの意識を持っている。加えて、沖縄は「綺麗な海」だけではなく、地域に住む人や働く人の魅力も大きいと考えており、沖縄にお金が落ちるよう、できるだけ沖縄産（宮古島産）を導入することを心がけている。
＜当施設のサステナブルな取組の一例＞
・非対面のチェックインシステム
・竹製ハブラシ導入、使い捨てシャンプー等を不使用とし、廃プラスチックの削減に努めている。
・サンゴ礁保護のため沖縄生まれの「サンゴに優しい日焼け止め」をアメニティとして提供しているほか、フェイス・ボディソープやウォーターサーバーでも、沖縄県産や宮古島産を導入
・アクティビティ体験希望者に対しては、地元事業者と連携し、現地ツアーを紹介
・心や身体にハンディのあるアーティスト支援をする団体の賛助会員に加盟

出典：ブッキング・ドットコム
2022 年 11 月 22 日発表 ブッキング・ドットコム、新たに 3 つの認証レベルを導入

https://news.booking.com/ja/sustainable-travel-program/

出典：ヴィラアパラギ宮古島ホームページ https://www.villa-aparagi.com/



出典：ブッキング・ドットコム
ヴィラアパラギ宮古島サイト
https://www.booking.com/hotel/jp/vuiraaparagigong-gu-dao.ja.html

③　やんばる地域の自然や伝統文化を観光資源として活用した地域体験事業

・2022 年 8 月、国頭村に「やんばるホテル南溟森室(なんめいしんしつ)with NIPPONIA」がグランドオープンした。

当ホテルは、国頭村の謝敷集落及び大宜味村の喜如嘉集落の空き古民家を再生した分散型の宿泊施設で、滞在を通して昔ながらの沖縄の伝統的な暮らしや、暮らしと結びつく沖縄の自然を知ってもらうことを目的としており、滞在時に楽しめる様々なアクティビティを提供している。

当ホテルを経営する㈱Endemic Garden H 代表の仲本いつ美氏は、国頭村生まれ。国頭村役場で地域の課題解決に取り組んできたが、観光で地域の課題を解決したいとの思いを強くし、やんばる地域限定の旅行社を立ち上げ、地域と観光客を繋げるコーディネーターとして活躍している。当社では、地域の住民や事業者と連携し、地域の本質的な魅力を伝え、地域経済の活性化や関係人口の増加に貢献することを目指している。

・「with NIPPONIA」について

NIPPONIA は、「なつかしくて、あたらしい、日本の暮らしをつくる」というミッションのもと、土地に息づく歴史・文化資源を活用しながら次世代に繋げていく取組であり、㈱NOTE（本社：兵庫県丹波篠山市）が展開している。当ホテルは、沖縄県内で初めて NIPPONIA と連携した宿泊滞在施設である。

出典：やんばるホテル南溟森室ホームページ　https://yambaru.co.jp/

やんばるホテル南溟森室「久志」
写真：当社提供

第 4 章　まとめ（沖縄に求められる取組とは）

「サステナブル」や「サステナブルツーリズム」に関する意識調査は、世界中で様々な機関が実施しているが、概ね欧州諸国が上位を占め、日本をはじめとしたアジア諸国の順位は低い傾向にある。しかし本調査では、アジア居住者のサステナブルへの意識が高い傾向がみられた。本調査がインターネット調査であることや、調査対象者が海外旅行経験者であることから、各国の中では比較的年収や学歴が高く、サステナブルへの知識が高い層が多いと推測しうるが、訪日旅行ができるのは相応の所得層と考えれば、受入側としては、アジアからの訪日旅行者のサステナブルへの意識の高さを理解しておく必要があろう。

さらに本調査では、沖縄訪問希望者には、「サステナブルな取組を重視する者」よりもさらにサステナブルな取組への関心が高い傾向がみられた。沖縄訪問希望者は「沖縄＝ビーチリゾート（自然環境が観光資源）」というイメージを持つ人も多いと推測されることから、サステナブルな取組への期待も高いと思われる。

沖縄県内には、サステナブルな国際認証基準を取得する等、高いレベルのサステナブルな取組を行っている自治体や事業者がいるが、取組を実践している方々に共通するのは、「認証取得」はゴール(目的)ではなく、「地域資源を次の世代に残すことを意識しながら、観光で地域を豊かにすること」を目標・目的としている点である。地域を豊かにするという目標のためにサステナブルツーリズムを理解し、その過程で認証を取得する、そしてそれを持続することが大切である。

“SDGs ウォッシュ”“グリーンウォッシュ”等といった、“〇〇ウォッシュ”という言葉をご存知だろうか。これは、ごまかし、見せかけを意味する Whitewash（ホワイトウォッシュ）を組み合わせた造語で、上辺だけの配慮、表面的な取組を指す。一例を挙げると、「環境に優しい」と企業がアピールしている製品が、製造過程で大量の二酸化炭素を排出していることや、観光でいえば、“エコツーリズム”が、観光客の増加により逆に環境破壊につながってしまうこと等である。沖縄県についても、「持続可能な観光」を掲げているが、コロナ禍前にはオーバーツーリズムに悩まされ、観光客の残したゴミがビーチなどに散乱した光景は記憶に新しいだろう。また、本報告で事例紹介したダイビングの国際認証基準では、サンゴの上に乗ることや魚の餌付けを禁止しているが、県内では「餌付け」を売りにしている事業者は多数存在している。このほか、車社会の沖縄は、サステナブル志向の高い観光客にはどう映っているのだろうか。

「サステナブルツーリズム」は、冒頭の定義のとおり、自然環境はもちろんのこと、地域社会や経済活動への影響も配慮した幅広い概念であり、地域全体に関わるものである。このため、一部の事業者が高いレベルの取組を行っていても、他の事業者や地域、住民の意識や行動が伴わない状況では、訪問客から「サステナブルな取組を行っていなかった」「イメージと違った」等といった印象を持たれてしまい、沖縄への再訪意向に結びつかなかったり、ネガティブな情報が発信される可能性もある。

このため、事業者や自治体、そして県民が「サステナブルな取組」を自分ごととして捉え、各々できることを考え実践していくことが大切であり、このような取組が地域全体で行われることが、「サステナブルな社会」や「質の高い観光地」の形成に繋がるものと考える。

観光庁が公表した「観光立国推進基本計画」改定案(対象年度 2023 年～25 年度)では、「持続可能な観光地域づくり」が柱の 1 つである。観光は、コロナ禍を経た現在そして将来に渡り、日本の成長戦略の柱、地域活性化の切り札と位置付けられており、観光立県・沖縄も同様である。地域住民も巻き込みながら、自然、文化の保全と観光の振興を進めることで、「住んでよし、訪れてよしの島・沖縄」が、世界から選ばれる観光地となることを祈念する。

既刊目録

「公庫レポート」既刊目録

[数字は号数、( )は発行年月]

○ 沖縄県産業連関表による公共投資の波及効果分析 −特に沖縄公庫住宅融資を中心にして−	創刊号	(S 56. 3)
○ 沖縄の住宅事情と需要の動向	創刊号	(S 56. 3)
○ 昭和57年度設備投資計画調査報告	2	(S 56. 7)
○ 沖縄公庫の融資効果の評価と今後の方向 −沖縄公庫モデルを中心とした計量分析−	2	(S 56. 7)
○ 沖縄のホテル業界の現状と課題	3	(S 57. 3)
○ 沖縄県経済の現状と工業振興の方向	4	(S 57. 8)
○ 昭和58年度設備投資計画調査報告	4	(S 57. 8)
○ 沖縄県主要企業の財務行動	4	(S 57. 8)
○ 昭和58・59年度設備投資計画調査報告	5	(S 58. 8)
○ 沖縄の工業開発と技術集積	6	(S 59. 3)
○ 沖縄県における食肉加工業	6	(S 59. 3)
○ 昭和59・60年度設備投資計画調査報告	7	(S 59. 8)
○ アメリカの地域開発 −いくつかの事例を中心に−	7	(S 59. 8)
○ 昭和59・60年度設備投資計画調査報告(昭和59年10月調査)	8	(S 60. 1)
○ 21世紀沖縄の経済・社会構造と政策課題の提案	8	(S 60. 1)
○ 昭和60・61年度設備投資計画調査報告(昭和60年9月調査)	9	(S 60. 12)
○ 昭和60・61年度設備投資計画調査報告(昭和61年3月調査)	10	(S 61. 7)
○ 復帰特別措置の体系的検討	10	(S 61. 7)
○ 昭和61・62年度設備投資計画調査報告(昭和61年9月調査)	11	(S 62. 2)
○ 規制緩和下における沖縄の航空体制の課題	11	(S 62. 2)
○ 昭和61・62年度設備投資計画調査報告(昭和62年3月調査)	12	(S 62. 6)
○ 動向調査 沖縄の主要産業－昭和61年度の動向と見通し－	13	(S 62. 11)
○ 地域産業トピックス 水 産 急成長を遂げるも市況悪化への対応に迫られる車エビ養殖 流 通 中規模店化が進む小売業 環境変化への対応を迫られる婦人服店 急成長下、経営戦略が問われる中古車業界 需要低迷と価格低下で厳しさ増すガソリンスタンド サービス 質的変化が著しい飲食業界 振興事業に着手した美容業界 リゾート型参入で新展開が見込まれる県内ゴルフ場	13	(S 62. 11)
○ データ解説 昭和61年度個人住宅資金(一般住宅・建売住宅)利用者調査報告	13	(S 62. 11)
○ 開発調査 沖縄のリゾート開発の課題と開発資金の検討	13	(S 62. 11)
○ 昭和62・63年度設備投資計画調査報告(昭和62年9月調査)	14	(S 62. 12)
○ 昭和62・63年度設備投資計画調査報告(昭和63年3月調査)	15	(S 63. 6)
○ グアム・サイパン市場差別化策の検討	16	(S 63. 8)
○ 動向調査 沖縄の主要産業－昭和62年度の動向と見通し－	17	(S 63. 11)
○ 地域産業トピックス 製 造 市場環境の変化と技術革新が著しい印刷業界 小 売 変貌する鮮魚店、食肉店の需要環境 サービス 新たなサービスのあり方を探る理容業界	17	(S 63. 11)
○ データ解説 昭和62年度個人住宅建設資金利用者調査報告	17	(S 63. 11)
○ 昭和63・平成元年度設備投資計画調査報告(昭和63年9月調査)	18	(S 63. 12)
○ 沖縄県の住宅需要動向	19	(H 1. 4)
○ ハワイリゾートの現状と沖縄のリゾート開発の課題 ―ハワイリゾート調査報告書―	20	(H 1. 4)
○ 昭和63・平成元年度設備投資計画調査報告(平成元年3月調査)	21	(H 1. 6)
○ 動向調査 沖縄の主要産業の動向−昭和63年度の動向を中心に	22	(H 1.12)

○ 地域産業トピックス　22　(H 1.12)
不動産賃貸　空室率が高い沖縄の貸ビル
サービス　沖縄県内の人材派遣業
自動車分解整備業の概要
○ データ解説　22　(H 1.12)
昭和63年度個人住宅建設資金利用者調査報告
労働生産性が低い県内製造業(工業統計調査より)
○ 平成元・2年度設備投資計画調査報告(平成元年3月調査)　22　(H 1.12)
○ 沖縄洋ラン切花生産の実態・本土市場調査　23　(H 2. 3)
○ タイ国の熱帯果樹農業の現状と輸出産業としての地位　23　(H 2. 3)
―沖縄県の有望作目としての熱帯果樹産業に関する調査―
○ データ解説　24　(H 2. 7)
平成元年度個人住宅建設資金利用者調査報告
○ 平成元・2年度設備投資計画調査報告(平成2年2月調査)　24　(H 2. 7)
○ 沖縄県におけるバイオマス資源活用産業　―新規胎動産業を探る―　25　(H 2. 8)
○ 地域産業トピックス　26　(H 3. 3)
琉球ガラス産業界の現況
成長著しい県内の生花小売業
県内水産加工業の生産状況
競合厳しい県内クリーニング業
○ 平成2・3年度設備投資計画調査報告(平成2年9月調査)　26　(H 3. 3)
○ データ解説　平成2年度個人住宅建設資金利用者調査報告　27　(H 3. 7)
○ 平成2・3年度設備投資計画調査報告(平成3年3月調査)　27　(H 3. 7)
○ 沖縄県の観光土産品店　28　(H 4. 1)
○ 平成3・4年度設備投資計画調査報告(平成3年9月調査)　28　(H 4. 1)
○ データ解説　平成3年度個人住宅建設資金利用者調査報告　29　(H 4. 8)
○ 平成3・4年度設備投資計画調査報告(平成4年3月調査)　29　(H 4. 8)
○ 平成4・5年度設備投資計画調査報告(平成4年10月調査)　30　(H 5. 2)
○ データ解説　平成4年度マイホーム新築資金利用者調査報告　31　(H 5. 9)
○ 平成4・5年度設備投資計画調査報告(平成5年3月調査)　31　(H 5. 9)
○ 平成5・6年度設備投資計画調査報告(平成5年9月調査)　32　(H 6. 2)
○ 平成5・6年度設備投資計画調査報告(平成6年3月調査)　33　(H 6. 7)
○ 正念場を迎えるエステティック業界　34　(H 6. 8)
○ 泡盛製造業の現況について　34　(H 6. 8)
○ 需要低迷下生産性の向上が求められる生コン業界　35　(H 6. 9)
○ 沖縄県の花卉農業　35　(H 6. 9)
○ 沖縄県の伝統工芸産業　35　(H 6. 9)
○ データ解説　36　(H 6. 10)
平成5年度マイホーム新築資金利用者調査報告
平成5年度マンション購入資金利用者調査報告
○ 沖縄のデンファレ(切花)について　37　(H 6. 10)
○ 生産性の向上と新しい生産技術への対応が求められる印刷業界　37　(H 6. 10)
○ 貸アパート業実態調査　38　(H 6. 11)
○ 沖縄県のプレハブ住宅の現状について　38　(H 6. 11)
○ 競争激化が進む中で経営体質強化が求められる建設業　39　(H 6. 12)
○ 平成6・7年度設備投資計画調査報告(平成6年9月調査)　39　(H 6. 12)
○ インドネシア・バリ島リゾートの現状　40　(H 7. 2)
○ マンゴー栽培の現状と産地形成に向けての課題　41　(H 7. 3)
○ 総合産業への変容が求められる500万人時代の沖縄観光　42　(H 7. 3)
○ 県内製糖業の現状　43　(H 7. 3)
○ 平成6・7年度設備投資計画調査報告(平成7年3月調査)　44　(H 7. 5)
○ 公庫住宅資金利用者に係る耐久消費財等購入実態調査　45　(H 7. 8)

○ 県内駐車場業の現状と課題 46 (H 7. 9)
○ データ解説 47 (H 7. 9)
平成6年度マイホーム新築資金利用者調査報告
平成6年度マンション購入資金利用者調査報告
○ 平成6・7年度設備投資計画調査報告(平成7年9月調査) 48 (H 7. 12)
○ 薬草加工販売業の現状と課題 49 (H 8. 1)
○ 新規開業の実態 50 (H 8. 1)
○ 持家取得実態調査 51 (H 8. 3)
○ 「わしたショップ」―拠点方式による県産品のマーケティング― 52 (H 8. 5)
○ 平成7・8年度設備投資計画調査報告(平成8年3月調査) 53 (H 8. 6)
○ 沖縄県におけるタラソテラピー事業可能性の検討 (フランス・タラソテラピー業界視察報告) 54 (H 8. 6)
○ 沖縄での展開が有望なタラソテラピーについて 54 (H 8. 6)
○ 県内小売業の現状 55 (H 8. 7)
○ データ解説 56 (H 8. 7)
平成7年度マイホーム新築資金利用者調査報告
平成7年度マンション購入資金利用者調査報告
○ 沖縄の養蜂 57 (H 8. 8)
○ 平成7・8年度設備投資計画調査報告(平成8年9月調査) 58 (H 8. 12)
○ 県内レンタカー業の現状 59 (H 9. 1)
―大規模な規制緩和のもと、更なる発展が見込まれる県内レンタカー業―
○ 県内貸ビル業の現状 60 (H 9. 2)
―空室率が高い沖縄の貸ビル―
○ マイホーム新築資金住宅の建設実態 61 (H 9. 3)
○ 車エビ養殖業の現状と課題 62 (H 9. 4)
―全国一の生産県となるも市況悪化への対応が迫られる車エビ養殖業界―
○ 台湾の中小企業とOEM 63 (H 9. 5)
○ 平成8・9年度設備投資計画調査報告(平成9年3月調査) 64 (H 9. 6)
○ データ解説 65 (H 9. 10)
平成8年度マイホーム新築資金利用者調査報告
平成8年度マンション購入資金利用者調査報告
○ 公庫住宅資金利用者に係る耐久消費財等購入実態調査 66 (H 9. 10)
○ 平成8・9年度設備投資計画調査報告(平成9年9月調査) 67 (H 9. 12)
○ 廃棄物リサイクル産業の現状と課題 68 (H 10. 6)
○ 平成9・10年度設備投資計画調査報告(平成10年3月調査) 69 (H 10. 6)
○ 沖縄の産業振興とマルチメディア 70 (H 10. 7)
○ データ解説 71 (H 10. 10)
平成9年度マイホーム新築資金利用者調査報告
平成9年度マンション購入資金利用者調査報告
○ 平成9・10年度設備投資計画調査報告(平成10年9月調査) 72 (H 10. 12)
○ 平成9年度ホテル経営状況 73 (H 10. 12)
○ ダイビング業界の現状と課題 74 (H 11. 3)
○ 平成10・11年度設備投資計画調査報告(平成11年3月調査) 75 (H 11. 8)
○ 平成10・11年度設備投資計画調査報告(平成11年9月調査) 76 (H 11. 12)
○ 平成10年度ホテル経営状況 77 (H 12. 2)
○ 新規開業の現状と創業支援 78 (H 12. 5)
○ 沖縄観光の構造転換に向けた整備課題 ―ハワイを比較軸として― 79 (H 12. 7)
○ 1999・2000年度設備投資計画調査報告(2000年3月調査) 80 (H 12. 8)
○ 1999・2000年度設備投資計画調査報告(2000年9月調査) 81 (H 12. 12)
○ データ解説 82 (H 13. 1)
平成11年度マイホーム新築資金利用者調査報告
平成11年度マンション購入資金利用者調査報告
○ 台湾アグロインダストリー調査報告 83 (H 13. 3)
○ 1999年度ホテル経営状況 84 (H 13. 3)

○ 2000・2001年度設備投資計画調査報告（2001年3月調査） 85 (H 13. 5)
○ 地方都市の水産物市場と水産業の振興
—自由な市場と消費の拡大— 86 (H 13. 7)
○ 2000・2001年度設備投資計画調査報告（2001年9月調査） 87 (H 13. 12)
○ マンションの維持管理に関する調査報告 88 (H 14. 1)
○ 台湾情報通信産業調査報告 89 (H 14. 2)
○ 2000年度ホテル経営状況 90 (H 14. 3)
○ 県内ホテルの経営課題と改善に向けた方向性 90 (H 14. 3)
○ 2001・2002年度設備投資計画調査報告（2002年3月調査） 91 (H 14. 6)
○ データ解説 92 (H 14. 11)
平成13年度マイホーム新築資金利用者調査報告
平成13年度マンション購入資金利用者調査報告
○ 2001・2002年度設備投資計画調査報告（2002年9月調査） 93 (H 14. 12)
○ 2001年度ホテル経営状況 94 (H 15. 7)
○ 2002・2003年度設備投資計画調査報告（2003年3月調査） 95 (H 15. 8)
○ 2002・2003年度設備投資計画調査報告（2003年9月調査） 96 (H 16. 1)
○ 2003・2004年度設備投資計画調査報告（2004年3月調査） 97 (H 16. 6)
○ データ解説 98 (H 16. 7)
平成14年度マイホーム新築資金利用者調査報告
平成14年度マンション購入資金利用者調査報告
○ 2002年度ホテル経営状況 99 (H 16. 8)
○ 2003・2004年度設備投資計画調査報告（2004年9月調査） 100 (H 16. 11)
○ 2004・2005年度設備投資計画調査報告（2005年3月調査） 101 (H 17. 6)
○ 2004・2005年度設備投資計画調査報告（2005年9月調査） 102 (H 17. 11)
○ 2005・2006年度設備投資計画調査報告（2006年3月調査） 103 (H 18. 9)
○ 泡盛業界の現状と課題 104 (H 18. 10)
－最近の泡盛・もろみ酢の動向を中心に－
○ 2005・2006年度設備投資計画調査報告（2006年9月調査） 105 (H 18. 12)
○ 2006・2007年度設備投資計画調査報告（2007年3月調査） 106 (H 19. 9)
○ 2006・2007年度設備投資計画調査報告（2007年9月調査） 107 (H 19. 11)
○ バイオエタノールの現状 108 (H 20. 3)
－JETRO・ブラジルバイオエタノールミッション報告－
○ 2007・2008年度設備投資計画調査報告（2008年3月調査） 109 (H 20. 6)
○ 沖縄公庫取引先からみた新規開業の現状 110 (H 20. 7)
○ 2007・2008年度設備投資計画調査報告（2008年9月調査） 111 (H 20. 11)
○ 2007年度県内主要ホテルの稼動状況 112 (H 20. 12)
○ 2008・2009年度設備投資計画調査報告（2009年3月調査） 113 (H 21. 6)
○ 2008・2009年度設備投資計画調査報告（2009年9月調査） 114 (H 21. 12)
○ 沖縄県内ホテルのホスピタリティ向上への取り組み状況 115 (H 22. 3)
2008年度県内主要ホテルの稼動状況
○ 2009・2010年度設備投資計画調査報告（2010年3月調査） 116 (H 22. 6)
○ 2009年度県内主要ホテルの稼動状況 117 (H 22. 7)
○ 沖縄公庫取引先からみた新規開業の現状2010 118 (H 22. 9)
○ 2009・2010年度設備投資計画調査報告（2010年9月調査） 119 (H 22. 11)
○ 沖縄県内の「道の駅」と「農産物直売所」 120 (H 23. 4)
○ 2010・2011年度設備投資計画調査報告（2011年3月調査） 121 (H 23. 6)
○ 2010年度県内主要ホテルの稼働状況 122 (H 23. 7)
東日本大震災による県内主要ホテルへの影響
○ 2010・2011年度設備投資計画調査報告（2011年9月調査） 123 (H 23. 11)
○ 平成22年度 沖縄公庫教育資金利用者調査報告 124 (H 24. 4)

○ 2011・2012年度設備投資計画調査報告（2012年3月調査） 125 (H 24. 6)

○ 2011年度県内主要ホテルの稼働状況 126 (H 24. 10)
八重山主要ホテルの稼働状況

○ 2011・2012年度設備投資計画調査報告（2012年9月調査） 127 (H 24. 11)

○ 沖縄：新たな挑戦　経済のグローバル化と地域の繁栄 128 (H 25. 2)
世界の目を沖縄へ、沖縄の心を世界へ

○ OKINAWA: THE CHALLENGES AHEAD THRIVING LOCALLY 129 (H 25. 2)
IN A GLOBALIZED ECONOMY
"AS THE EYES OF THE WORLD FOCUS ON OKINAWA
OKINAWA OFFERS ITS HEART TO THE WORLD"

○ 2012・2013年度設備投資計画調査報告（2013年3月調査） 130 (H 25. 6)

○ 2012年度県内主要ホテルの稼働状況 131 (H 25. 9)

○ 2012・2013年度設備投資計画調査報告（2013年9月調査） 132 (H 25. 12)

○ 平成24年度　沖縄公庫教育資金利用者調査報告 133 (H 26. 5)

○ 2013・2014年度設備投資計画調査報告（2014年3月調査） 134 (H 26. 6)

○ 世界自然遺産登録を活かした奄美・琉球の地域活性化策 135 (H 26. 6)
（やんばる地域・西表島編）～持続可能な地域づくりに向けて～

○ 県内主要ホテルの動向分析 136 (H 26. 10)
第一部　2013年度県内主要ホテルの稼働状況
第二部　シティホテルの長期稼動状況からみた今後の取組
第三部　県内の宿泊特化型ホテルの動向分析

○ 2013・2014年度設備投資計画調査報告（2014年9月調査） 137 (H 26. 11)

○「人手不足の影響と人材確保の取組」に関する調査報告 138 (H 27. 4)

○「沖縄の6次産業化認定企業の現況と今後の取組」に関する調査報告 139 (H 27. 5)

○ 2014・2015年度設備投資計画調査報告（2015年3月調査） 140 (H 27. 6)

○ 沖縄公庫取引先からみた新規開業の現状2015 141 (H 27. 10)

○ 県内主要ホテルの動向分析 142 (H 27. 11)
第一部　2014年度県内主要ホテルの稼働状況
第二部　新石垣空港開港に伴う八重山地域主要ホテルの稼働状況

○ 2014・2015年度設備投資計画調査報告（2015年9月調査） 143 (H 27. 11)

○ 平成26年度　沖縄公庫教育資金利用者調査報告 144 (H 28. 3)

○「インバウンドの影響とその取組」に関する調査報告 145 (H 28. 3)

○ 2015・2016年度設備投資計画調査報告（2016年3月調査） 146 (H 28. 6)

○ 2015・2016年度設備投資計画調査報告（2016年9月調査） 147 (H 28. 11)

○ 県内主要ホテルの動向分析 148 (H 28. 12)
第一部　2015年度県内主要ホテルの稼働状況
第二部　沖縄県内主要ホテルの人手不足に関する調査報告

○「沖縄における若年雇用問題 －ミスマッチを生む意識構造の分析を中心に－ 」 149 (H 29. 2)
に関する調査報告

○ 定住・交流人口の維持・増加に向けた考察 150 (H 29. 5)
第一部　沖縄への移住意向に関する調査報告
第二部　沖縄の離島観光に関する意識調査報告

○ 2016・2017年度設備投資計画調査報告（2017年3月調査） 151 (H 29. 5)

○ 県内主要ホテルの動向分析 152 (H 29. 10)
第一部　2016年度県内主要ホテルの稼働状況
第二部　リーマンショック直前からの長期推移

○ 2016・2017年度設備投資計画調査報告（2017年9月調査） 153 (H 29. 11)

○ 拡大する沖縄経済の下で深刻化する人手不足 154 (H 30. 1)
～県内企業への影響と課題への対応～

○ 県内小規模企業実態調査報告 155 (H 30. 5)

○ 2017・2018年度設備投資計画調査報告（2018年3月調査） 156 (H 30. 6)

○ 教育資金と進学意識に関する調査結果 157 (H 30. 6)
第一部　平成28年度　沖縄公庫教育資金利用者調査
第二部　進学に対する親と学生の意識調査

○ 沖縄公庫取引先からみた泡盛メーカーの現状と課題について 158 (H 30. 7)

○ 2017・2018年度設備投資計画調査報告（2018年9月調査） 159 （H 30. 11）

○ 県内主要ホテルの動向分析 160 （H 31. 3）
第一部　2017年度県内主要ホテルの稼働状況
第二部　県内主要ホテルの改装動向

○ 2018・2019年度設備投資計画調査報告（2019年3月調査） 161 （R 1. 6 ）

○ 2018・2019年度設備投資計画調査報告（2019年9月調査） 162 （R 1. 11 ）

○ 2018年度県内主要ホテルの稼働状況 163 （R 1. 12 ）

○ 平成30年度　沖縄公庫教育資金利用者調査 164 （R 2. 3 ）

○ 2019・2020年度設備投資計画調査報告（2020年3月調査） 165 （R 2. 6 ）

○ 2019・2020年度設備投資計画調査報告（2020年9月調査） 166 （R 2.12 ）

○ 沖縄県内の物流需給バランスの現状と将来推計について 167 （R 3. 3 ）

○ 沖縄公庫取引先の事業承継に関する実態調査 168 （R 3. 3 ）

○ 2019年度県内主要ホテルの稼働状況 169 （R 3. 6 ）

○ コロナ禍における自治体経営の状況と今後の展望 170 （R 3. 6 ）

○「コロナ禍における旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項」に関する調査 171 （R 3. 6 ）
第一部 「コロナ禍における日本人旅行者の動向と沖縄が取り組むべき事項」
に関する調査報告
第二部 「コロナ禍における訪日外国人旅行者の意向と沖縄が取り組むべき事項」
～DBJ・JTBFアジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査
（2020年度　新型コロナ影響度　特別調査）より～

○ 2020・2021年度設備投資計画調査報告（2021年3月調査） 172 （R 3. 6 ）

○ 2020・2021年度設備投資計画調査報告（2021年9月調査） 173 （R 3. 10 ）

○ 2020年度県内主要ホテルの稼働状況 174 （R 3. 11 ）

○ 新型コロナウイルス感染症の県内景況に及ぼす影響について 175 （R 4. 2 ）

○ 令和2年度　沖縄公庫教育資金利用者調査 176 （R 4. 3 ）
第一部　令和2年度　沖縄公庫教育資金利用者調査
第二部　令和2年度　沖縄公庫教育資金利用者意識調査

○ ポストコロナ時代に向けた自治体経営の状況と今後の展望 177 （R 4. 5 ）

○ コロナ禍における日本人・訪日外国人の沖縄旅行に関する調査 178 （R 4. 5 ）
第一部　コロナ禍における日本人の沖縄旅行に関する調査(2021年版)
第二部　コロナ禍における訪日外国人旅行者の意向調査 【沖縄版】
～DBJ・JTBFアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査
(第2回 新型コロナ影響度 特別調査)より～

○「ポストコロナ時代における沖縄観光のあり方」に関する調査 179 （R 4. 6 ）
～これからの“旅行牽引世代”の意向を踏まえた観光（観光地）とは～

○ 2021・2022年度設備投資計画調査報告（2022年3月調査） 180 （R 4. 6 ）

○ 2021・2022年度設備投資計画調査報告（2022年9月調査） 181 （R 4. 11 ）

○ 2021年度県内主要ホテルの稼働状況 182 （R 5. 1 ）

○ ポストコロナ時代における沖縄観光の二次交通に関する調査 183 （R 5. 6 ）
～レンタカーを利用しない観光客のニーズから考える移動手段～

○ コロナ禍からの再始動に向けた日本人・訪日外国人の沖縄旅行に関する調査 184 （R 5. 6 ）
第一部　コロナ禍における日本人の沖縄旅行に関する調査（2022年度版）
第二部　訪日外国人旅行者のサステナブルツーリズムへの意向と沖縄観光について

公 庫 レ ポ ー ト

令和５年６月発行

編集兼発行者　大西　公一郎
発　　行　　所　沖縄振興開発金融公庫
調査部　地域連携情報室
那覇市おもろまち１丁目２番26号
電話(098)941-1853
FAX(098)941-1920
URL　https://www.okinawakouko.go.jp
印　　刷　　所　有限会社ふたば印刷

本レポートは再生紙を使用しています。

沖縄振興開発金融公庫
THE OKINAWA DEVELOPMENT FINANCE CORPORATION